

# 益子町歴史文化基本構想

2017年1月  
益子町教育委員会



# 目 次

## 第1章 益子町歴史文化基本構想策定の概要

### 1. 益子町歴史文化基本構想策定の経緯

- 1-1 益子町歴史文化基本構想策定の背景と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 1-2 基本構想策定にいたるまでの経過、調査・検討の流れ・・・・・・・・・・ 1
- 1-3 実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 1-4 策定委員会・個別ヒアリングの経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

### 2. 基本構想の位置付け

- 2-1 上位計画の中での位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2-2 関連計画及び事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2-3 基本構想の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

## 第2章 益子町の概要と歴史文化遺産の現況

### 1. 益子町の概要

- 1-1 立地と交通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 1-2 益子町の自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 1-3 益子町の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 1-4 社会的状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

### 2. 文化財および歴史文化に関わる施策等

- 2-1 組織・体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- 2-2 歴史文化に関わる施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- 2-3 歴史文化に関わる施策及び事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- 2-4 歴史文化に関わる町民等の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
- 2-5 歴史文化に関わる町民意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

## 第3章 益子町の歴史文化の特性と保存・活用の課題

### 1. 益子町の歴史文化

- 1-1 自然の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
- 1-2 歴史の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
- 1-3 暮らしと文化の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- 1-4 益子町の歴史文化特性のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

### 2. 益子町の歴史文化遺産

- 2-1 文化財および歴史文化に関わる調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
- 2-2 指定文化財・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
- 2-3 未指定文化財・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
- 2-4 地域ごとの文化財の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

### 3. 歴史文化保存・活用の課題

- 3-1 保存・活用の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
- 3-2 調査研究の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
- 3-3 体制上の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

## 第4章 歴史文化保存・活用の方針

1. 基本理念と目標	
1-1 基本理念	67
1-2 基本目標	67
2. 歴史文化を活かした町づくり	
2-1 歴史文化特性に基づくテーマ	68
2-2 町づくりに活かすための方向性	68
3. 文化財の保存・活用	
3-1 保存・活用の方向性	73
3-2 関連文化財群	74
4. 歴史文化保存活用区域	
4-1 設定の考え方	78
4-2 歴史文化保存活用地区	80
4-3 拠点資産	88

## 第5章 実施に向けての検討

1. 今後の事業展開（進め方）について	91
---------------------	----

## 巻末資料

未指定文化財リスト	92
-----------	----

# 例 言

1. 本書は、平成27年度から平成28年度にかけて実施した調査成果を、益子町歴史文化基本構想としてまとめたものである。
2. 本書策定事業は、「益子町歴史文化基本構想策定委員会」を設置し、各専門分野の先生方に委員を委嘱してその意見を拝聴し、また文化庁、栃木県教育委員会の指導と関係部局・関係機関等の助言を受けながら実施した。
3. 本書の編集、執筆は益子町生涯学習課と株式会社文化財保存計画協会が共同して行った。本書に掲載した写真の一部は関係部局・関係機関等の撮影によるものも借用した。



# 第1章 益子町歴史文化基本構想策定の概要

## 1. 益子町歴史文化基本構想策定の経緯

### 1-1 益子町歴史文化基本構想策定の背景と目的

益子町は、西明寺三重塔や楼門など中世に建立された7つの国指定有形文化財のほか、中世の城跡など、数多くの貴重な有形文化財を有している。また、町内各集落には神楽、獅子舞などの民俗芸能や江戸期に描かれた歌舞伎舞台背景襖絵、祭礼で使用する彫刻屋台などの有形・無形の民俗文化財も数多く継承されている。

さらに、益子焼に代表される焼き物のふるさとであるとともに、藍染めや鍛冶、木工など手仕事のふるさととして主に江戸期から様々な生業が発展した。近代になってからは益子焼の発展に尽くしその繁栄の礎を築いた濱田庄司が柳宗悦とともに民藝運動を起こし、益子町の歴史の中で培ってきた手仕事の文化とその精神を広く内外に普及させた。

未来に向けた益子町のまちづくりにおいて、文化財が町のかげがえのない資源であるという認識に立って保存・継承に取り組むことはもちろんのこと、町民自らがこれら文化財に潜在する様々な価値に気づき、地域力によって暮らしの中に生かしながら、文化の継承、観光の振興、地域の活性化を一体的に進めていくことが急務であると考えます。

このことから、益子町歴史文化基本構想（以降「基本構想」という）は、益子町内の指定・未指定を問わず広く文化財の総合的な把握を行うとともに、益子町の風土を活かして総合的に保存・活用していくための考え方・方針等を定めることを目的とするものである。

### 1-2 基本構想策定にいたるまでの経過、調査・検討の流れ

上記目的を達成し、益子焼に代表される焼き物のふるさとに新たな魅力を加え、町内外に発信するために、まず近隣自治体などから策定方法などの情報やアドバイスをいただくほか、町内外の有識者で組織された益子町歴史文化基本構想策定委員会（以降「策定委員会」という）を立ち上げた。以降は策定委員会を計4回実施し基本構想の内容について検討しまとめた。また、多くの専門家から個別に益子町の歴史文化に関するヒアリングを実施する中で、その特性や保存・活用についてまとめる作業を行った（第1章1-4参照）。

基本構想は歴史文化に関する現状と今後の保存・活用計画に大別される。前者については指定・未指定を問わず文化財の悉皆調査を行う必要があり、町では『益子町史』（第1巻～第6巻、別巻）などの既存発行物や地域住民とともに、「文化財探検隊」を実施して文献調査で得られた情報をもとに現地確認調査を行うほか、土祭<sup>ひじさい</sup>2015の開催に合わせて平成26年10月から翌年9月まで実施された「益子の風土・風景を読み解くプロジェクト」で得られた情報などをもとに現状把握を行った（調査については第3章2-1参照）。

### 1-3 実施体制

基本構想策定にあたり、益子町生涯学習課が事務局となり、地域住民及び学識経験者からなる策定委員会を組織した。また、策定委員会では栃木県及び益子町関係部署からも出席いただき、指導を仰いだ。

#### 【益子町歴史文化基本構想策定委員】

委員長	日下田 正	町文化財保護審議会会長、元栃木県手仕事会会長
副委員長	平野 良和	栃木県民藝協会会長、前益子町長
	大澤 伸啓	足利市生涯学習課長
	松本 一夫	前栃木県芳賀青年の家所長、県立上三川高校校長（～平成28年3月）
	江田 郁夫	栃木県立博物館学芸部長（平成28年5月～）
	星 直斗	栃木県立博物館学芸部自然課主任研究員（平成28年5月～）
	廣田 茂十郎	益子町議会議長
	横堀 聡	益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子副館長、益子町文化財保護審議会委員
	鈴木 英之	観光ボランティアガイドましこ会長、益子町文化財保護審議会調査委員
	添谷 玉枝	益子町文化財保護審議会調査委員
	山口 孟	住民代表、前益子町文化財保護審議会会長

#### 【指導機関】

栃木県文化財課

栃木県立博物館

栃木県窯業技術支援センター

栃木県東環境森林事務所

栃木県芳賀農業振興事務所

栃木県真岡土木事務所

益子町教育長 岡 良一郎

益子町産業建設部長 高野 貞夫

益子町環境課長 櫻井 弘美（平成27年度）／仁平 勝雄（平成28年度）

益子町建設課長 大関 保

益子町観光商工課長 高濱 文夫

益子町農政課長 河原 平

益子町企画課長 萩庭 正幸（平成27年度）／日下田 純（平成28年度）

#### 【事務局】

益子町生涯学習課長兼中央公民館長 加藤 友之

益子町生涯学習課文化係長 高塩 悦子

益子町生涯学習課文化係 菊井 和美

益子町生涯学習課文化係 坂倉 永悟

コンサルタント ㈱文化財保存計画協会

## 1-4 策定委員会・個別ヒアリングの経過

策定委員会を平成27年度から平成28年度にかけて計4回開催した(表1-1参照)。また、策定委員会とは別に、個別に委員や専門家、町の歴史文化に関わる活動を行う町民等計18名から、益子町の歴史文化の特性や保存・活用について個別ヒアリング(表1-2参照)を実施した。

表1-1 策定委員会概要

実施日	策定委員会	内容
平成27年 12月18日	第1回	○委嘱状交付、委員紹介、委員長・副委員長の選出 ○基本構想等の概要説明 等
平成28年 2月23日	第2回	○益子町の歴史文化の概要と特性 等
平成28年 8月2日	第3回	○個別ヒアリングについて(報告) ○歴史文化のテーマと関連文化遺産群 ○歴史文化の保存・活用の課題 ○歴史文化保存活用計画 等
平成28年 11月24日	第4回	○益子町の歴史文化の保存と活用 ○益子町歴史文化基本構想(最終案)

表1-2 個別ヒアリング概要

実施日	対象者(敬称略)	内容
平成28年 3月11日	廣瀬 俊介(風土形成デザイナー) 簗田 理香(土祭事務局)	○益子の風土・風景を読み解くプロジェクトについて ○土祭について ○益子の歴史文化の特性について
平成28年 3月17日	松本 一夫(前掲)	○益子の歴史文化の特性について(特に中世史)
平成28年 5月19日	大澤 伸啓(前掲)	○益子の文化財について ○益子の歴史文化の特性について
平成28年 5月19日	橋本 澄朗(栃木県考古学会長)	○益子の歴史文化の特性について ○日本遺産のテーマについて
平成28年 6月9日	日下田 正(前掲) 平野 良和(前掲)	○濱田庄司、民藝について
平成28年 6月24日	横堀 聡(前掲) 水沼 利広(栃木県窯業技術支援センター長) 塚本 準一(前栃木県窯業技術支援センター長)	○益子の焼き物について
平成28年 7月5日	江田 郁夫(前掲)	○益子の歴史文化の特性について(特に中世史)
平成28年 7月5日	星 直斗(前掲)	○益子の自然について
平成28年 9月9日	中山 正夫(町民代表/小宅古墳群整備に尽力) 大岡 忠男(町民代表/七井夏祭り復活に尽力) 黒子 善久(町民代表/上大羽地区づくりに尽力)	○益子の歴史文化の保存と活用について
平成28年 9月17日	廣田 茂十郎(前掲) 鈴木 英之(前掲) 添谷 玉枝(前掲)	○益子の歴史文化の保存と活用について

## 2. 基本構想の位置付け

### 2-1 上位計画の中での位置づけ

益子町の総合振興計画である「新ましこ未来計画」（平成28年度～32年度）では、「“ましこならでは”の住みたい価値をつくる」ことを目的に5つの基本目標が定められている。

その中では、室町時代中後期の建造物である7つの国指定重要文化財や数多くの伝統文化、自然が織りなす風景、民藝運動の拠点の地であるなど、様々な町の魅力を資産として捉えている。それらを発掘・再認識し、さらに町内外へ向けて積極的に発信することを課題とし、「地域資産を蓄積する」ことを基本目標4に掲げている。基本目標達成のための政策として、「政策（1）歴史や文化財、風土の活用と継承」の中で、基本構想の策定と、日本遺産への申請・登録が位置付けられている。

「益子町歴史文化基本構想」は益子の歴史文化を地域資産として総合的に把握し、保存・活用していくための基本構想である。

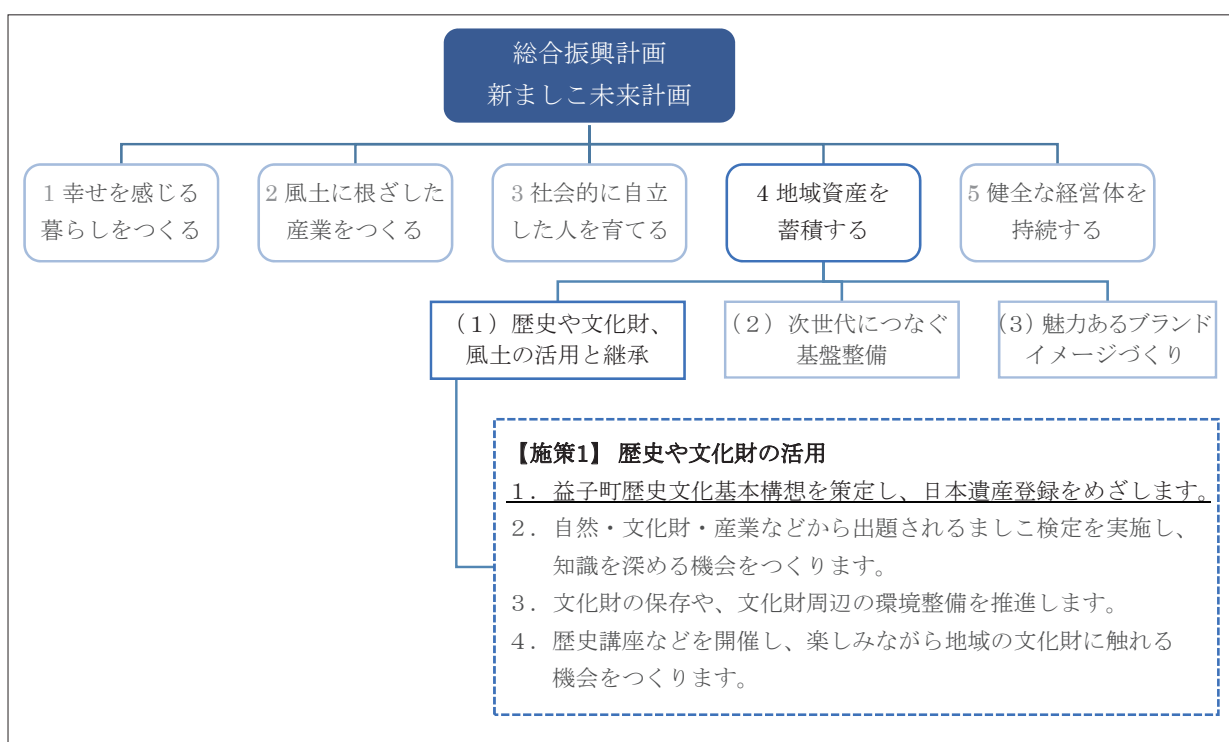


図 1-1 基本構想の上位計画の中での位置づけ

2-2 関連計画及び事業

歴史文化に関連する計画及び事業としては、以下のものが挙げられる。

- ・ 益子町第2次環境基本計画 平成25年4月～平成35年3月
- ・ 益子町森林経営計画 平成26年3月～平成31年2月
- ・ 益子農業振興地域整備計画 平成24年9月 策定
- ・ 益子町農村活性化計画（益子町農村地区）平成26年4月～平成30年3月
- ・ 地域再生計画  
道の駅を核とした小さな拠点整備事業 平成27年6月～平成29年3月
- ・ 益子町都市計画マスタープラン 平成26年4月～平成45年3月
- ・ 都市再生整備計画（まち交） 平成26年4月～平成30年3月
- ・ 農業農村を元気にするまちづくり事業 平成26年4月～平成28年3月
- ・ 土祭実行委員会交付金事業 平成21年4月～平成29年3月※以降も継続の見込

また、上位計画である「新ましこ未来計画」において示される施策の中で、基本構想に関連するものは以下のものが挙げられる。

表 1-3 「新ましこ未来計画」における関連施策

施策	具体的行動
政策 1-2 住みよい持続可能なましこの創生	
施策 1 豊かな自然景観の形成と 身近な生活空間の整備	1 里山整備への人材あっせんや費用補助
	2 農地に隣接した里山・通学路などの環境整備
	3 地域で取り組む水辺の保全活動の支援
	4 前沢町有林の遊歩道の延長・山頂整備
	5 花のまちづくり
政策 1-3 健康・長寿ましこづくりの推進	
施策 2 食事を通じた健康づくりの推進	4 地域での伝承（郷土）料理を普及
政策 2-1 成長産業としての農業の確立	
施策 1 農業生産体制の整備	1 町独自の農地バンク制度づくり
	2 UIJ ターンで農業が選択される取組
	3 集落営農組織の育成・企業誘致
	4 畑地帯総合整備事業
施策 2 地域農産物の販路開拓	1 道の駅を拠点に、農産物の生産体制とインターネットによる販売体制の支援
	2 道の駅を拠点に、農業と観光業の連携による都市住民との交流拡大
	3 道の駅を拠点に、益子産のそば、小麦を使用した商品開発
	4 6次産業化の支援
	5 食卓や学校給食及び飲食店での地元農産物の利用の促進
	6 「はが野」の農産物のブランド化
	7 販路開拓
政策 2-2 スモールビジネスの推進と起業支援による産業づくり	
施策 1 商店の活性化と起業支援の充実	1 ましこの工芸をいかした空き店舗の利用推進
	2 企業への指導・支援、後継者育成のためのセミナーの開催、融資制度
	4 利用可能な空き店舗情報・求人情報・起業支援情報などを集約・紹介
施策 2 ものづくりの育成・支援	1 ブランド商品認定制度の確立・販路拡大
	2 手仕事人材バンクを設置、作家や工芸品の情報を一元化し町内外へ情報提供
	3 インキュベーションセンターの設立 ものづくりの人材育成や研究開発などの支援
	4 他の工芸の産地と協力した手仕事や伝統工芸品の PR

施策	具体的行動
施策 3 「世界一」人が集う 焼きものの町づくり	1 他業種と連携した益子焼などを使った商品開発 技術者とデザイナーとのコラボレーション商品化の支援
	2 益子焼を使おう条例の制定
	3 道の駅を拠点に、益子焼などの工芸品を暮らしに取り入れられるよう推進
	4 益子国際工芸交流館を拠点に、世界中から焼きものを学びに来る仕組み作り
	5 窯業技術支援センターでの人材育成の支援
	6 益子芳星高校で行われている益子焼（陶芸）の授業などに協力
政策 2-3 観光の基幹産業化	
施策 1 観光客誘客の拡大	1 DMO の設立も見据えた観光戦略会議の設置
	2 宿泊して楽しめるプログラムの設定、ラーニングパッケージの充実
	3 観光客の町内での移動の利便性向上 レンタサイクル借り受け・乗り捨て場所の整備及び連携強化
	4 民泊・ゲストハウスなどの環境づくりの支援
	5 各種観光パンフレットなどを統合したわかりやすい情報誌の作成
	6 土祭などのイベントの拡充・民間主導のイベントの支援
	7 益子大使を委嘱、観光 PR 活動
施策 2 外国人観光客の誘客	1 栃木県国際観光推進協議会と連携強化、受入協力体制の構築
	2 外国人が町内で観光情報が閲覧できるよう、Wi-Fi の環境整備の支援
	3 多言語に対応した案内看板・パンフレットなどの整備
	4 国道 121 号線などを使った観光ルートづくり
政策 3-1 未来にはばたく人財の育成	
施策 2 学びを通して社会に 貢献できる人財の育成	2 小・中学生の友好都市・姉妹都市との相互国際交流事業
施策 4 人財が育つ環境づくり	1 ましこ町民大学を開校し、まちづくりの核となる町民学士の育成 2 自然・文化財・産業などから出題されるましこ検定を実施
政策 4-1 歴史や文化財、風土の活用と継承	
施策 1 歴史や文化財の活用	1 益子町歴史文化基本構想の策定、日本遺産登録
	2 自然・文化財・産業などから出題されるましこ検定の実施
	3 文化財の保存や、文化財周辺の環境整備の推進
	4 歴史講座などの開催
施策 2 風土や風景、風習の継承	1 ましこ世間遺産認定制度の新設
	2 ましこアカマツ復活プロジェクト
	3 地域の祭りや風習を記録・保存、各種イベントなどを通して町内外へ発信
政策 4-2 次世代につなぐ基盤整備	
施策 1 ましこのランドスケープ デザインの作成	1 町内の回遊性を高める道路整備
	3 長期的な景観づくり、景観条例の制定
施策 2 特性をいかした地域創生	2 雨巻山、円道寺池、小宅古墳群、大郷戸ダムなどの周辺整備 周遊観光、トレッキングができるルートづくり
	3 小貝川サイクリングロードの整備
	4 益子の森の遊具や施設の整備
	5 歩行者や自転車を優先に考えた道路、街並みに配慮した観光ルートづくり
政策 4-3 魅力あるブランドイメージづくり	
施策 1 町のブランドイメージの確立	1 全町的なブランド戦略会議の設置
	3 各種イベントを通して、ましこを愛する人を増やす
	4 トップセールスや映像、メディアなどを利用した国内外プロモーション
政策 5-3 町民主体のまちづくり	
施策 1 公共サービスの新しい 担い手への支援	1 町民団体や社会的企業の担い手である活動家や社会起業家を発掘・育成
	2 町民団体や社会的企業の資金調達の環境整備・ビジネススキル向上などの支援
施策 2 地域の「ちから」の結束への支援	2 既存組織（自治会・育成会・いきいきクラブなど）の強化・新たな組織づくりの支援



### 2-3 基本構想の構成

基本構想は、策定の概要をまとめた第1章、益子町の概要と歴史文化遺産の現況をまとめた第2章、歴史文化の特性と保存活用の課題をまとめた第3章、歴史文化保存活用の方針をまとめた第4章、実施に向けての検討をまとめた第5章によって構成される。それぞれの章の概要は次の通りである。

#### (1) 第1章 基本構想策定の概要

基本構想を策定するまでの背景と目的、経緯をまとめるとともに、益子町行政の関連計画や事業をまとめ、基本構想の位置づけを示した。

#### (2) 第2章 益子町の概要と歴史文化遺産の現況

益子町の立地や交通、自然、歴史、現在の社会的状況、益子町行政の中でも文化財および歴史文化に関わる体制や施策をまとめた。また、歴史文化に関わる町民の活動や意識についても調査を行い、結果をまとめた。

#### (3) 第3章 歴史文化の特性と保存活用の課題

第2章の益子町の概要から導き出される町の歴史文化の特性についてまとめた。また、文化財および歴史文化に関わる調査で得られた町の歴史文化遺産をまとめ、その保存活用の現状と課題について示した。

#### (4) 第4章 歴史文化保存活用の方針

歴史文化保存活用のための基本理念を示し、歴史文化を生かした町づくりと文化財の保存活用の方針を示した。第3章で示した歴史文化の特性から導き出される4つのテーマ《歴史の里ましこ》《工芸・芸術の里ましこ》《祭りと芸能の里ましこ》《みどりと土の里ましこ》を設定し、テーマごとの構成資産と関連文化財群を抽出した。また、歴史文化保存活用区域を設定して、より具体的な保存活用の方向性を示した。

#### (5) 第5章 実施に向けての検討

第4章でまとめた歴史文化保存活用を実施していくための事業展開や今後の課題についてまとめた。

## 第2章 益子町の概要と歴史文化遺産の現況

### 1. 益子町の概要

#### 1-1 立地と交通

益子町は栃木県の南東部に位置し、東は茂木町、北は市貝町、西が真岡市、南は茨城県桜川市（旧岩瀬町）と境を接する県境の町である。

関東平野の北東部に所在する当町は、栃木県と茨城県の境に南北に横たわる八溝山地の南部に位置する鶏足山塊に属する山地と丘陵が大勢を占める。町域の東寄りには標高 533.3m の雨巻山を最高峰とし、高館山、芳賀富士などがそびえる。また、町域の西部を南流する小貝川の流域には台地や低地が所在し、市街地を形成している。

交通に関しては、JR 水戸線下館駅から分岐して真岡市から当町を経て茂木町へと向う、第三セクター真岡鐵道が町の西部を南北に延び、「益子駅」「七井駅」が立地する。また、これと並行するように走る国道 294 号線は福島県会津若松市から茨城県筑西市を通り千葉県柏市へ通じる主要交通路である。他、国道 121 号、国道 123 号等により県都宇都宮市、真岡市との連絡機能を確保し、広域交流の軸となる北関東自動車道への良好なアクセスを有する。

バスは、東野バスによる益子市街地～七井市街地～東武宇都宮駅を結ぶ 1 系統の他、広域の交通手段として東京・秋葉原方面と連絡する高速バス（関東やきものライナー）が民間により運行している。町内は、小学校の統廃合に伴う学区の拡大により 3 つの小学校（益子・七井・田野）で各 2 コースのスクールバスが運行する他、デマンドタクシー（通称ひまわり号）が新たな公共交通システムとして平成 24 年（2012）10 月より運行が開始された。

また、平成 28 年（2016）10 月に道の駅ましこがオープンし、新たな交流の拠点施設として期待されている。



図 2-1 益子町位置図



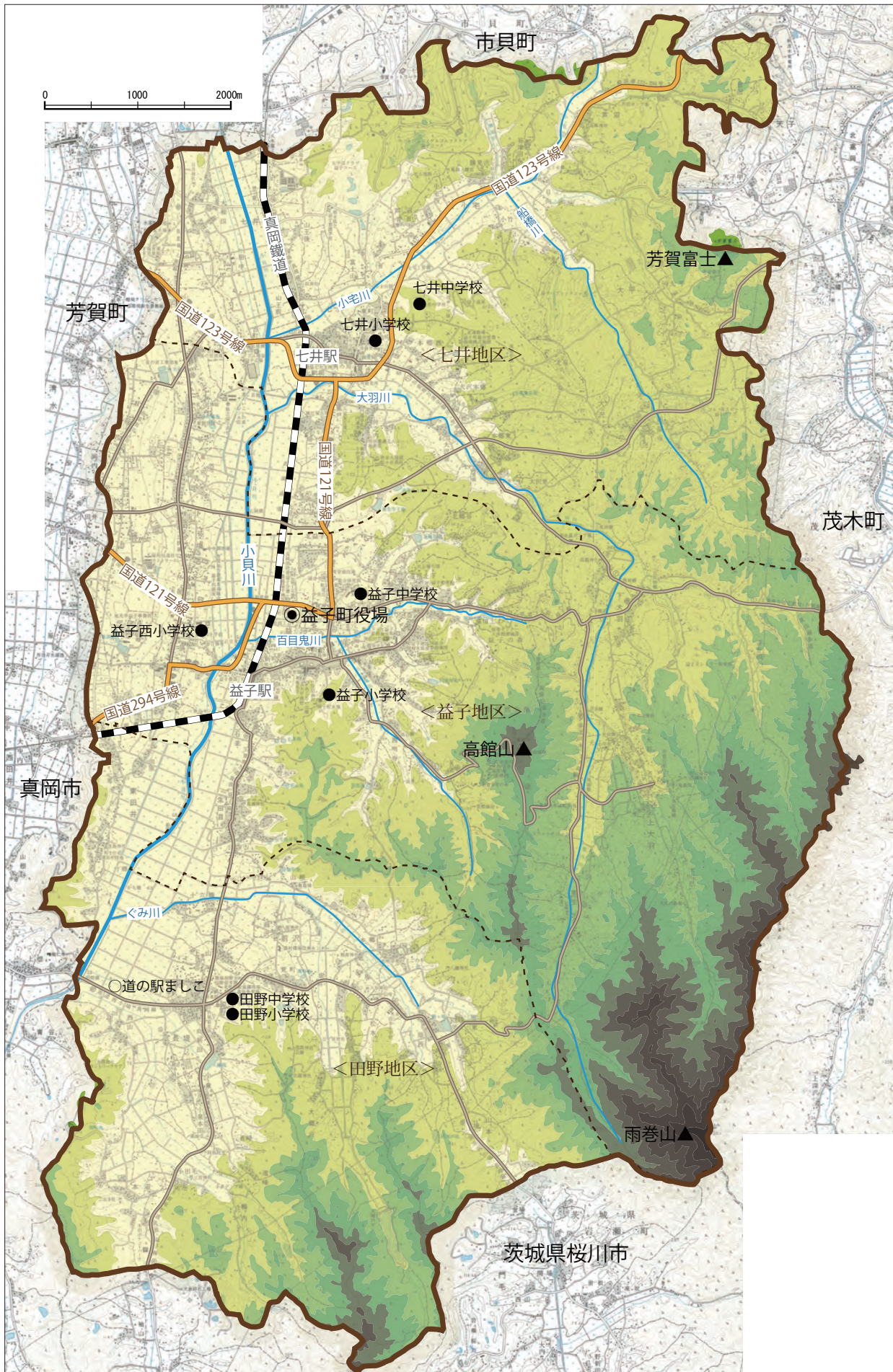


図 2-2 益子町全体図



## 1-2 益子町の自然

### (1) 気象と地形

益子の地形は、形成年代順に山地・丘陵地・台地・低地に分類できる。町の東半分を占める八溝山地地域は、南部に高く 400～500 メートル北に高度を減じている。この南部が高い雨巻山等の山地に梅雨期の南方からの湿った風が遮られるため、益子町は梅雨の降水量が栃木県内で最も少ない地域となっている。

これらの山地から流れる河川は、町の西部を南流する小貝川に注いでいる。大羽川を除けばいずれも流域面積が小さな河川である。梅雨の雨量の少なさと河川の流域面積の小ささが、益子に農業灌漑用の溜池を数多く発達させたと考えられる。八溝山地の周辺に、標高 120 メートル～130 メートルの高さの揃った丘陵地が広がる。また、小貝川の流域、特に右岸の星の宮・塙などには、稲毛田台地に一括される平坦地が広がっている。

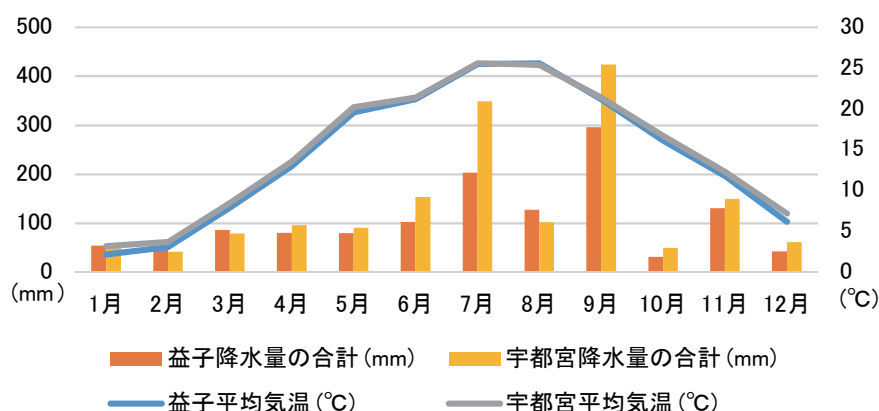


図 2-3 月別降水量と平均気温（益子と宇都宮（平成 27 年））/ 気象庁「過去の気象データ」を基に作成

### (2) 植生

栃木県の植生にはヤブツバキクラス域（暖温帯の植生域）からブナクラス域（冷温帯の植生域）に移行する地域が見られ、益子町を含む県南部はヤブツバキクラス域の北限に近い地域となっている。

益子町の植生は、山間部がコナラ林やアカマツ林（いずれもヤブツバキクラス域の代償植生）となっており、国有林部分を中心にスギ・ヒノキ・サワラ植林（植林地、耕作地植生）が形成されている。コナラ林やアカマツ林は、人との関わり合いの中で形成されてきた二次林であり、益子町では田んぼと共に里山を構成する代表的な植生である。また、それら二次林は益子の人々の暮らしの中で薪や落ち葉等から作る堆肥の供給場所として親しまれてきた。アカマツは発熱量が大きく、益子焼の焼成燃料として適した特性を備えている。

一方、高館山や雨巻山には自然度の高い植生が存在することが知られている。高館山付近では、西明寺境内に暖温帯の代表的な植生であるスダジイ林やアラカシ林の自然植生が残されている。一方、標高 302 m の高館山や 533 m の雨巻山の山頂部では、関東地方では、通常標高 800 m 以上に見られる冷温帯の植物であるブナの個体群が存在する。高館山頂付近では部分的にブナとスダジイの混生が見られ、全国的にも非常に珍しい例となっている。

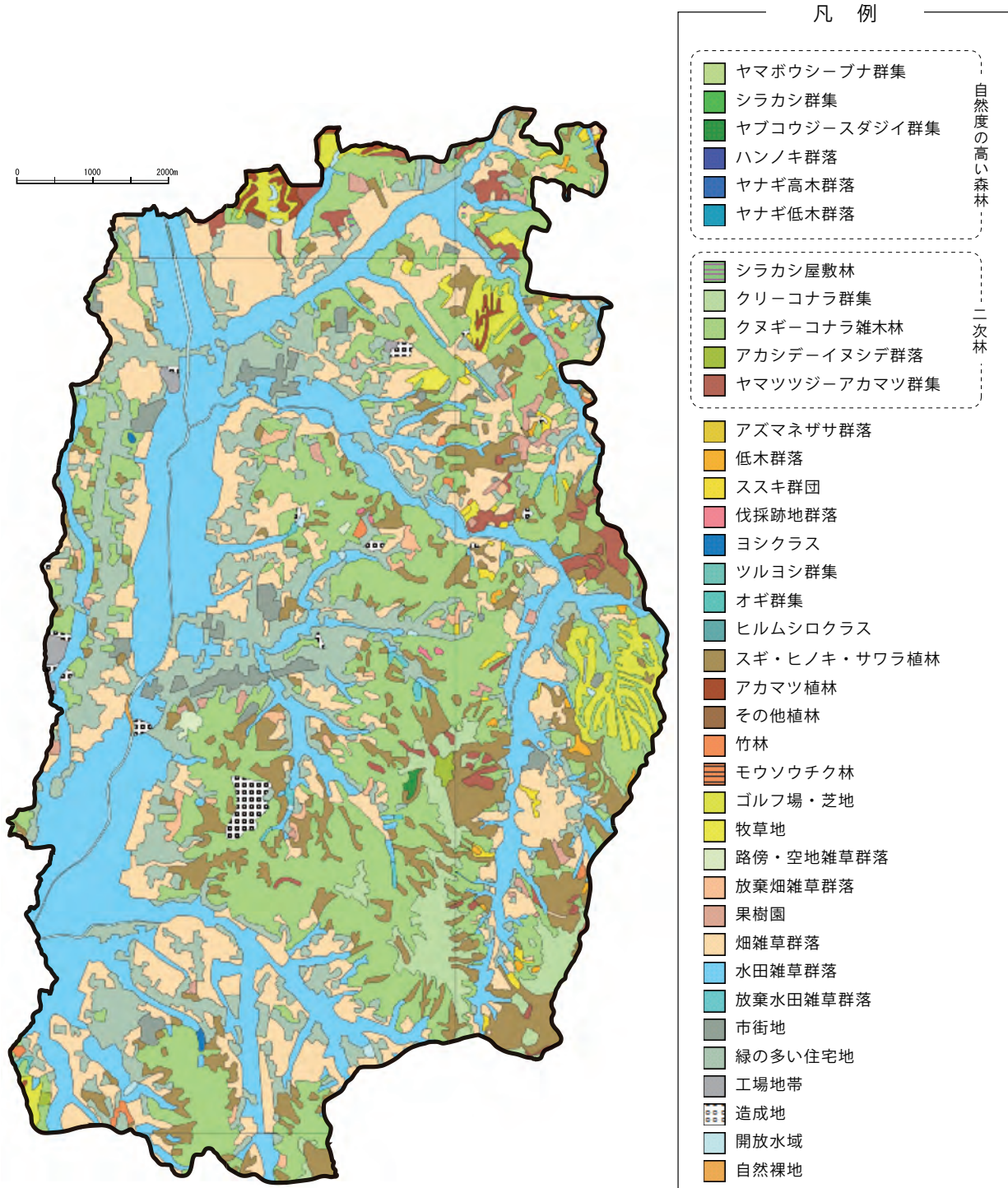


図 2-4 益子町植生図 /1/25,000 植生図 GIS データ（環境省生物多様性センター）を基に作成

### (3) 地質

益子町の地質は、大平地内より南の山地に砂岩、砂岩泥岩互層、泥岩、チャート等からなる古い地層が分布する。これらの地層は約1億5000万年前の中世代ジュラ期のものであることが、発掘された化石から確認されている。町北部から茂木町方面にかけて、新生代新第三紀の凝灰岩や凝灰角礫岩が中生層に不整合に分布している様子が見られる。この凝灰岩が芦沼石と呼ばれ、昭和20年代までは大谷石のように建材として採掘されていたが、現在では専ら益子焼の釉薬の原料として採掘されている。また、北部の丘陵地には、新生代第四紀更新世中頃の砂や粘土を含む礫層が分布している。地質学上は境林礫層と呼ばれる丘陵をつくる地層で、この礫層中の粘土が益子焼の陶土となった。新福寺の陶土採掘地では約3mを超える厚い粘土層が存在する。

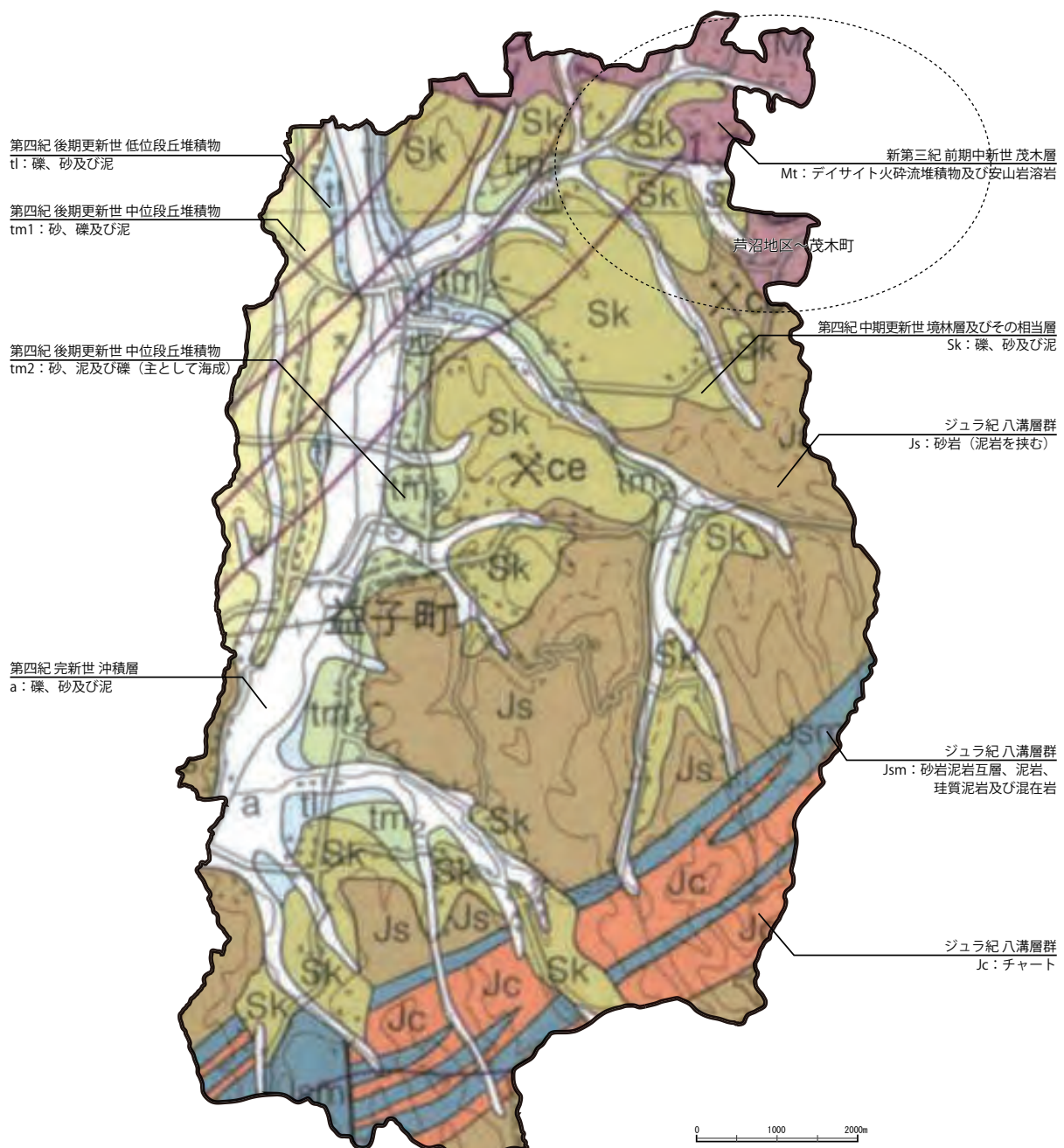


図 2-5 益子町地質図 /20 万分の 1 地質図幅「宇都宮」(地質調査総合センター) を基に作成



### 1-3 益子町の歴史

#### (1) 古代

##### ①旧石器時代～弥生時代

現在、益子町で発見されている最古の遺跡は旧石器時代の終末期に属するものである。埴遺跡や星の宮遺跡から旧石器時代の終末期に属する石器が出土している。

縄文時代には丘陵上に狩猟・採集の生活を行い血縁関係の家族が数軒集まって生活を営んでいた。平成11年県営広域農道線（宇都宮・笠間線と芳賀広域農道）の建設に伴い発掘調査が行われた御霊前遺跡では、堅穴住居跡18軒や袋状土坑が確認され数多くの縄文土器や土偶等が出土した。調査区は集落の一部であり、かなり大規模な集落であったと推測できる。山本地区にも山居台遺跡という土器片が多数発見されている大規模な遺跡が確認されている（『益子町史』には20数件掲載）。

稲作農耕が広まった弥生時代の遺跡は栃木県内では発掘例が少ないが、益子町では生田目地区の車堂遺跡や長堤地区の長堤遺跡から堅穴住居や弥生土器、土製紡錘車が出土しており、県内で貴重な遺跡となっている。

表2-1 旧石器時代～弥生時代の主な遺跡

名称		概要
旧石器時代	埴遺跡	益子西小学校の北側丘陵上に立地。約14000年前の石器（尖頭器、ナイフ形石器、石錐）や石核が出土。
	星の宮遺跡	アプローズ益子周辺の丘陵上に立地。約13000年前の石器（削器、細石刃）や石核が出土。
縄文時代	御霊前遺跡	平成10年（1998）県営広域農道整備事業として発掘調査。御霊神社の南側丘陵上に立地。5000年～2500年前の集落で、堅穴住居跡18軒や袋状土坑が確認され数多くの縄文土器や土偶等が出土。縄文時代の大集落であったと推測される。
	山居台遺跡	旧山本小学校南側の丘陵全体に広がる遺跡。町史編纂事業に伴って昭和59年（1984）に丘の頂上部の発掘調査が行われ、堅穴住居、土坑が確認され、多くの縄文土器や石器が発見された。周辺から採取された土器等より、多少の中断はあったが、縄文時代全般にわたって集落が営まれていたと考えられる。
	聖ヶ丘遺跡	益子中学校の校庭を中心に広がる遺跡。昭和36年（1961）新校舎建設に伴う造成工事で多くの縄文土器が出土した。
弥生時代	車堂遺跡	昭和58年（1983）町史編纂事業に伴って発掘調査が行われ、堅穴住居3軒と、多くの弥生土器、土製紡錘車が出土した。
	長堤遺跡	昭和50年（1975）道路新設工事に伴って発掘調査。長堤地区にあり、水田面より約3mほど高く北西に延びる舌状の低位台地上に立地。縄文～歴史時代の重複遺跡であり、弥生時代の遺構は住居跡3軒と多くの土器片が出土。

## ②古墳時代

古墳時代には小宅古墳群や荒久台古墳群、向北原古墳群等、多くの古墳が造られた。大型方形周溝墓が見つかった向北原遺跡と、上方から埋葬した円墳、横から埋葬する小宅古墳群は継続性が想定される。浅間塚古墳（全長約 52 m）は、前方後方墳であり古墳時代初期の 4 世紀後半という古い年代であることから県指定史跡に指定されている。この他、前方後円墳や円墳が 7 世紀前半頃まで益子町各地に築造されたと考えられる。益子町史には前方後円墳 16 基、前方後方墳 1 基、円墳 175 基とあり、県内でも多い部類に入る。また、集落跡でも堅穴住居跡 6 軒が確認された田野中学校校庭内遺跡を確認している。

表 2-2 古墳時代の主な遺跡

名称	概要
浅間塚古墳 (県指定史跡)	県立益子芳星高校の校庭の南側に所在。全長約 52 m、前方部高さ 4 m の前方後方墳。益子町で初期に造られた古墳であると考えられる。
入定塚古墳 (県指定史跡)	円通寺一切経塔の南西約 50 m の丘陵上にある全長約 60 m の古墳。
小宅古墳群 (県指定史跡)	亀岡八幡宮から南西にかけての丘陵上に所在。前方後円墳 6 基、円墳 29 基（内 9 基は削平）からなり、そのうち 18 基（内 1 基は削平）が県指定史跡となっている。
荒久台古墳群	前方後円墳 1 基、円墳 17 基が現存。
天王塚古墳 (町指定史跡)	荒久台古墳群の中心的な古墳。全長約 43 m の前方後円墳で、昭和 29 年（1954）から昭和 30 年（1955）にかけて行われた発掘調査で鏡や環頭大刀、馬具等多くの副葬品が出土した。
風戸塚古墳 (県指定史跡)	風戸公民館の南西約 150 m に所在する直径 38 m の円墳。
古聖古墳群	益子中学校の東側にある群集墳。前方後円墳 1 基、円墳 15 基が現存。
新田山古墳群	長堤字新田山にあり、前方後円墳 1 基、円墳 2 基からなる。このうち円墳 1 基は、芳賀地方では初めて埴輪が並べられた古墳で、5 世紀後半に造られたと考えられる。
西坪古墳群	小宅古墳群の近辺に所在。前方後円墳 1 基、円墳 3 基が現存。
向北原古墳群	小宅古墳群の近辺に所在。前方後円墳 3 基、円墳 6 基が現存。
日向古墳群	小宅古墳群の近辺に所在。円墳 7 基が現存。
向北原遺跡	七井字向北原にあり、昭和 48 年（1973）にゴルフ場造成に伴い発掘調査が行われた。堅穴住居 16 軒が確認され、使われなくなった住居跡を再利用して造られた方形周溝墓 8 基（内 1 基は 1 辺 25 m）も確認された。
田野中学校校庭内遺跡	田野中学校の校庭にあった遺跡で、昭和 35 年（1960）校庭拡張工事に伴って堅穴住居跡 6 軒が確認され、壺 3 個、皿数枚が出土した。

## ③奈良・平安時代

701年の大宝律令により、中央政府は支配地域を国・郡・里の三段階の行政組織に編成した。栃木県は下野国と呼ばれ東山道に属し、9つの郡に分けられた。益子町は芳賀郡に属した。

この時代の益子は下野国有数の須恵器の生産地であり、下野国東部や南央部に須恵器を供給していた他、瓦の生産も行われた。こうした生産力を背景に他とは異なる富や力を持った人々が暮らしたと思われる集落も出現した。昭和50年（1975）県立益子高等学校（現県立益子芳星高等学校）の建設に伴って発掘調査が行われた星の宮ケカチ遺跡では、役人や有力者が所有した石帯や円面硯、東大寺正倉院に納められているものと同形の佐波理の匙が出土している。

また、現在の下野市に下野薬師寺・下野国分寺・下野国分尼寺が建立されるなど、下野国でも中央政府の命令や有力者の発願により、寺院が建立されるようになった。益子では天平9年（737）に紀伊国出身の豪族紀氏により、十一面観音を本尊とする芳賀山観音寺（後の西明寺）が創建され、739年には行基によって供養が行われ、8世紀後半には12坊を数えるまでになった。11世紀になると紀氏が御城山（益子古城）に館を構え、益子の領主となり、後の益子氏となった。

田野地区の西山・本沼にある瓦窯跡から出土した須恵器片から下野薬師寺・下野国分寺・新治郡衙跡に瓦を提供していたことが判明している（～9世紀頃には衰退）。尾羽寺跡からは一村山と銘記された瓦が出土し、瓦本体または工人の交流が考えられる。大羽・栗生地区では倉見沢・滝が入窯跡が発掘されている。山の麓に窯跡が多く、赤松等の燃料が豊富だったことが考えられる。

表 2-3 奈良・平安時代の主な遺跡・文化財

名 称	概 要
原窯跡群	山本地区に所在。原東窯跡、フジナ入窯跡、丸峰窯跡、篠倉窯跡からなり、8世紀初め頃より須恵器の生産が行われたと考えられる。
本沼窯業群跡 (町指定史跡)	田野地区に所在。本沼窯跡、西山窯跡、毘沙門入窯跡、谷津入窯跡、カスガ入窯跡、古ヶ原窯跡から成り、8世紀中頃～9世紀中頃まで須恵器や瓦の生産が行われたと考えられる。瓦は下野薬師寺、下野国分寺にも提供された。
古代窯跡（栗生窯跡群） (町指定史跡)	上大羽地区に所在。脇屋窯跡、東山窯跡、滝ノ入窯跡、倉見沢窯跡から成り、8世紀終わり頃～10世紀中頃まで須恵器や瓦の生産が行われたと考えられる。
星の宮ケカチ遺跡	昭和50年（1975）県立益子高等学校（現県立益子芳星高等学校）開設に伴い発掘調査。竪穴住居跡24軒、掘立柱建物跡、井戸跡3基が確認された。石帯、円面硯、佐波理の匙など一般集落とは異なる遺物が出土しており、特別な集落であったと考えられる。
西明寺跡	寺伝によれば737年に紀有麻呂によって十一面観音を本尊とする芳賀山観音寺として創建され、788年に弘法大師空海が入山し、独鉆山西明寺と改称したと伝えられる。空海が入山した頃には12坊を擁する大寺院であったが、1127年に堂宇が兵火によって焼失した。創建当初は権現平にあったとされ、その周辺には古代の西明寺跡の遺構が埋蔵されている可能性がある。



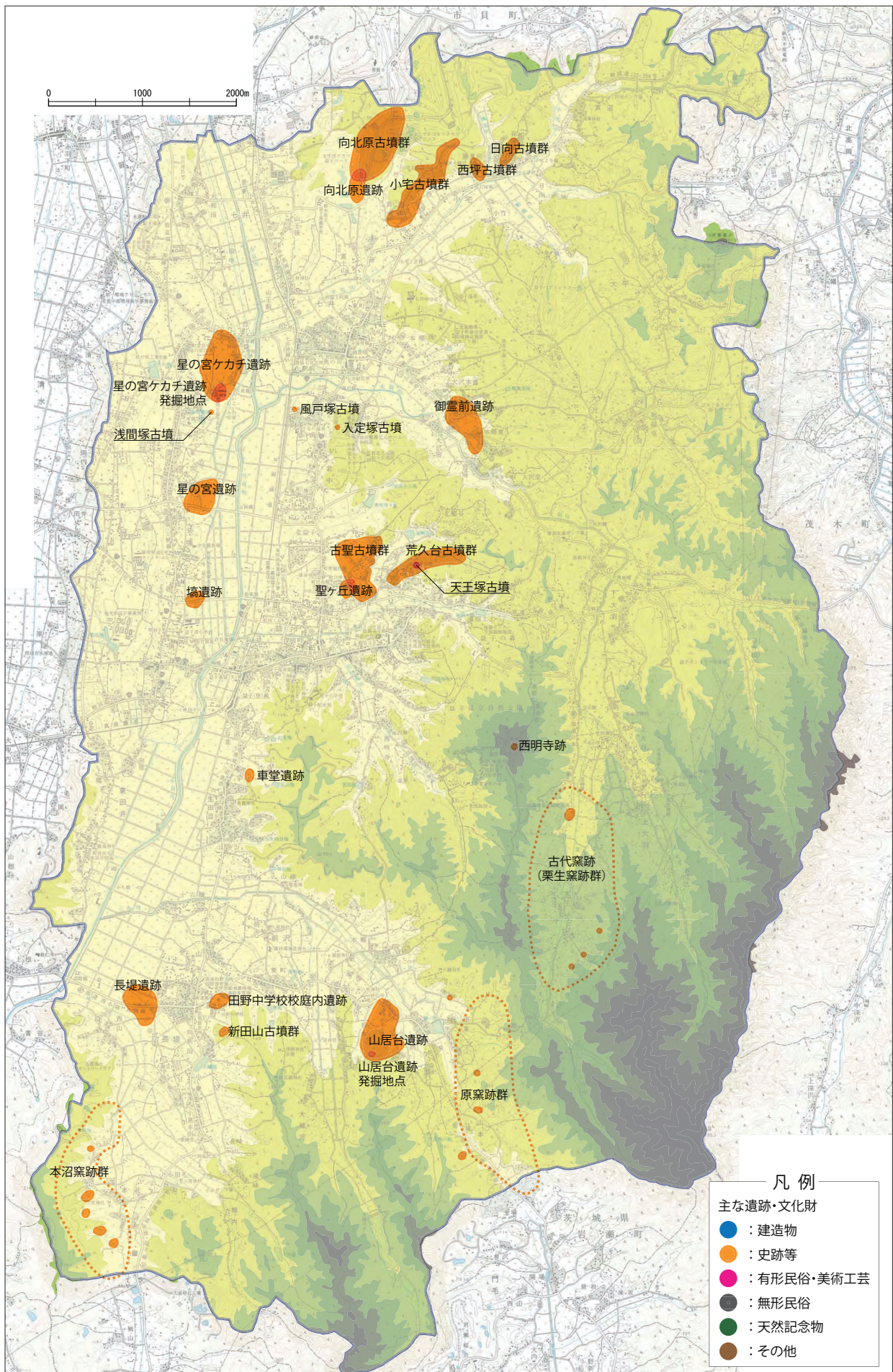


図 2-6 古代の主な遺跡・文化財分布図



## (2) 中世

『下野国誌』によれば、平安時代末期（1058年～65年）に紀古佐美を祖とする紀正隆が益子郷に入部し、那流山麓に城を築いたという。紀氏は紀伊国（現在の和歌山県）を中心に居住していた一族で、正隆の娘は宇都宮氏初代宗円に嫁ぎ、宇都宮家2代宗綱の母となったといわれている。別に紀貫之を祖とする紀之宗が益子に入部し、那流山に城を築いたとする説もある。

宇都宮氏は摂関家藤原北家道兼流を称し、初代宗円が源頼義、義家の奥州合戦（前九年の役）での功により、宇都宮二荒山神社座主に任じられて以来、22代・400年にわたって下野国を中心に活躍した名族である。益子氏は宇都宮氏と婚姻を通じて親密な関係をもちながら、益子の地に進出してきたと伝えられる。

中世（鎌倉時代～室町時代）の益子は益子氏の支配の下、宇都宮氏や益子氏の庇護を受けて、多くの寺社が創建・整備され、文化的にも経済的にも隆盛を迎えた。

表 2-4 中世の主な遺跡・文化財

名 称	概 要
尾羽寺跡	宇都宮朝綱が最初に隠棲するために整備した寺。本堂を中心に鶴亀の池・地藏院阿弥陀堂・多宝塔と浄土庭園を有した寺であった。寛正5年（1464）山火事の類焼により焼失、再建されたが、文化年間（1804～1818）の火災により再び焼失した。焼失を免れた阿弥陀堂（現地藏院本堂）は国の重要文化財に指定されている。
旧地藏院跡	旧地藏院は建久7年（1196）宇都宮朝綱によって創建。朝綱は尾羽寺から地藏院に移住し、阿弥陀三尊を本尊として日々の生活の場とすると共に、情報収集や作戦会議、宇都宮城から来る重臣の宿泊の場としても利用されたと伝えられる。大正14年（1925）に廃寺となった。
地藏院本堂 (国指定文化財)	永正年間（1504～1521）の建立とされている国指定重要文化財である。尾羽寺の阿弥陀堂が火災を免れたのち、明治になり地藏院本堂となった。木造阿弥陀三尊像や絹本著色両界曼荼羅図等が収められている。
宇都宮家の墓所 (県指定文化財)	現地藏院に隣接する上大羽に所在。大羽の地に隠棲した宇都宮朝綱は、地藏院を創建して間もなく初代宗円、2代宗綱の墓を築き、自らの墓も定めてこの地を宇都宮家の菩提所とする旨を一族郎党に宣言したという。初代宗円より33代政綱まで五輪塔29基、石碑4基がある。
西明寺三重塔 西明寺楼門 (国指定文化財)	西明寺境内の建造物の内、三重塔と楼門は、室町時代に建立されたものが現存しており、共に国の重要文化財に指定されている。三重塔は関東以北でも古い塔の一つに数えられている。
円通寺 円通寺表門 (国指定文化財)	良栄上人は応永元年（1394）大平字舟橋に舟橋談所（虎溪院）を開いた後、応永9年（1402）に大沢字御座内に円通寺を開く。学問所として大沢文庫を設け、多くの書籍や經典を有した。天文10年（1541）の大火により、表門のみを残して堂宇が焼失したが、益子氏の援助を受けて天文22年（1553）から永禄2年（1559）にかけて現地に堂宇を建立し、表門は移築した。天正2年（1574）には正親町天皇により綸旨を賜り勅願所となり、東国多数の寺院の地位を得た。表門は国の重要文化財に指定されている。
綱神社本殿 綱神社撰社大倉神社本殿 (国指定文化財)	宇都宮朝綱が土佐に配流された折、土佐の加茂（鴨）明神に赦免を祈願し、その後、帰国した時に土佐の加茂（鴨）明神を勧請したのが始まりと言われていた。本殿は建久5年（1194）に創建され、大永年間（1521～28）に再建された。明治に入り綱神社と名称を改めた。撰社の大倉神社本殿と共に国の重要文化財に指定されている。
山本古屋城跡	笠間氏の一族である高塩伊勢守によって大永年間（1521～28）に築城されたと伝えられる。その後益子氏との戦いで、久下田城主水谷蟠龍斎らの援軍を得た益子家宗により攻め落とされた。
田野城跡	笠間氏の郎党羽石時政が築城したといわれているが、それ以前に6代笠間城主の二男宗時が名前を羽石と改めて居住したとも伝えられる。天正13年（1585）に結城氏家臣の水谷蟠龍斎、益子勝宗の攻撃によって落城した。
小宅城跡	益子氏と並ぶ宇都宮氏の重臣芳賀氏が領域の東端を抑えるために、永仁2年（1294）に築城したといわれる。豊田秀吉の命により、宇都宮氏が改易されて所領を没収された慶長2年（1597）に廃城となった。

名称	概要
高館城跡 (西明寺城跡) (町指定文化財)	元は、権現平の旧西明寺境内跡地に紀氏（後の益子氏）により築城されたと伝えられる。当初はこの地の北側に館を築いたが、西明寺焼失後に城を築いたといわれている。南北朝時代に南朝方が改造して高館山頂に西明寺城を築城した。安土桃山時代には益子勝宗が高館城に居城を移したが、現在も当時の土塁や空堀等の遺構を見ることができる。
益子古館城跡 (根古屋城跡)	鎌倉時代後期に益子氏が領地の支配を行う拠点とする平時の城として築いたと伝えられる。南と西を山に囲まれた丘の中腹に立地し、南方を守る出城として石並城が築かれた。
御城山遺跡 (益子古城・古城跡) (町指定文化財)	益子古城とも呼ばれ、益子氏の居城であった。陶芸メッセ・益子の建設に伴う発掘調査で、本郭を中心に空堀や堀切で南・東・西郭に分けられていることが確認された。
大郷戸廃寺跡五輪塔群 (町指定文化財)	昭和35年(1960)に郷戸廃寺跡近くの行灯峰山中より、土砂崩れによって多くの五輪塔が散在した状態で出土した。五輪塔と共に火葬骨を入れた瓶子5個が発見された。近年の発掘調査の結果、5基の五輪塔の他に地輪20基、水輪3基、火輪21基、空風輪20基が確認された。時期は鎌倉時代末期から室町時代初期頃のものとして推定される。
羽石家五輪塔 (町指定文化財)	大字前沢の長谷寺に所在。鎌倉時代から室町時代のもので、約300年間田野城主として一帯を支配した羽石家の墓といわれる。
西明寺本堂内厨子 (国指定文化財)	西明寺本堂と同時期の明德元年(1390)に着工し、応永元年(1394)に完成した。唐様の一間厨子方形造りの板葺きで外部は黒漆塗りである。厨子内には西明寺の秘仏である平安時代に造られた木造十一面観音菩薩立像他8体の仏像(県指定文化財)が安置されている。
西明寺仏像群 (県指定文化財)	上記の厨子内の仏像群の他に、鎌倉時代の木造千手観音菩薩立像附木札六枚、木造千手観音菩薩座像が県指定文化財となっている。
木造阿弥陀三尊像 (県指定文化財)	地蔵院所蔵。鎌倉時代の作であり、慶派系(快慶一門)の仏師により作られたと見られる。表面の箔は寛永10年(1633)に京都の仏師慶運によって修理された際のものである。
木造阿弥陀三尊像 (県指定文化財)	地蔵院所蔵。宇都宮朝綱が建立した尾羽寺の本尊であったが、火災の際に運び出されたものと伝えられる。平安時代末期のものであると考えられる。
銅造阿弥陀如来立像・ 両脇侍(県指定文化財)	円通寺所蔵。善光寺式阿弥陀三尊で鎌倉時代末期の銅製の鑄造仏の特色がある。円通寺の開祖の良栄上人が円通寺創建時に持参したといわれている。
銅造阿弥陀如来立像 (県指定文化財)	光明寺所蔵。造形の特徴から鎌倉時代後期の作と推定される。
木造如意輪観世音菩薩 座像(県指定文化財)	観音寺所蔵。鎌倉時代の作と推定される。
宋版大般若経 (町指定文化財)	中国宋の時代(960～1279年)に木版によって印刷された大般若経である。留学僧や日宋貿易により日本にもたらされた。地蔵院所蔵のものは元は尾羽寺に納経されたもので、「下野國尾羽寺」の刻印が押してある。当時は貴重な文献であったため、円通寺の良栄上人、小石川傳通院の了誉上人など、各地から多くの僧が集まったといわれている。
絹本着色両界曼荼羅図 (県指定文化財)	永禄11年(1568)宇都宮に住んでいた絵師縹来雅楽尉によって製作され、宇都宮氏の菩提寺であった地蔵院に納められた金剛界曼荼羅図・胎藏界曼荼羅図。諸尊の悟りの世界を象徴するものとして諸仏が描かれている。
大六天の森の墓	木曾義仲の嫡子、清水冠者義高や源頼朝の異母弟、阿野全成等の墓とされている2基の五輪塔。



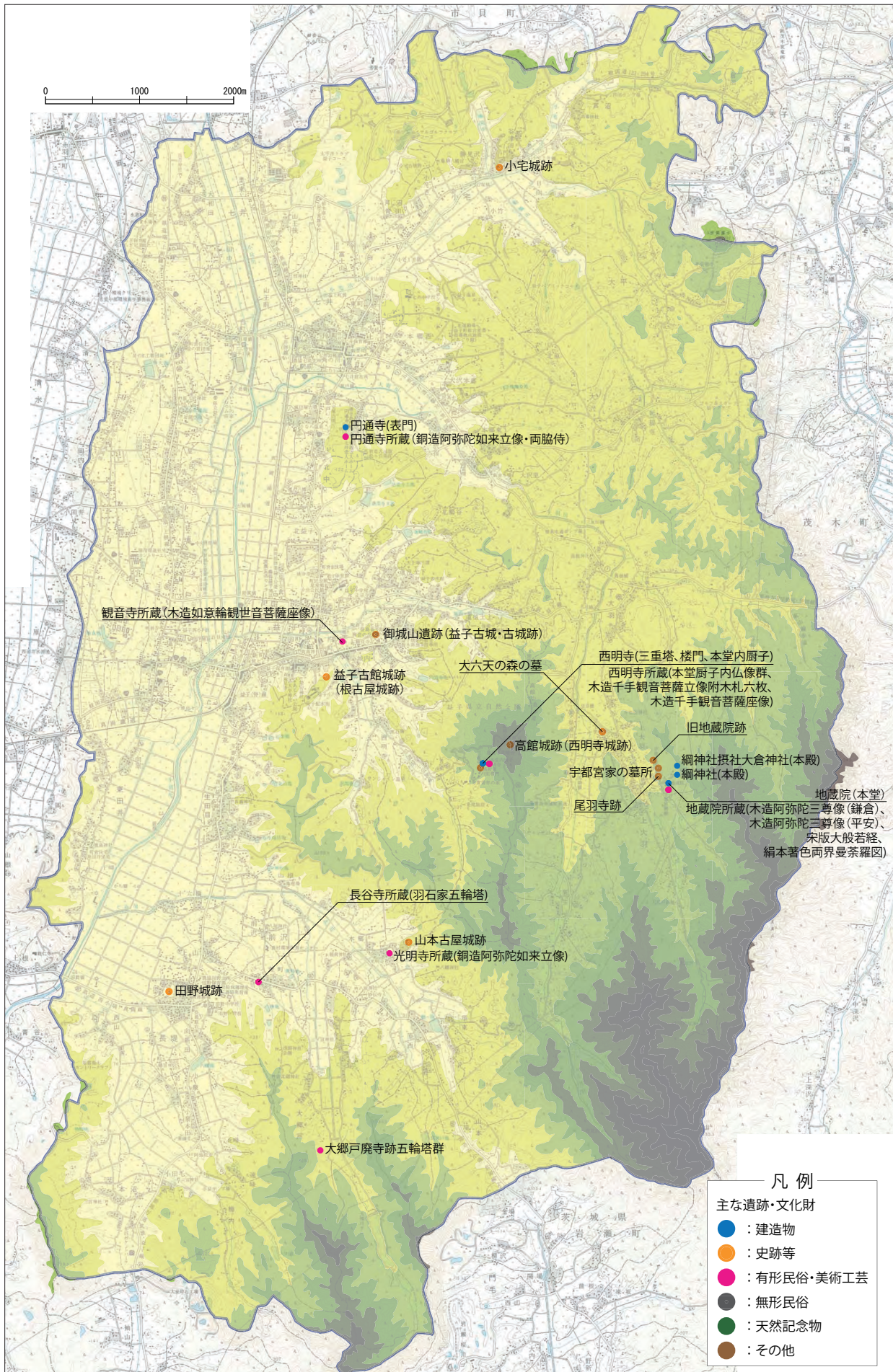


図 2-7 中世の主な遺跡・文化財分布図



(3) 近世

天正17年(1589)益子氏は所領である益子の地を追われた。益子氏の没落には諸説あるが、主家である宇都宮氏や有力家臣である芳賀氏との対立が原因という説が有力である。慶長2年(1597)には、宇都宮氏が突然豊臣秀吉から改易処分を受け、所領を没収された。これにより、平安時代末期より益子とその周辺の地を治めてきた宇都宮氏とその有力家臣である益子氏、芳賀氏、多功氏等の名族が、先祖伝来の地を失った。

江戸時代の益子は21か村で構成され、総石高は約18000石であったが、江戸に近く物資を供給するのに便利な地であったため、幕府の直轄地(天領)、旗本の領地(知行地)、大名の飛地(藩領)等に分けられ、多くの村は複数の領主によって支配された。益子から鬼怒川の水運を利用して江戸に運ばれた物資は、年貢米の他に炭、味噌、薪等であり、特に薪と炭が主要な物資であった。里山の森林資源が貴重な物産となっていたことがうかがえる。江戸時代末期には笠間で焼き物の技術を習得していた大塚啓三郎が、益子地区道祖土の大津沢にて良質な陶土を発見したのをきっかけに益子焼が誕生し、黒羽藩の保護奨励もあって益子を代表する特産品としての基礎を築いた。

表2-5 近世の主な領主 / 『のびゆく益子』(2015)より引用

(単位:石)

村名	1640年	1850年	廃	村名	1640年	1850年	廃		
七井	幕府	835	別所(旗本)	377	北益子		石原(旗本)	322	
			石野(旗本)	377	益子	黒羽藩	951	黒羽藩	1,734
			鈴木(旗本)	81		黒羽藩公知衆	611		
	芦野(旗本)	177	芦野(旗本)	177	西明寺	40	西明寺	41	
	黒羽藩公知衆	380	黒羽藩	380	観音寺	15	観音寺	15	
	大田原藩	207	大田原藩	386	鶏足寺	15	鶏足寺	16	
	喜連川藩	178	喜連川藩	188	正宗寺	7	正宗寺	9	
	大田原(旗本)	149	大田原(旗本)	153	鹿島神社	7	鹿島神社	7	
	山王神社	13	山王神社	13	金剛寺	5	金剛寺	7	
	観音院	7	観音院	8	上大羽	黒羽藩	940	黒羽藩	1,011
	正法寺	5	正法寺	5	地蔵院	30	地蔵院	30	
大沢	新庄藩	1098	幕府	310	阿弥陀寺	20	阿弥陀寺	20	
			曲直瀬(旗本)	393	綱神社	15	綱神社	15	
			梶川(旗本)	200	地蔵堂	5	地蔵堂	5	
			川村(旗本)	89	下大羽	黒羽藩	442	幕府	401
			杉原(旗本)	84				曲直瀬(旗本)	100
			土屋(旗本)	28	生田目	黒羽藩公知衆	589	黒羽藩	842
			榊原(旗本)	28	埜	小田原藩	912	幕府	1,029
	円通寺	60	円通寺	60	明林寺	3	明林寺	3	
	芦沼	茂木藩	701	茂木藩	701	閑空院	3	閑空院	3
		高菰明神社	1	高菰明神社	1	小計	4,610石		5,610石
	大平	大田原藩	326	大田原藩	326	山本	小田原藩	1,481	幕府
安善寺		5	安善寺	5	光明寺		7	光明寺	7
小宅	幕府	377	河野(旗本)	483		東光寺	7	東光寺	7
			曲直瀬(旗本)	294		興学寺薬師堂	5	興学寺薬師堂	5
	芦野(旗本)	126	芦野(旗本)	126	上山	下館藩	1,075	幕府	10
亀岡八幡宮	42	亀岡八幡宮	21					酒井(旗本)	1,062
中村	小田原藩	483	幕府	483				無量寿院	5
	黒羽藩	236	石原(旗本)	277	大郷戸	下館藩	74	幕府	74
	西光寺	5	曲直瀬(旗本)	75	小泉	下館藩	636	松平(旗本)	636
小計	5,411石	6,134石			長堤	下館藩	1,154	松平(旗本)	1,083
								結城藩	71
<ul style="list-style-type: none"> <li>幕府領、旗本領、藩領、主な寺社領の石高で、数字の下の〃は、前後の年代から石高を推計した値である。</li> <li>廃は1871年(明治4)の廃藩置県時の県名で、日は日光県、黒は黒羽県、大は大田原県、茂は茂木県、結は結城県を表す。</li> <li>総計が増加しているのは、新田開発等の結果と思われる。</li> </ul>				前沢	下館藩	877	結城藩	871	
				本沼	幕府	} 140	曲淵(旗本)	148	
					小川(旗本)				
				東田井	小田原藩	842	幕府	842	
				梅ヶ内	幕府	58	阿部(旗本)	58	
				小計	6,356石		6,360石		
				総計	16,377石		18,104石		

表 2-6 近世の主な遺跡・文化財

名 称	概 要
西明寺本堂 西明寺鐘楼 (県指定文化財)	西明寺本堂は室町時代に益子勝直によって開扉供養が行われたが、現存する建物は元禄 14 年 (1701) の大改修後のすがたを伝えている。内外陣の彩色彫刻が施された欄間が特徴的である。鐘楼は一層が角柱、二層は円柱で享保 7 年 (1722) の建立である。
西明寺閻魔堂 西明寺大師堂 (町指定文化財)	閻魔堂は正徳 4 年 (1714) の建立で、内部に閻魔大王、善童子、悪童子 (以上県指定文化財)、脱衣婆、地藏尊の五体の仏像が安置してある。大師堂は町内唯一の江戸時代中期の建造物で、近郷の信者が寄進した石造りの弘法大師像が祀られている。
円通寺一切経塔 (県指定文化財)	円通寺一切経堂は、大沢文庫の經典や書籍類を保管した建物である。火災で消失していたが、円通寺四十世良範上人が文化 6 年 (1809) に入山、再興した。中世より江戸時代まで文化の中心を成した大沢文庫の面影を伝える建物である。
長堤八幡宮本殿 (町指定文化財)	長堤八幡宮は源義家が奥羽鎮征の折に、戦勝祈願を行った地と伝えられる。康平 6 年 (1063) に創建、嘉吉 3 年 (1443) に宇都宮明綱によって再建されるが、天正 13 年 (1585) に社殿が焼失した。現社殿は元禄 16 年 (1703) に再建されたものである。
日枝神社本殿 (町指定文化財)	神護景雲 2 年 (768) の創建で、矢嶋郷総鎮守として崇められた。その後一時荒廃したが、長久元年 (1040) 矢島城主七井刑部太夫縁頼治が再建した。本堂は享保 4 年 (1719) の建立で、花鳥の彫刻を施した江戸中期の様式を伝える建物である。
光明寺薬師堂 (町指定文化財)	建立は江戸中期と推定。本尊の薬師如来像は春日の作といわれ、山本城主高塩伊勢守の本尊であったと伝えられる。目に関する信仰が高く、縁日には多くの人で賑わった。
安善寺本堂 (町指定文化財)	享保 15 年 (1730) に再建。廊下は県内唯一のウグイス張りで、須弥壇は江戸中期の特徴を表している。
鶏足寺山門 (町指定文化財)	鶏足寺は大永 2 年 (1522) 山本城主高塩伊勢守によって建立されたと伝えられる。禅宗寺院として栄えたが、明治 44 年 (1911) に火災にあい、山門を残して消失した。現在の本堂その他の建造物は明治 44 年以降に再建されたものであるが、山門は江戸時代のものであると考えられる。
日下田邸(染色工房併用) (県指定文化財)	藍染業「日下田紺屋」の住居と作業場を兼ねた建物である。寛政年間 (1789～1801) の建造で、藍染業が盛んだったころの紺屋の様子が窺える。
木造閻魔王座像・両脇侍像 (県指定文化財)	西明寺閻魔堂の中に安置されている仏像の一つで、「笑いエンマ」として親しまれている。寛永 10 年 (1633) の作である。
木造良栄上人像 (県指定文化財)	円通寺開山の祖良栄上人の像と伝えられている。益子村の仏師小堀長勝の作であり、元禄 8 年 (1695) に開眼供養が行われたことが墨書より確認できる。
元禄絵地図 (町指定文化財)	左上に元禄十四年壬午年四月と記されており、元禄 14 年 (1701) に製作された地図であることがわかる。また、百間を二寸に縮小して (1/3000) 地図を作ったことも記されている。当時の益子村の様子を示した地図で、道路は朱線で、池および河川を青で、山は樹木を緑で、御朱印地は桃色で彩色されている。民家は屋根型で、田畑の区分は文字をもって表示している。高館城跡をはじめ、中世の城館の堀も青で示されている。当時の地勢や人家の散在状況、中世城館の遺存状態などを伝える貴重な資料である。
文化絵地図 (町指定文化財)	図面裏の端に「文化貳年八月作之助写 城内作右エ門持」と記されている。上記の元禄絵地図の写しである。文化 2 年 (1805) に写されたことがわかる。
天保絵地図(長堤村地図) (町指定文化財)	左下に「干時天保六乙未初冬図之」とあり、説明を挟んで「野州大羽 紫齋光重筆 野州田野長堤村 柳善右エ門」とあり、天保 6 年 (1835) 製作の長堤村の様子を示した地図であることがわかる。道路を朱で、田を緑、畑を黄色で表し、そこに地番、耕地の種類と良し悪し、所有者、耕作者名が記載され、変更の場合は和紙を貼って名前等を書き直している。
絹本著色鮎図 (県指定文化財)	益子村出身の画家小泉斐が文化 10 年 (1813) に描いた鮎の絵である。小泉斐は谷文晁の門下で、鮎の画家として天下に認められた。27 匹の鮎が左右に泳いでいる様子を描いている。
歌舞伎舞台背景襖絵 (町指定文化財)	歌舞伎舞台背景の襖絵で幅 0.61 m、高さ 1.69 m の大きさのものが 12 枚一組となっている。文政年間 (1820 頃) の作品と推察できる。筆者は江戸時代末期の真岡出身の画家安達三楽齋元善である。「鶴松の図」、「高麗犬の図」、「紅葉遊鹿の図」、「雲龍の図」等の襖絵から成る。
襖絵 (町指定文化財)	妙伝寺本堂の襖に描かれた作品で、歌舞伎舞台背景襖絵と同時期に安達三楽齋元善によって描かれたと考えられる。表側に末に鳳凰、裏側には竹と梅が描かれている。
真言八祖絵図 (町指定文化財)	高館城落城の折に田野地区東田井の東光寺に持ち込まれ、現在は東田井自治会が所有している。真言宗の名僧 8 名の肖像画で、安土桃山時代から江戸時代初期の作であると考えられる。
藤根善治の墓 (町指定文化財)	享保 14 年 (1729) に凶作により困窮した下之庄七か村の村民が、一揆をおこし黒羽藩代官を襲撃しようとした時、黒羽藩主に直訴し処刑された藤根善治の墓。一揆は凶作により年貢が米から薪になったが、上納できず名主たちが牢に入れられたことがきっかけだった。善治の直訴により名主たちは釈放されが、直訴は大罪であったため、善治は家族と共に処刑された。村人たちによって善治親子 3 人の墓碑が建てられ、お焚き木様として供養された。

名 称	概 要
街道沿いの石碑	宇都宮と水戸を結ぶ水戸北街道、真岡と烏山を結ぶ烏山東街道、江戸と東北を結ぶ奥州中街道の一部である辰街道等、当時、益子を通っていた主要街道沿いに残されている石碑。道標の他に二十三夜講や地藏などの供養や信仰を願うものがある。
正親町天皇綸旨 (県指定文化財)	円通寺を勅願所とする旨が記された正親町天皇の綸旨書である。天正二年(1574)六月廿六日の日付がある。
聖鬮賛 (県指定文化財)	円通寺所蔵。浄土宗の名僧良山の著書である「初学題学習」の注釈書で、元和9年(1623)に奈良から円通寺へ大沢文庫の書籍として奉納されたもの。
浄土総系図 (県指定文化財)	円通寺所蔵。浄土宗の系図を記したもの。全2巻で、1巻目は円通寺の学僧によって編述されたものを元禄11年(1698)に良因という僧が写したものである。もう1巻は江戸初期に円通寺の良定が京都で入手して円通寺に寄進したものと伝えられる。奥書に永正三年(1506)丙寅三月九日とある。
月形函文書 (県指定文化財)	円通寺所蔵。浄土宗鎮西義名越派大沢流の教義の真髓を説いた最も重要な文書とされ全70冊が月形函に納められている。良栄をはじめ歴代の住持の口述筆記した秘伝書であり、住持替の時にだけ7日潔斎、3日精進の後に引き継がれたと伝えられる。
浄土鎮西義名越派代々 印璽脈譜 (県指定文化財)	円通寺所蔵。上・中・下巻の3巻から成る。上巻は応永18年(1411)良栄から、天正11年(1583)良興より良賢に授けたものまで11通、中巻は元禄9年(1696)良安から文政4年(1821)良範にいたる25通、下巻は文政11年(1828)良猛より明治14年(1881)良頓にいたる11通の血脈を納めている。
祇園祭(天王祭)	毎年7月23日～25日までの3日間行われる八坂神社の祭。7月23日出御式、7月24日御神酒頂戴式、7月25日還御祭・御照覧から成る。また、7月24日と25日は彫刻屋台で練り歩く付け祭りもある。
八坂神社御神酒頂戴式 (町指定文化財)	益子地区の夏祭りである祇園祭(天王祭)で行われる行事。宝永2年(1705)ころ、益子村の領主であった黒羽藩の大関公から各地区に御神酒を賜ったことより始まったと言われている。1年365日にちなんだ3升6合5勺入りの大杯に注がれた爛酒を飲み干し、五穀豊穡、無病息災、家内安全を祈願する。
溜池	現在も益子の各地に散在する溜池は、雨の少ない益子で農業用水としてつくられたものと言われている。元禄絵地図には既に多くの溜池が描かれている。



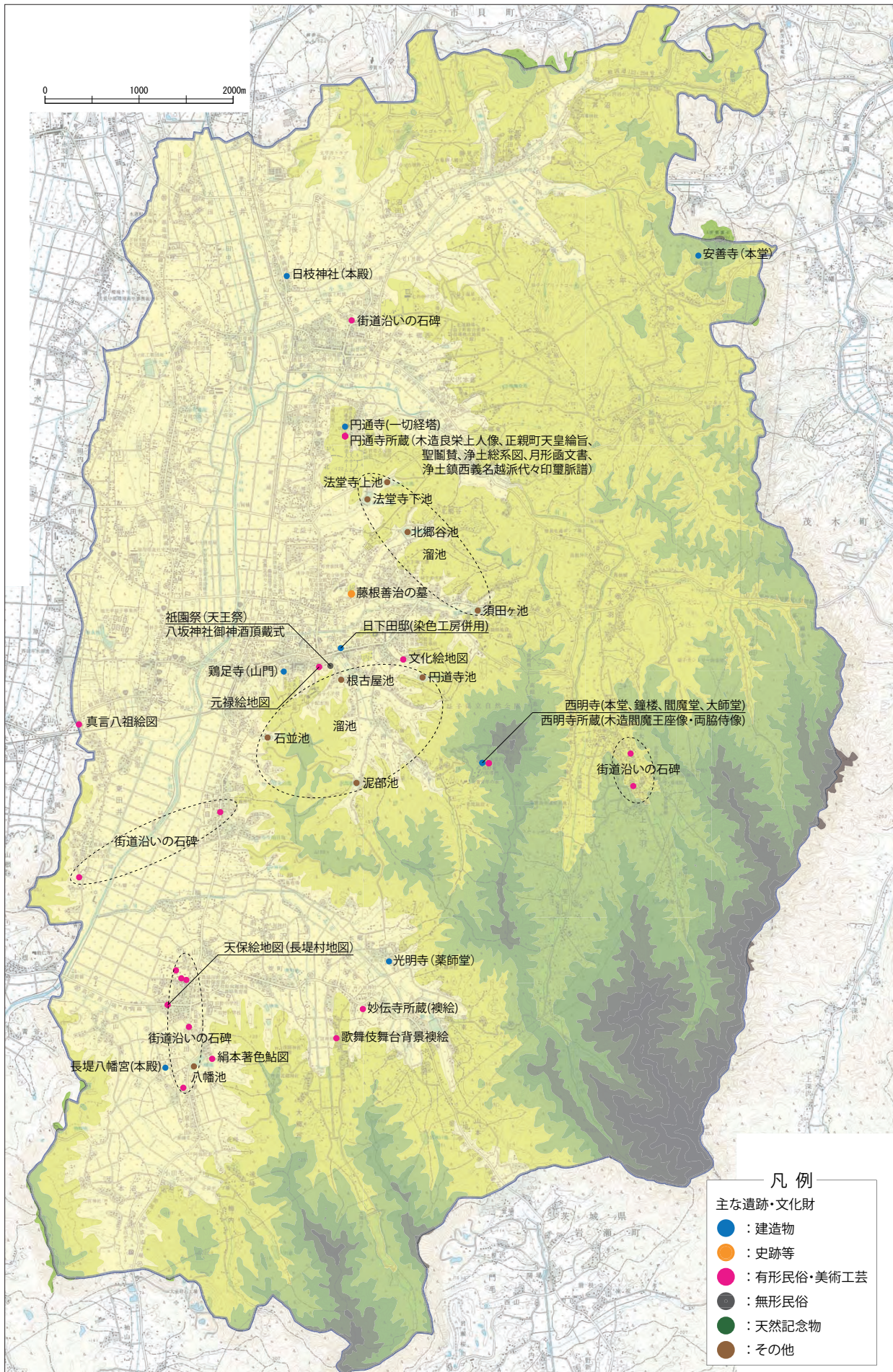


図 2-8 近世の主な遺跡・文化財分布図



#### (4) 近代以降

明治4年(1871)の廃藩置県により、旧藩が県になり益子地域の21か村は諸県が複雑に入り組むことになったが、その後、整理統合が行われ、すべて宇都宮県に属することになった。明治6年(1873)に宇都宮県と栃木県が合併し、栃木県が成立した。明治21年(1888)には市町村制が公布され、これによって現在の益子町を成す田野村・益子町・七井村が成立した。幕末から始められた益子焼は、東京方面からの需要が伸びて製陶業としての歩みを始めた。

大正2年(1913)に真岡線が開通し、益子地域では益子駅、七井駅が設置された。益子町では明治時代末期より大字益子を中心に市街地が形成されていたが、益子駅の設置により、一段と町が拡大した。七井でも七井宿を中心に商店街が形成された。

大正13年(1924)、益子焼に深い関心を示していた濱田庄司が、益子町に移り住み作陶を開始した。柳宗悦、河井寛次郎らと共に民藝運動を展開した濱田庄司が益子に移住したことにより、益子は民藝運動の拠点の一つとなった。

第二次世界大戦後、昭和29年(1954)に田野村・益子町・七井村が合併して益子町となった。1960年代に日本が高度経済成長の時代を迎えると、集団就職等で中学校を卒業した若者が町外に出ていくようになった。こうした状況を背景に益子町でも工場誘致に取り組んだ。また、この頃から益子焼もそれまでの日用品中心の生産から、民藝陶器の生産へと移る窯元が多くなった。窯元の設立に寛容な益子の土地柄もあり、地元出身に加え他地域からの転入者によって窯元数も飛躍的に増加し、益子焼の小売店も増えていった。春と秋に開催される「陶器市」には約60万人の観光客が訪れる。

表 2-7 近代以降の主な遺跡・文化財

名称	概要
内町・新町・田町彫刻屋台 (町指定文化財)	益子の祇園祭で引き回される屋台で、内町、新町、田町の各自治会が所蔵管理している。それぞれに趣向を凝らした見事な彫刻が施されているのが特徴である。江戸時代後期に作られたものだが、明治時代に宇都宮から購入して、現在にいたっている。
原彫刻屋台 松本屋台 (町指定文化財)	原・松本自治会が所蔵管理している屋台で、山本地区の祇園祭で引き回される。江戸時代後期に原彫刻屋台は宇都宮、松本屋台は京都でそれぞれ作られたものである。
益子参考館 <sup>うえんだい</sup> 上台 (旧濱田庄司邸離れ) (県指定文化財)	来客者の宿泊所として益子町小宅の高野家母屋を昭和17年(1942)に解体移築したもの。大規模な寄棟造茅葺で南面して建ち桁行14間、梁間7間、正面に入母屋造の式台を突き出す。桁行6間が土間部で、三重梁を架け、東側に馬屋跡、西側の土間境には居間、中廊下、北の間が並ぶ。上段の間は床棚付書院を備え、次の間と角間境には意匠を凝らした筏欄間がはめ込まれるなど、整った室内構成をもつ。棟高や軒高の高さ、平面構成、部材の古さなどから江戸時代末期の創建と考えられる。
旧濱田庄司の母屋 (町指定文化財)	濱田庄司が母屋兼作業場としていた建物である。江戸時代後期に市貝町で建築され、その後茂木町菅又に移築されていたものを濱田が気に入り、昭和5年(1930)に移築し、母屋として使用し、長屋門内の仕事場や細工場とともに作陶の中心となっていた。国内外の訪問者との交流の場でもあった。
益子参考館内登り窯 (町指定文化財)	濱田庄司によって築かれた窯であり、昭和53年(1978)に83歳で死去するまでの間、年2～3回の窯焼を行い、数々の作品を世に送り出した。
妙伝寺山門 (町指定文化財)	明治40年(1907)2月に起工し、明治41年(1908)4月7日に竣工した。棟梁は加藤伊之吉で、彫刻は名人と言われた宇都宮の彫刻師岡部信之助である。総工費は当時の金額で2,148円24銭、大工1088人時間、石工371.5人時間、彫刻320人時間等の記録がある。



名 称	概 要
益子参考館	陶芸家 濱田庄司が自らの創作に参考とした品々を、広く一般の人々にも「参考」にしてほしいとの意図のもとに、開設された美術館。濱田庄司の自邸・工房の一部を活用し、濱田庄司が生前に蒐集した品々と自身の作品をはじめ、僚友であった河井寛次郎、バーナード・リーチらの作品等を展示している。
城内坂通り	約 500m 続くゆるやかな坂の左右に、民芸店、ギャラリー、カフェ、雑貨店等が軒を連ね、益子を代表する街並み景観となっている。春と秋の陶器市もここで開催される。
大谷石蔵	大谷石の蔵。かつては大谷石の産地である宇都宮をはじめ、栃木県下に広く存在し、益子でも数多く見られた。
長屋門	益子参考館の入り口は濱田庄司が移築してきた長屋門があるが、この他にも益子には長屋門のある民家が散在している。
真岡鐵道小貝川橋梁	真岡鐵道に架設されている橋梁の一つ。C. A. W. ポーナルにより設計され、同じ真岡鐵道の五行川橋梁と共に現役最古のポニーワーレントラスであり、イギリス積みで組成された煉瓦橋脚である。
ベーハ小屋	葉煙草の乾燥小屋。アメリカ原産の黄色種と呼ばれる種類の葉煙草を乾燥させる小屋のため「米葉（米国の葉）小屋」→「ベーハ小屋」と呼ばれるようになったと言われる。葉煙草の栽培が盛んであった益子では数多く存在した。なお、ベーハ小屋という呼び名は、益子発祥説が最有力である。
旧つかもと平成館	元は奥日光湯元温泉の南間ホテルの建物であったが、昭和48年(1973)に現在地へ移築され、南間の名を残して益子南間荘としてホテル営業されていた。戦争末期に学習院初等科在学中の今上天皇が東京から学童疎開して滞在された建物であり、終戦の玉音放送もここで聞かれた。昭和55年(1980)の栃木国体に行啓した当時の皇太子殿下はここでの昼食の折、しばし往時を偲び美智子妃殿下を幾部屋か案内され、大変懐かしがられたという。
あじさい祭り	約 5000 株のあじさいが咲き誇る太平神社で毎年6月～7月にかけて開催される祭り。祭り期間中に、4人の稚児が巫女に扮し、あじさいを奉納する「献花祭」、地元特産の益子焼で制作された「陶板大神輿渡御」、境内に作られた茅の輪を3度くぐる「大祓式・夏越祭」が行われる。祭りは第二次世界大戦後に始まったが、地域の夏の祭りとして定着している。
陶器市	昭和41年(1966)から始まり、例年、春のゴールデンウィークと秋の11月3日前後に開催される。販売店約50店舗の他約500のテントが立ち並び、伝統的な益子焼からカップや皿などの日用品、美術品まで販売され、地元農産物や特産品の販売も行われる。春秋あわせて約60万人の人出があり、益子最大のイベントとなっている。
芦沼の獅子舞 (町指定文化財)	伝承によると、800年以上の歴史を持つ獅子舞であると言われている。戦後一時途絶えていたが、昭和47年(1972)に復活し、昭和49年(1974)に町指定無形民俗文化財となる。毎年8月の第一土曜日に一万度という祭礼で地域の五穀豊穰・無病息災を願って奉納している。
土祭	平成21年(2009)から3年ごとに実施している新しい祭。益子の風土・先人の知恵に感謝し、この町で暮らす幸せの意味を共有し未来につなぐ祭。毎回益子の「歴史や風土」「自然環境」等をテーマに、アートの展示・演奏会・ワークショップ・セミナー等を町内各所で実施している。



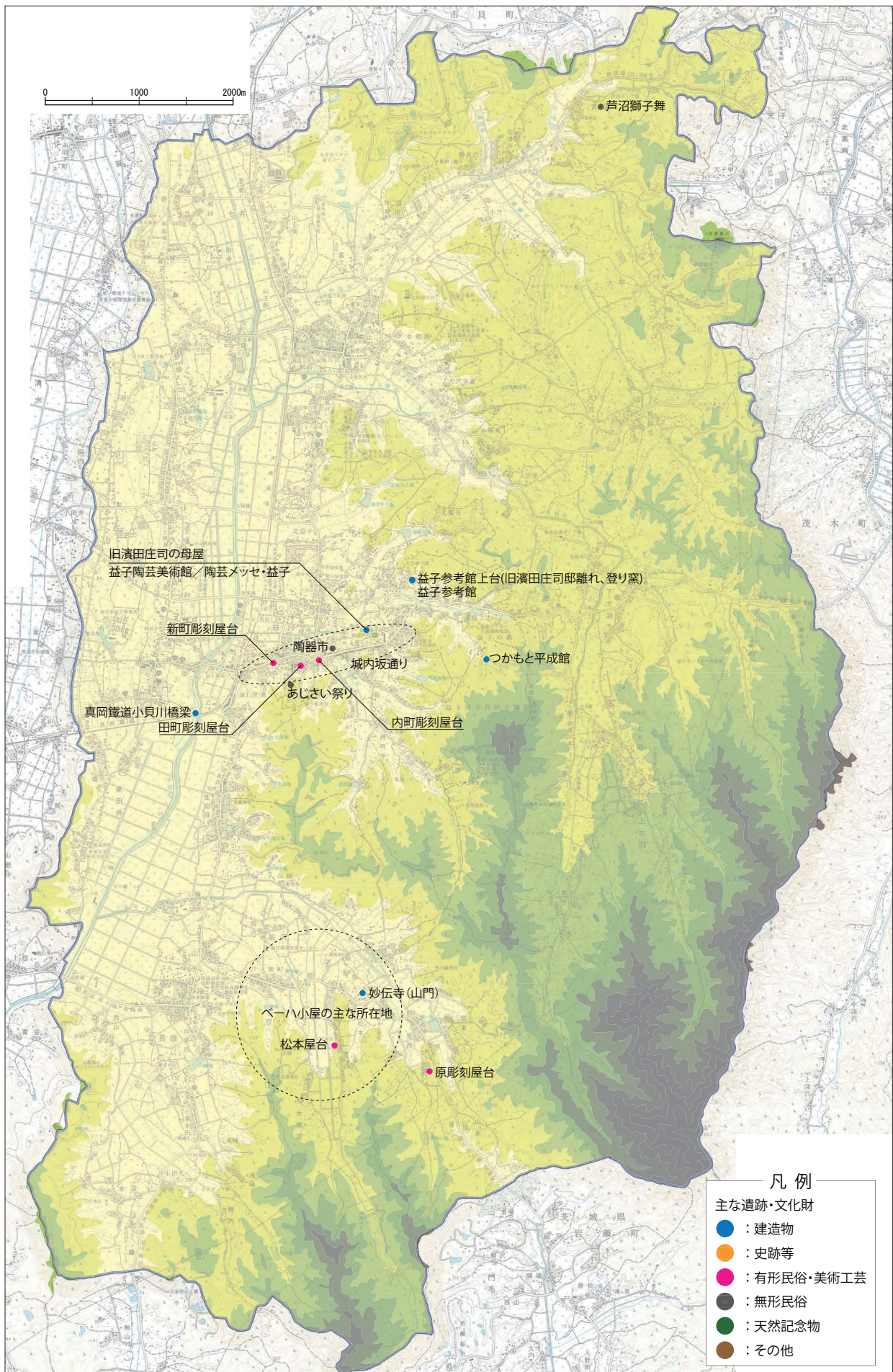


図 2-9 近代以降の主な文化財分布図



### 1-4 社会的状況

#### (1) 人口の推移

益子町の人口は平成28年(2016)10月時点で23,057人、平成12年(2000)に25,685人とピークを迎えて以降、減少が続いているが、世帯数については緩やかな増加傾向になっている。また、年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15～64歳)の比率は減少する一方で、老年人口(65歳以上)の比率は増加傾向にあり、2割を超えている。栃木県・国との比較では、年少人口(0～14歳)がやや低くなっている。

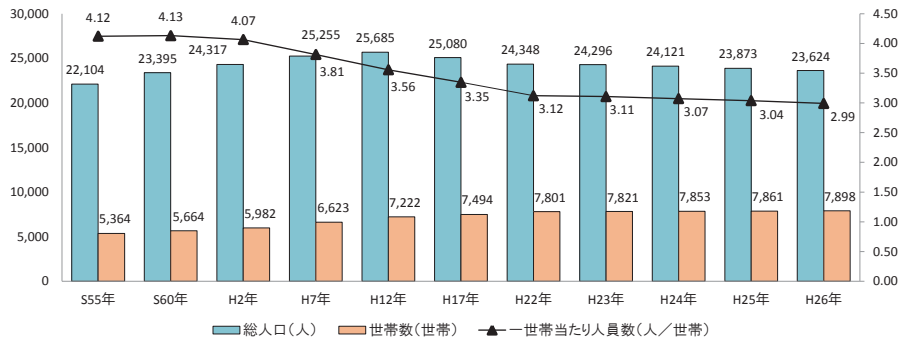


図2-10 人口・世帯・一世帯当たり人員数の推移 / 新ましこ未来計画基礎調査報告書より

#### (2) 主な産業

益子町の町内総生産額の産業別構成比をみると、平成24年(2012)では第一次産業が3.9%、第二次産業が29.3%、第三次産業が66.2%となっており、平成22年(2010)以降、第二次産業の割合が増加し、第三次産業の割合は減少している。農業の主な生産物は生産量で米、麦、大豆で、生産額では米、いちご、なす等である。農家数は減少傾向にあるが、専業農家は平成17年度から22年度にかけて増加している。製造業では窯業(益子焼)が盛んであるが、事業所・従業者数ともに平成7年(1995)以降、減少傾向にある。

平成25年(2013)の観光客入込数は約190万人で、平成24年(2012)の約197万人に比べて減少しているが、平成25年(2013)の外国人を含む観光客宿泊数は15,452人で、平成23年(2011)以降、増加を続けている。

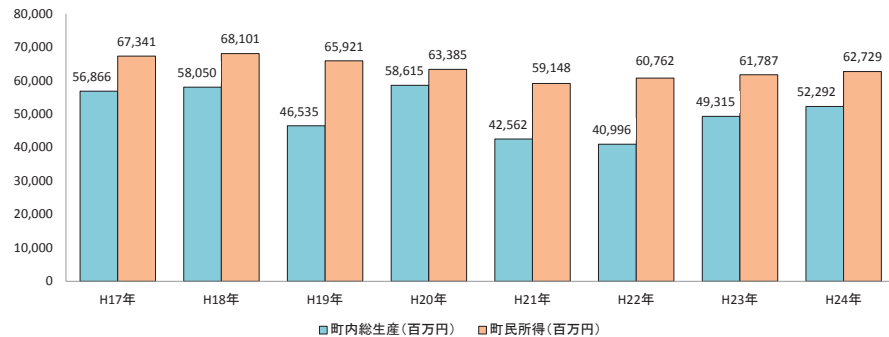


図2-11 町内総生産額と町民所得 / 新ましこ未来計画基礎調査報告書より

#### (3) 土地利用の状況

自然的な土地利用としては、町域中・東部から南部が概ね森林、町域西部が概ね農地となっており、河川沿いの農地が森林に入り込んでいる状況である。

都市的な土地利用としては、益子・七井の市街地に住宅等の建築物が集中し、田野をはじめとする主要な集落がいくつか形成されている。市街地以外では、特に、益子と七井を結ぶ一帯、小貝川以西の台地部などにおける建築物の立地が増加している。大規模な土地利用としては、近隣市町との境界部分などにおいて、ゴルフ場が多数整備されている。

## 2. 文化財および歴史文化に関わる施策等

### 2-1 組織・体制

益子町の文化財行政は益子町文化財保護条例に基づき、生涯学習課が担当している。また、附属機関として益子町文化財保護審議会を置いている。国、県、民間等の関連団体との連携を密にし、補助金の交付や各種調査への対応、会議・研修会等への参加も積極的に行い、文化財の案内についても町観光協会や観光ボランティアと連携を図っている（第2章2-3参照）。

#### 【益子町文化財保護条例】（第1条引用）

文化財保護法（昭和25年法律第214号）第182条第2項の規定に基づき、法及び栃木県文化財保護条例（昭和38年栃木県条例第20号）の規定による指定を受けた文化財以外の文化財で益子町の区域内に存するものうち町にとって重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じ、もって町の文化的向上に資することを目的とする。

条例及び施行年月日：昭和51年10月1日

#### 【益子町文化財保護審議会】（上記条例第43条引用）

地方自治法（昭和22年法律第67号）の規定に基づき、教育委員会の附属機関として益子町文化財保護審議会を置く。審議会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。

組織：委員5人、調査委員3人

任期：2年

回数：3回（必要に応じ随時）

## 2-2 歴史文化に関わる施設

益子町の歴史文化に関わる施設として、以下のものが挙げられる。

表 2-8 歴史文化に関わる主な施設

名称	概要
益子町役場	一般行政事務等。ロビーにて町の紹介映像を放映、伝統工芸品の益子焼を展示。
町民センター (中央公民館・町民会館)	文化財業務全般(指定文化財の管理、埋蔵文化財包蔵地の確認、歴史講座の開催等)。埋蔵文化財の収蔵とロビーでの展示。「里山芸術祭」などの歴史文化関連イベントの開催。資料展示室にて県と連携した企画展の実施。
益子陶芸美術館/ 陶芸メッセ・益子	陶芸に関する美術展示(常設展・企画展)。益子の焼き物に関する歴史展示(常設展)。国際交流館にてアーティスト・イン・レジデンスの実施。笹島喜平館にて益子町生まれの木版画家・笹島喜平の作品を常設展示。
あぐり館	ロビーにて埋蔵文化財の展示。
フォレスト益子	展示室にて益子の自然や歴史文化の紹介。研修室にて自然体験学習等の講演会の実施。
道の駅ましこ	ましこのコンシェルジュの設置(観光案内、オープンスペースの貸し出し等)。構内にて町内在住作家等の作品展示、紹介。
益子町観光協会	観光案内、観光イベントの実施。
益子参考館 (私立博物館)	民藝運動の中心的人物であり陶芸家の濱田庄司の作品、蒐集品の保存・管理、展示(常設展・企画展)。講座の実施。
ワグナー・ナンドール アートギャラリー	ワグナー・ナンドール(和久奈南都留)の作品を展示・保存。春秋に作品公開。
内町屋台パーク	益子祇園祭で引きまわされる内町彫刻屋台(町指定文化財)を保存・常設展示。
新町屋台パーク	益子祇園祭で引きまわされる新町彫刻屋台(町指定文化財)を保存・常設展示。
田町屋台パーク	益子祇園祭で引きまわされる田町彫刻屋台(町指定文化財)を保存・常設展示。

## 2-3 歴史文化に関わる施策及び事業

益子町の歴史文化に関わる施策及び事業として、以下のものが挙げられる。

表 2-9 歴史文化に関わる施策及び事業

名称	概要
文化財の保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会から文化財保護審議会で諮問を受け、文化財の指定にふさわしいか審議、答申</li> <li>県教育委員会への指定文化財申請及び町指定文化財の報告</li> <li>埋蔵文化財包蔵地の確認作業、包蔵地の周知、県文化財課との協議・調整</li> </ul>
文化財の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財関係で工事立会や試掘調査</li> <li>『芳賀の文化財』発行に伴うテーマに応じた文献調査等の実施(現在25集まで発刊)</li> <li>国や県からの各調査に対する対応</li> </ul>
文化財の 普及・公開・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の副読本作成協力や、総合的な学習への協力を通じた学校教育での普及。</li> <li>一般の方からの文化財等の問い合わせに随時回答</li> <li>文化財探検隊や歴史講座・歴史めぐり・文化財ガイド養成講座等の体験学習会の開催</li> <li>里山芸術祭・伝統芸能フェスティバル等イベントの開催</li> <li>地域活動での文化財整備への協力</li> <li>文化財冊子等の販売。</li> <li>町民会館内展示コーナーでの町出土遺物の紹介</li> </ul>
指定文化財の保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定文化財の傷みや破損状況に応じた補助金の交付 <ul style="list-style-type: none"> <li>国指定→国が5割(所得による)補助し、残りを県・町・所有者で3分割</li> <li>県指定→県が5割補助し、残りを町・所有者で2分割</li> <li>町指定→町が5割(上限500万円)補助し、所有者が残り5割を負担</li> </ul> </li> <li>※益子町文化財保存事業補助金交付要領による(平成26年改正)</li> <li>維持保存のための民俗芸能等への補助金の交付</li> <li>県文化財保護委員として2名委嘱し、月1回のパトロールと県への報告</li> <li>文化財防火訓練の実施(所有者・消防署・地元消防団・文化財審議会委員・教育委員・町担当部署が連携して実施)</li> <li>清掃活動への助成</li> <li>町広報誌などで地域活動の紹介</li> <li>観光ボランティアガイドと連携した文化財の案内</li> </ul>

## 2-4 歴史文化に関わる町民等の活動

町内の各地域が地域づくりの活動を通じて、歴史文化の調査・保存・継承、活用等を行っている。以下に益子町における歴史文化に関わる、主要な町民団体の活動概要を示す。

表 2-10 歴史文化に関わる主な町民等の活動

名 称	概 要
観光ボランティアガイドましこ	文化財、歴史、風土、益子焼の案内
芦沼獅子舞保存会	芦沼獅子舞の保存と継承
綱神社太々神楽保存会	太々神楽の保存と継承
長堤八幡宮神社宮比講	太々神楽の保存と継承
山本鹿島神社氏子	太々神楽の保存と継承
妙伝寺雅楽会	雅楽の保存と継承
松本歌舞伎舞台保存会	歌舞伎舞台の保存と継承、イベントの開催
内町、新町、田町、道祖土、城内自治会	祇園祭（御神酒頂戴式）の保存と継承、彫刻屋台の保存と継承
上町、東町、仲町、下町、後町自治会	祇園祭での御神輿や茅の輪くぐりを復活し、歴史文化を活かした地域づくりに取り組む
上大羽自治会	御神輿の復活、納涼祭を復活し、歴史文化を活かした地域づくりに取り組む
大郷戸自治会	大郷戸廃寺跡五輪塔群の清掃
松本自治会	屋台、歌舞伎舞台の保存と継承
原自治会	彫刻屋台の保存と継承
下町、後町山車保存会	上棟柱立飾山車の保存と継承
亀岡八幡宮里山の会、氏子青年会	小宅古墳群の整備
お囃子保存会（町内 18 団体）	お囃子の保存と継承



写真 2-1 観光ボランティアガイドましこ



写真 2-2 綱神社太々神楽



写真 2-3 小宅古墳群の整備（菜種収穫）



## 2-5 歴史文化に関わる町民意識

町民の歴史文化に関する意識を「益子町歴史文化アンケート」として3回実施し、以下95名をアンケート対象者とした。

1回目：平成28年（2016）2月6日

日本民藝館学芸部長杉山氏の講演会「濱田庄司と民藝運動」参加者30人を対象に実施。

2回目：平成28年（2016）3月25日～4月17日

文化財探検隊報告展示「あなたの地域にも文化財あり☑」観覧者14人を対象に実施。

3回目：平成28年（2016）4月16日

歴史講座特別編「小宅古墳群青空教室」参加者51人を対象に実施。

## (1) アンケート内容

益子町歴史文化アンケート		
◆基本情報		
1. お住まいの地域の郵便番号		
2. 性別		
3. 年齢		
◆益子焼に関するアンケート		
4. あなたの家では益子焼を使っていますか？（はい・いいえ・わからない）		
5. いままであなたは「益子焼はどんな焼き物ですか？」と聞かれたら何と答えていましたか？		
◆益子町の歴史や文化財に関するアンケート		
6. あなたが益子町の文化財と書いて思い浮かべるものはどのようなものですか？		
該当するものに「○」を、その中で実物を見たことがあるものに「◎」をつけてください。		
西明寺（三重塔・楼門）	妙伝寺（山門）	安善寺（シダレ桜）
西明寺（本堂内厨子）	入定塚古墳	彫刻屋台（内町・新町・田町）
西明寺（笑い閻魔）	風戸塚古墳	彫刻屋台（松本・原）
地藏院（本堂）	天王塚古墳	上棟柱立飾山車（下町後町）
地藏院（阿弥陀三尊像）	小宅古墳群	岩下製陶（太平窯）登り窯
綱神社・大倉神社	御城山遺跡	芦沼獅子舞
円通寺（表門）	高館城跡	八坂神社御神酒頂戴式
円通寺（一切経塔）	宇都宮家の墓所	山本太々神楽
日下田藍染工房	藤根善治の墓	長堤太々神楽
益子参考館（上台）	長谷寺羽石家五輪塔	綱神社太々神楽
益子参考館（登り窯）	大郷戸廃寺跡五輪塔群	妙伝寺の雅楽
鶏足寺（山門）	光明寺（薬師堂）	松本歌舞伎舞台襖絵
日枝神社（本殿）	光明寺（シダレ桜）	旧小宅小学校の赤松
長堤八幡宮（本殿）	光明寺（枝垂えごのき）	その他
7. あなたは益子町のどんな風景が好きですか？		
8. 今後、歴史文化に関わるどのようなテーマの講演をきいてみたいですか？		
該当するものに「○」をつけてください。（複数回答可）		
益子の古代史	（古墳や遺跡の出土品に関する事など）	
益子の中世史	（宇都宮氏や益子氏、西明寺や地藏院、戦国時代の城跡など）	
益子の近世史	（江戸時代の生活や手仕事、円通寺、黒羽藩など）	
益子の近現代史	（明治～昭和の生活や手仕事、田野村・益子町・七井村など）	
益子の窯業史	（古窯群、幕末から濱田庄司以前、民藝運動、濱田庄司・島岡達三など）	
芳賀郡内の歴史	（ ）	
栃木県の歴史	（ ）	
民俗	（地域の歴史や年中行事、お祭り、古道・街道など）、その他	
◆その他のアンケート		
9. あなたが益子町で自慢できるものはなんですか？（歴史文化関連以外でも結構です）		
質問は以上です。アンケートは歴史文化基本構想策定の参考にさせていただきます。 ありがとうございました。		

(2) アンケート結果

【基本情報】

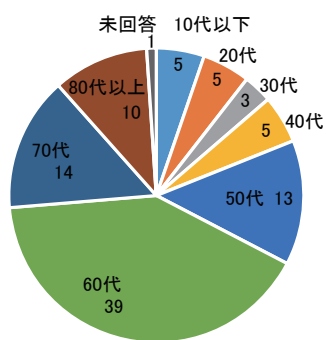


図 2-12 年齢の分布

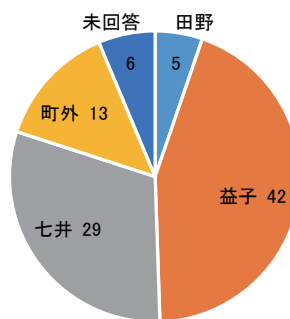


図 2-13 居住地域の分布

【益子焼に関するアンケート】

- ・あなたの家では益子焼を使っているか はい 79 (83%) いいえ 2 (2%) 未回答 14 (15%)
- ・益子焼を説明するときどのように答えているか

<p>《見た目・質感・概要》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素朴、質素 [8]</li> <li>・重い、厚い、がっちり [10]</li> <li>・色は茶、黒系、半ツヤ [4]</li> <li>・もようもきれいでつかいやすい</li> <li>・きめの粗い土で作られた器</li> <li>・あたたかみがある器 [4]</li> <li>・昔からある7つの釉薬を使い、益子の土を使って作られたやきもの [4]</li> <li>・柿釉・黒釉など伝統釉を用いたものから現代まで</li> <li>・江戸後期に黒羽藩の奨励によって始まった焼き物。 現代の益子焼は濱田先生のおかげで「民藝」として育っている。</li> <li>・益子及びその周辺で作られたもの</li> <li>・今はいろいろな作風のものがある [2]</li> </ul>	<p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・濱田庄司</li> <li>・土のにおい</li> <li>・益子で作られた焼き物 [3]</li> <li>・手作りのうつわ</li> <li>・梅干入れの水がめから民芸品が出来た話をする</li> </ul>
<p>《用途》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日用品 [4]</li> <li>・民芸品 [2]</li> <li>・カップ、ぐい飲、皿、絵皿、茶わん、茶器、かめ</li> <li>・日用雑器→民芸陶器</li> <li>・昔は日常使う焼き物であったが、今は芸術品のイメージがあり高い物</li> </ul>	
<p>《使い勝手・評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よい</li> <li>・使えば使うほど味わい深いものがあります</li> <li>・ましこらしいやきもの</li> <li>・使うたびに味がでる</li> <li>・温かい・使いやすい・親しみやすい [3]</li> <li>・落ととしても割れにくい</li> <li>・熱い物は熱く、冷たいものは冷たく飲める器はとてもよい。</li> <li>・益子町で有名な焼き物で、外国の人からも人気がある素晴らしい伝統の焼き物です</li> <li>・益子町で生産され世界的に有名な陶器</li> <li>・何か歴史を感じるけど、ずっとかかわってきたものだから、重要さが分からなくなってきた</li> <li>・最近、色々なものがあって何が益子焼きかわからない</li> <li>・派手ではないが、日常の使い回しには丈夫で最適</li> <li>・美術工芸品として、とくに構えることのない姿勢の作陶がいい。 これからは新しい時の流れに対応し、革新的な技法の生まれることに期待する。</li> <li>・丈夫で長もち</li> <li>・日用品から芸術品まで素晴らしいもの。使ってよし、飾ってよし、贈ってよし</li> <li>・日常使いの陶器。各地の材料が容易に手に入りになり、以前よりはかなりあいまいになってきている</li> <li>・昔は、柿・黒を使った素朴な物でしたが、今は作り手の自由な発想で使い手が楽しめる物を益子焼きといえる。</li> <li>・ほとんどの食器が益子焼で、切り離すことのできない益子焼。</li> <li>・様々な形態、模様があり、自分の好みに合わせて選べること</li> </ul>	



【益子町の歴史や文化財に関するアンケート】

・益子町の文化財ときいて思い浮かべるもの、実際に見たことがあるもの

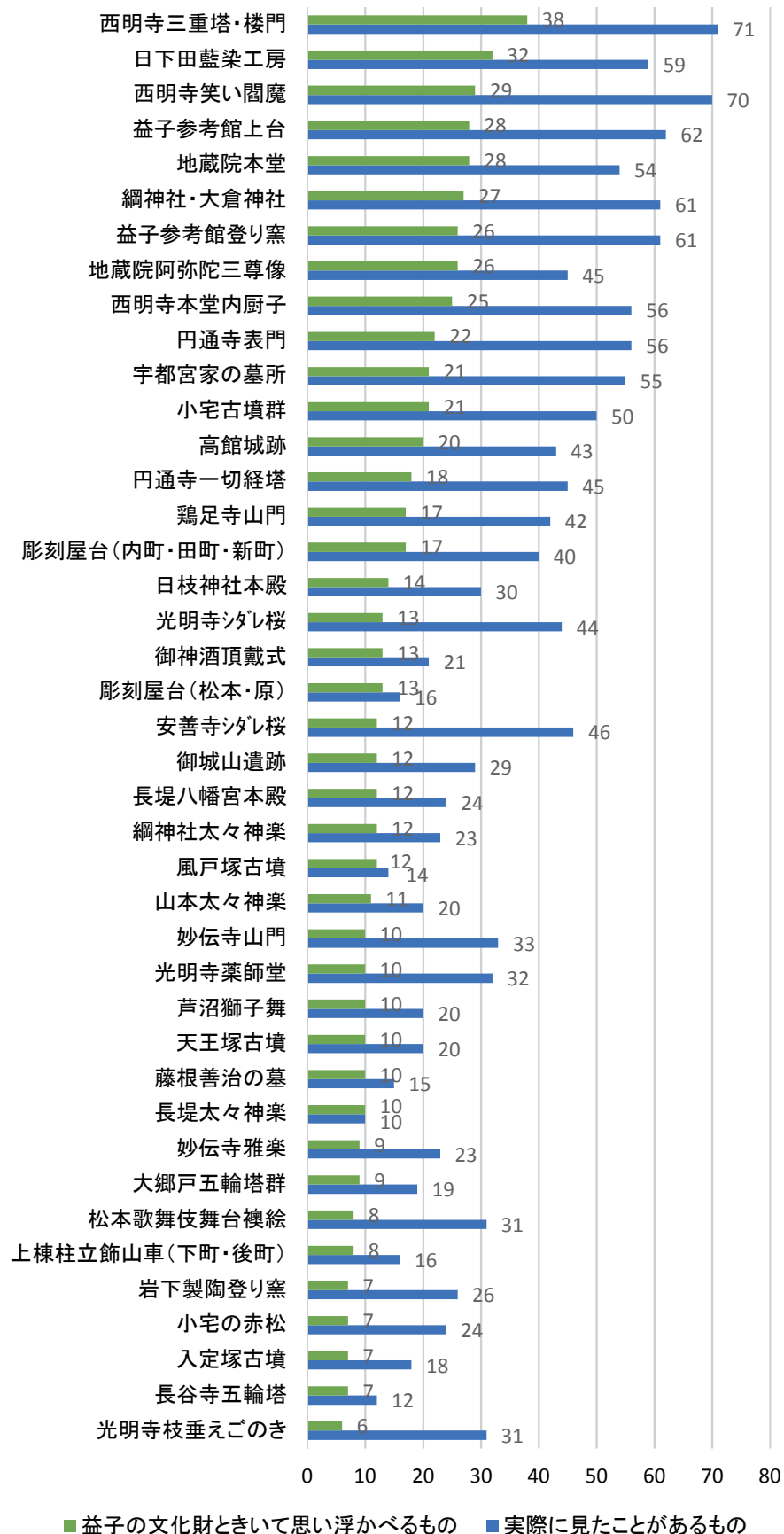


図 2-14 益子町の文化財ときいて思い浮かべるもの、実際に見たことがあるもの

・益子町の好きな風景

<p>《山・植物・自然》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の多いところ [4]</li> <li>・小高い丘、山並み [6]</li> <li>・近くと遠くに見える山の風景</li> <li>・鶏足山塊（雨巻一足尾一焼森一鶏足山）、大平山（芳賀富士）、高館山等を含む [8]</li> <li>・大郷戸ダム付近の山々</li> <li>・アプローズの前から見る益子の山々の風景</li> <li>・メッセからの日光連山（御城山・益子小・西明寺から見る） [2]</li> <li>・益子から見た男体山</li> <li>・冬の生田目農道付近から見える富士山</li> <li>・山本から見た前沢町有林</li> <li>・雨巻山頂からの眺め [2]</li> <li>・山がきれいで木々、花が美しく咲いているところ</li> <li>・菜の花と桜の風景 [2]</li> <li>・沢山のキレイな桜の木</li> <li>・山桜が見える山の風景</li> <li>・春の花が咲く風景</li> <li>・原風景、山春</li> <li>・緑が豊か [2]</li> <li>・雑木林 [3]</li> <li>・益子の森</li> <li>・自然な森&amp;空</li> <li>・星空 広い空</li> <li>・あまり整備しすぎない自然</li> <li>・関東平野</li> <li>・百目鬼川のかわうそ さぎ アマガエル</li> </ul> <p>《里山・田園風景・田舎》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田園風景 [10]</li> <li>・上大羽の田園風景</li> <li>・小貝川周辺の田園風景</li> <li>・里山（特に大羽の山々） [8]</li> <li>・里山の風景 [6]</li> <li>・田舎の風景 [2]</li> <li>・夕焼空と田園</li> <li>・麦畑の風景</li> <li>・ふる里を感じる風景</li> <li>・里山、山あり、田あり、畑あり、バランスよくまとまっている</li> <li>・里山の原風景と市街地の陶器店</li> <li>・里山に囲まれた自然と歴史の調和のある風景</li> </ul>	<p>《町並み》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い山等に登って見下ろした町の風景など</li> <li>・益子小から見る宇都宮方向の風景</li> <li>・ワグナー・ナンドールさんへ行く道から御城山方面を見た風景</li> <li>・陶芸の家々、お店</li> <li>・城内坂</li> </ul> <p>《建造物・電車・登り窯》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考館上台</li> <li>・神社寺院その境内</li> <li>・登り窯の煙 [4]</li> <li>・登り窯の炎</li> <li>・田園を走るSL</li> <li>・夕焼けをバックに走る電車</li> </ul> <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな風景</li> <li>・全部</li> <li>・小中学生の登下校姿（アイサツをしてくれる）</li> <li>・歴史を感じさせる風景</li> <li>・澄んだ空気と静かな暮らし</li> <li>・放射能のない美しい風景</li> <li>・文化財が多い</li> <li>・町民の益子焼きに対する意識</li> <li>・町の人の人柄、懐かしさ、個人店が多い</li> </ul>
---	--

・今後希望する歴史文化に関わる講演テーマ

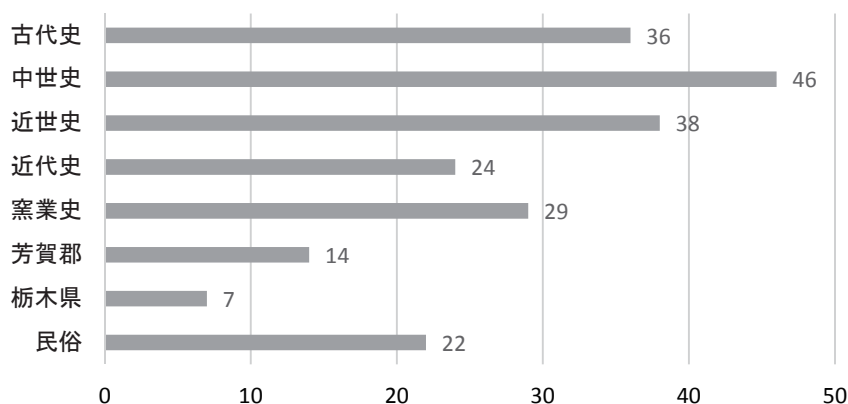


図 2-15 今後希望する歴史文化に関わる講演テーマ

【その他のアンケート】

・益子町で自慢できるもの

<p>《自然・風景》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山の風景 [5]</li> <li>・自然がいい [4]</li> <li>・風景、景観 [3]</li> <li>・四季のある自然</li> <li>・キレイな山、桜、花</li> <li>・生田目林道の山桜の植えてある付近</li> <li>・大羽地区のやさしい里山景観</li> <li>・益子の森</li> <li>・人が多すぎず、空気がきれい</li> <li>・百目鬼川源流のホタル</li> <li>・自然災害が少ない</li> </ul>	<p>《産業・生活》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・益子焼 [12]</li> <li>・いちご</li> <li>・田舎すぎず、都会すぎず、住みやすいところ</li> <li>・生活に困らない環境と豊かな自然の両立</li> <li>・自然生活</li> <li>・ポターリング益子などの楽しいイベント</li> <li>・土祭、スポーツクラブなど</li> <li>・カフェ [2]</li> <li>・古民家</li> <li>・若者にウケる陶芸の街としての雰囲気 (焼き物・カフェ等)</li> </ul>
<p>《歴史文化》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的なものがたくさんあること [3]</li> <li>・歴史ある文化遺産等 (安善寺・地藏院・円通寺・西明寺・各種神社等)</li> <li>・歴史文化 (特に大羽地区が好きです。)</li> <li>・古代からの歴史</li> <li>・中世の文化財 [6]</li> <li>・国指定や県指定の文化財</li> <li>・西明寺城跡</li> <li>・御城山跡</li> <li>・益子の祇園祭</li> <li>・日下田藍染め [2]</li> <li>・亀岡八幡宮周辺の古墳群をめぐるところ</li> <li>・大羽の文化財と地区の風景 [2]</li> </ul>	<p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由なフンイキ</li> <li>・ゆったりとした時間</li> <li>・セント・アイヴスとつながっている</li> <li>・益子中学校</li> <li>・城内坂</li> </ul>
<p>《住民》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者に対し寛容であるところ [2]</li> <li>・他者を受け入れる心の広さ。親切さ。</li> <li>・益子の人はみんな良い方々たちです</li> <li>・若い人が多くて自由なかんじ</li> <li>・人情 [3]</li> <li>・益子の人々 (開放的な外の人を受け入れる雰囲気)</li> <li>・観光ボランティアに代表される様々な町民グループによる活性化活動があること</li> <li>・益子焼きとそれにかかわった人々のこと</li> <li>・豊かな自然とそこに生きる人々</li> <li>・物づくりに大勢の人がかかわっている</li> </ul>	

(3) アンケート結果から見る益子の歴史文化に関する町民意識

当アンケートでは、益子焼に関する認識と益子の歴史文化に対する意識、益子町の魅力について調査した。

①益子焼に関する認識

益子焼については未回答を除けばほとんどの人が使用している。また益子焼に関する認識では、日常的に使う焼き物という認識は共通しているが、伝統工芸品としての益子焼が製造技法および土と釉薬に決まりがあるのに対し、商標登録上の益子焼は益子町と接する市町(市貝町、真岡市、茂木町)で生産された陶磁器も含まれ、土や釉薬を指定するものではないため、伝統的な厚みがあり柿釉などを用いた器から現代作家の作品までさまざまな認識がされている。また、現状の課題なども含めて多くの人々が益子焼について幅広い知識を持っていることがうかがえた。

## ②益子の歴史文化に対する意識

当アンケートは歴史講座等を利用して実施したものであるが、図 2-14 をみると、全体的に、益子の文化財と聞いて思い浮かぶ文化財は、もっとも多く回答があった西明寺三重塔・楼門でも 40%程度であり、町の文化財を文化財として意識している人は少ないといえる。一方で文化財の意識はなくても、西明寺三重塔・楼門で 70%を越えるなど、文化財の所在地を訪れたことのある人が多いという結果となったことは町民意識のひとつの特徴といえる。詳しく見ると、国指定文化財 7 件の他に、西明寺や上大羽の文化財、益子参考館（上台・登り窯）、日下田藍染工房を益子の文化財と連想する人が多く、これらは実際に訪れたことがある人も多い。文化財の種類別でみると、寺社などの建造物を文化財のイメージと捉える人が多く、実際に訪れている人も多い。松本歌舞伎舞台背景襖絵は、4年に1度松本地区で公開されるため人目に触れる機会は少ないが、見たことのある人は比較的多い結果になった。地元の努力によってこのような結果になったと思われるが、他にも平成 24 年以降実施している「里山芸術祭」や「ましこ伝統芸能フェスティバル」で会場の町民会館にこの舞台を設置し多くの町民に見てもらったことが影響した可能性があり、これらのイベントが町内の文化財認知のきっかけになっているともいえる。小宅古墳群も地元の努力により近年桜や菜の花の名所といえるまでに整備されている。今後、文化財としての認知度と訪れる人の増加が期待される。

好きな風景については、大きく分けて山並みや植物などの自然、田園風景などの里山、山などから見下ろした景色や陶器店が並ぶ町並み、登り窯や伝統的な建造物などに関する回答を得られた（「・益子町の好きな風景」一覧参照）。山は高館山、雨巻山、芳賀富士などの町内にある山を望む風景が多く、日光連山を望む景色を挙げる人も見られた。田園風景などの里山と合わせると、多くの人が自然と共存した風景を好んでいることがわかる。また、陶器店が並ぶ城内坂や登り窯から立ち上る煙などの風景も多く挙げられ、陶芸の里らしい風景が好まれている。

今後歴史講座のテーマにしてほしい分野についての問いでは、中世史がもっとも多かったが、近世史や古代史などの要望も多く益子町の幅広い歴史を学ぶ機会が求められている（図 2-15 参照）。

## ③益子の魅力

益子町で自慢できるものについては、自然・風景、歴史文化、住民、産業・生活、その他に分けることができる（「・益子町で自慢できるもの」一覧参照）。歴史講座を利用したアンケートであったこともあり、歴史文化に関するものを挙げる人がもっとも多く、特定の文化財より上大羽などの地域や雰囲気など空間的な部分を自慢できると思っている人が目立った。自然や里山について挙げる人も多く、自然とともに生活するなど住みやすさを挙げる人もみられた。住民については、同じ町民を誇りに思う人も目立ち、移住者など他者を受け入れる寛容さが挙げられていることが注目される。産業については言わずもがな益子焼関連を挙げる人が多く、その他は、自由な雰囲気やゆったりとした時間といった目に見えない部分を自慢できるとした回答が挙げられた。



## 第3章 益子町の歴史文化の特性と保存・活用の課題

### 1. 益子町の歴史文化

#### 1-1 自然の特性

益子町の自然の特性として第一に挙げられるのは、自然度の高い植生の分布である。もとより雨巻山や高館山は、植物分類・地理学上、暖温帯植物の宝庫であることが知られており、牧野富太郎や本田正次、関本平八等の著名な植物学者が益子を訪れ、研究の対象としてきた。西明寺境内の椎林叢（県指定天然記念物）やリンボク群生地（町指定天然記念物）は、益子が暖温帯植物の分布地であることを表すものである。リンボク群生地は栃木県では、高館山のみであり、日本の北限に近い貴重な例となっている。

一方で、高館山や雨巻山の山頂部では、冷温帯植物であるブナが存在する。暖温帯植物のスタジイ等と冷温帯植物のブナが混在する植生は全国的にも非常に珍しく、益子の自然の最大の特性となっている。

貴重な自然植生と共に、益子の自然を考える上で欠かせないのが、長く暮らしの中に息づいてきた里山（二次林）である。益子の里山はコナラやアカマツを主体としており、燃料である薪や炭、堆肥となる落葉の供給地であった。特にアカマツは発熱量が大きく焼き物の焼成に適しているため、益子焼の焼成燃料として利用された。また、益子の大地を形成する地層の中で、町の北部に分布する新生代新第三紀の地層から芦沼石が建材や釉薬として産出され、新生代第四紀更新世中頃の砂や粘土を含む礫層中の粘土から益子焼の陶土が産出された。

これらは益子の暮らしや産業と深く結び付いており、益子町にとって貴重な資産であると言える。



写真 3-1 西明寺境内の椎林叢



写真 3-2 高館山山頂のブナ



写真 3-3 粘土の原土



写真 3-4 芦沼石の採石場跡

## 1-2 歴史の特性

益子の歴史の中で特徴的な時代として、古墳というモニュメントを通して、古代益子の地に現れた豪族たちの足跡を見ることができる古墳時代、下野薬師寺や下野国府等に供給する瓦の生産を行い、芳賀山観音寺（後の西明寺）が創建され、紀氏が本格的に益子の地に進出して後の益子氏となった平安時代、宇都宮氏および宇都宮氏の有力家臣となった益子氏により多くの寺社が創建・整備され、城館が築かれて文化的にも経済的にも隆盛を迎えた鎌倉時代から室町時代、大塚啓三郎により開始された益子焼が産業として発展した幕末～明治時代、濱田庄司の移住をきっかけに、日用雑器であった益子焼が民芸品としての地位を確立した昭和時代を挙げることができる。

中でも、鎌倉時代から室町時代の中世の文化財や遺跡は歴史的な価値の高いものが多い。益子町の指定文化財のうち、国指定の文化財となっているのはすべて、室町時代の寺社の建造物である。これらの寺社が所蔵している仏像でも地蔵院所蔵の木造阿弥陀三尊像の観音菩薩座像と勢至菩薩立像が、鎌倉時代の著名な仏師である快慶作の可能性が高いことが指摘されるなど、今後の調査により、その価値が高まると予想されるものが存在する。また、円通寺に設けられた学問所である大沢文庫が所蔵した月形函文書や、地蔵院所蔵の絹本著色両界曼荼羅図など、書跡や絵画、長谷寺の羽石家五輪塔などの考古資料等の文化財も多く存在する。中世の館跡も町の各所に存在し、西明寺城は南北朝時代に、南朝の関東六城の最北端の拠点として重要な役割を果たしたことが史料に記されている。

このように、豊富な文化財が残されている益子の中世文化財群のなかでも、宇都宮朝綱が亡くなった息子業綱を弔うために創建した尾羽寺、地蔵院、宇都宮家の墓所など、上大羽地区に残る宇都宮氏関連の文化財は、宇都宮氏がこの地を笠間方面へ進出するための前線地として位置づけたとされることから、益子のみならず、関東の中世の歴史を考える上でも重要である。



観音菩薩座像 阿弥陀如来立像 勢至菩薩立像

写真 3-5 木造阿弥陀三尊像（鎌倉）



写真 3-6 羽石家五輪塔



宇都宮氏は中世の名族で、鎌倉幕府や室町幕府の中でも重要な地位にあった。本拠地である宇都宮市では、近世の城下町の整備や近代以降の都市化により、宇都宮氏の遺跡や文化財の多くが消滅しているため、上大羽の地が宇都宮氏の歴史文化を探り偲ぶことができる最適地となっている。

特に、宇都宮氏歴代の当主が祀られた宇都宮家の墓所は、宇都宮氏にとって聖地であったと考えられる。宇都宮家の墓所周辺の遺構配置は、墓所とゆかりの寺院跡や多宝塔跡が南北に並ぶ状況が、足利氏の墓所が所在する足利市樺崎寺跡一带と類似しており、それから類推すると、墓所や地蔵院の前面（西側）に浄土庭園が存在する可能性が高いことが指摘されている。

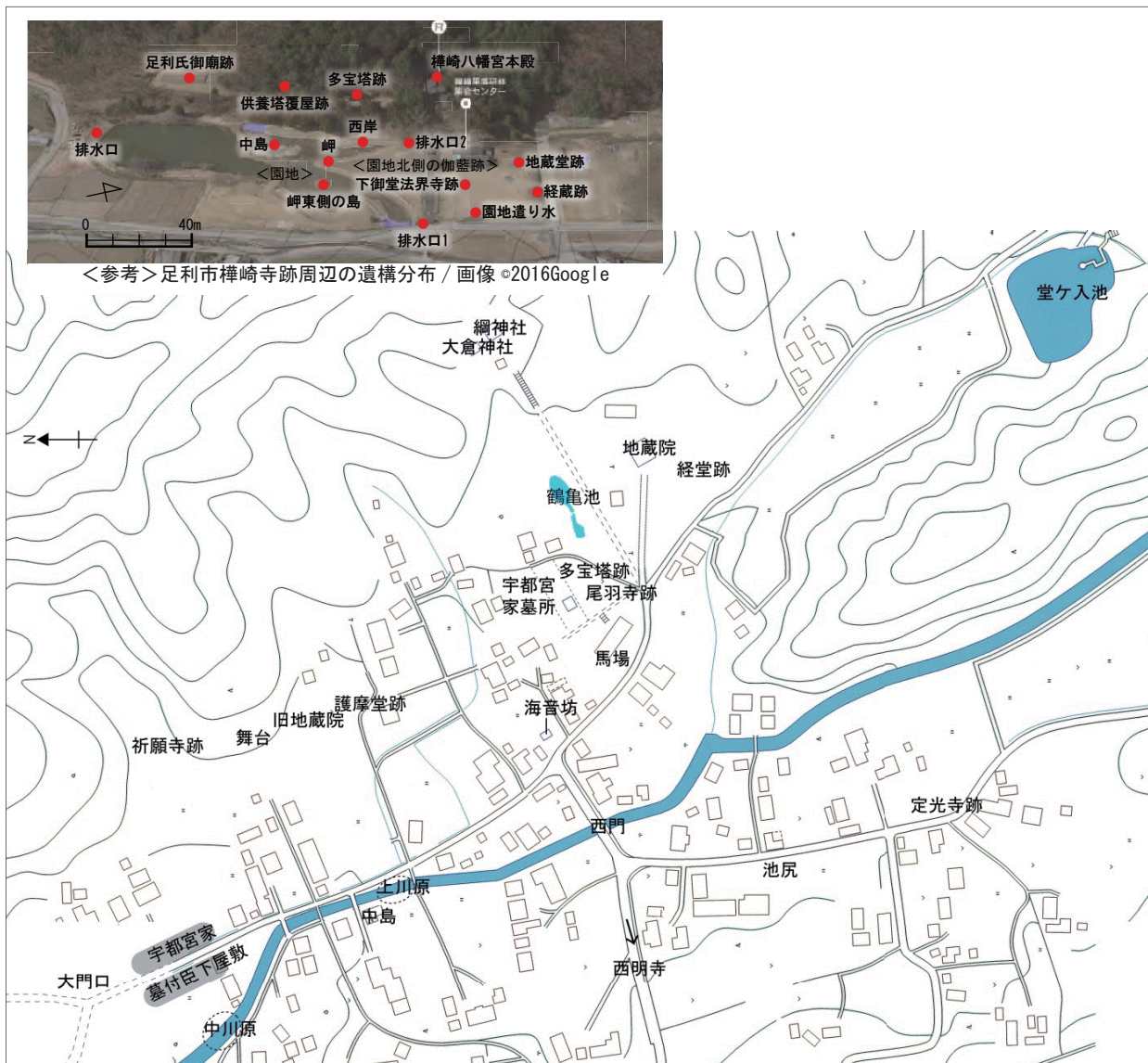


図 3-1 上大羽、宇都宮家の墓所、地藏院周辺の遺構分布



### 1-3 暮らしと文化の特性

#### (1) 益子焼のはじまりと工芸の発展

益子の基幹産業の一つである益子焼は、益子の産業のみならず文化を語る上でも欠かすことができない存在である。益子焼は大塚啓三郎が嘉永6年（1853）に根古屋に窯を築いたのが始まりとされている。大塚啓三郎は茂木の福手村に生まれ、常陸国笠間村の鳳台院慈眼寺に住み込んでいた時、住職が箱田の久野窯に出資していた関係で、窯場を訪れるうちに焼き物の技術を習得した。その後、益子村の大塚平兵衛の婿養子となり、益子村から実家の福手村に帰る途中、大津沢で良質な陶土を発見したのをきっかけに、農閑期に焼き物を始めるようになった。

初期の益子焼の発展に大きな貢献をしたのは、安政2年（1855）に黒羽藩から郷奉行として赴任した三田称平であった。称平は着任後、領内検分の折、益子の土質が焼き物に適していることを発見し、益子焼を藩の物産とするために様々な保護奨励策を実施した。常陸国の宍戸焼や笠間焼の窯元で技術を身につけた陶工を招いて生産の拡大と安定を図った。また、大阪勤務時代に見かけた直接火にあてて酒を温める器を参考に称平徳利を考案し、大塚啓三郎に焼成させた。これは当時流行の酒器となった。安政4年（1857）には大塚啓三郎、大塚英治、菊池清蔵等の6窯に対して奨励覚書を交付し、財政的な援助を行った。これらの窯元達が覚書の仕法に従って各々焼成に勉勵した結果、益子焼は声価をあげて江戸へも市販されるようになり、藩の財政を潤す物産になった。

明治初年には益子焼の窯元は20数軒に増加し、益子焼の生産に適した条件を供えた道祖土から城内にかけての丘陵地に多くの窯が築かれた。明治時代から大正時代にかけて、益子焼の生産は好不況等の社会的な要因を受けて増減した。そうした中でも、明治36年（1903）に陶工の技術の養成のために、益子焼発祥の地である根古屋の大塚忠治（啓三郎の息子）窯場の一部に益子陶器伝習所が開所する等、焼き物の品質向上に努め、焼き物の町益子の地盤を固めていった。

すり鉢、片口等の日用品の生産が主体であった益子焼が、民芸品、工芸品としての地位を獲得し、全国にその名が知られるようなきっかけとなったのが、濱田庄司の益子への移住であった。

濱田庄司は大正9年（1920）に益子を訪れて以来、益子焼に興味をひかれた。その後、バーナード・リーチとともにイギリスに渡り、コーンウォール州セント・アイヴスに東洋式の登り窯を築窯して作陶した後、

帰国して大正13年（1924）に益子に移住して作陶活動に入った。濱田が益子を作陶の地に選んだ理由は、渡英中訪れたディッチリングでの染織家エセル・メーレやエリック・ギルなどとの交流から、田園の風土に根を下ろし創作活動する芸術家や工芸家の暮らしに影響を受けたことが指摘されている。益子が比較的東京に近く、ロンドンとディッチリングの距離に類似していることも考慮されたと考えられる。濱田がバーナード・リーチと窯を築いたセント・アイヴスはロンドンから遠く、作品販売の面では苦労があった。また、何より益子で産出される粘土が、砂目の多いざっくりした土を好んで使う濱田の作風に合っていたことが大きいと考えられる。



写真 3-7 称平徳利（個人所蔵）



写真 3-8 濱田庄司



写真 3-9 濱田庄司作品

写真 3-10 島岡達三作品

濱田の移住は、益子に徐々に変化をもたらしていった。益子の陶土と釉薬を使いながらも、従来とは異質のものを作る濱田に、当初、窯元たちは拒否反応を示した。しかし、好奇心の強い佐久間藤太郎など若い陶工たちは濱田の説く「民藝」に耳を傾け、民藝新作運動などに取組み始めた。民藝運動に熱心に取り組んだ濱田のもとへは、同じくこの運動に取り組む柳宗悦、バーナード・リーチ、芹沢銈介、棟方志功等の文化人や芸術家が訪れ、益子に足跡を残した。濱田により、皆川マスの絵付けが評価され、また、濱田の紹介で笹島喜平が棟方志功に師事し、版画家笹島喜平として独自の作風を開発していった。益子は国内に限らず、海外へも及ぶ民藝運動の交流（ネットワーク）の中に位置づけられることとなった。そのネットワークは今日、益子国際工芸交流館でのアーティストの国際交流や、セント・アイヴスとの文化交流に活かされている。

益子の風土から生まれるべくして生まれたような濱田の陶芸は高い評価を受け、昭和30年（1955）、「重要無形文化財技術指定保持者」（人間国宝）に指定される。濱田の知名度と共に、益子焼の認知度も高まった。また、濱田を慕って門下生となった村田元、島岡達三や、作陶の地として益子を選び、濱田庄司に称賛されたことから注目を集めるようになった加守田章二など、様々な陶芸家の作品が益子の地で生まれることになった。こうして、益子焼の伝統に基づきながら、自由な作家性を表現する益子独自のスタイルが確立されていった。

また、民藝運動の一環として、濱田は益子に手仕事村を構想し、町内の木工、鍛冶、藍染などに携わる若手職人たちを集めその理念を伝えた。彼らの取組みは昭和15年（1940）の雑誌『民藝』で紹介されている。戦中から戦後、激動の時代背景の中で具体化はなされなかったが、家具屋の広瀬氏に濱田が発注した階段箆笥は、日本民藝館西館（旧柳宗悦邸）、河井寛次郎記念館、益子参考館などに残り、鍛冶屋の熊代氏による濱田意匠のランプシェードは日本民藝館の玄関ホールに飾られている。日下田家により代々受け継がれた紺屋は、江戸創業時の藍甕を守り、染・織の新たな可能性に取り組んでいる。陶芸の他にこうした工芸の伝統技術が継承されているのも、益子の大きな特徴である。



## (2) 祭りと民俗芸能

益子には各所に土地の人々に受け継がれてきた祭礼や民俗芸能が存在する。代表的なものに、各地の神社で行われる祭礼がある。旧黒羽藩の領地であった内町・新町・田町・道祖土・城内で行われる八坂神社の祭礼（通称益子祇園祭）では、御神酒頂戴式という当番町引継ぎの儀式が行われている。1年365日にちなんで3升6合5勺入りの大杯に注がれた酒を飲み干し、五穀豊穡、無病息災、家内安全を祈願する儀式で、かつて黒羽藩主大関公より御神酒を賜った故事によると言われている。この祭りの付祭り引き回される彫刻屋台は、江戸時代後期の文化・文政頃に宇都宮でつくられたもので、益子の三町内（新町、内町、田町）が明治15年（1882）頃に購入して、現在にいたっている。宇都宮の屋台は昭和20年（1945）の空襲でほとんどが失われたため、当時の文化や彫刻技術を知る上で貴重な文化財となっている。祇園祭の祭礼は山本地区でも行われており、原には宇都宮で製作された彫刻屋台がある。また、同地区の松本では、他の彫刻屋台と異なる京都で製作された県内でも珍しい屋台が存在する。この他にも山本地区では鹿島神社・八幡神社の祭礼も行われている。その他の地域でも、七井の八雲神社祭礼（通称ギョンサマ）、日枝神社祭礼、長堤の八幡宮例大祭（通称大日さま）、東田井の鹿島神社内八坂神社夏祭り、塙の春日神社例大祭、下大羽の高麗神社祭礼、大平の熊野神社祭礼など、各地で祭りが行われている。七井地区の下町・後町では、昭和35年（1960）頃に途絶えた夏祭りの山車を平成26年（2014）に復活した。龍神さま（雨乞い）、風祭り（台風除け祈願）、どんどん焼などの季節の行事にちなんだ祭りも各所で伝えられている。



写真 3-11 八坂神社御神酒頂戴式



写真 3-12 内町彫刻屋台



写真 3-13 新町彫刻屋台



写真 3-14 田町彫刻屋台



写真 3-15 松本屋台



写真 3-16 原彫刻屋台



民俗芸能では、芦沼獅子舞が町指定の無形民俗文化財になっている。通称芦沼のささらといわれ、1月の奉経塔祭、8月の観音堂一万燈祭、12月の地藏尊縁日で演じられる。一時、途絶えていたが、昭和47年(1972)に復活した。同じく、山本地区の松本では歌舞伎舞台を復元したことをきっかけに、昭和26年(1951)以来途絶えていた農村歌舞伎を平成17年(2005)に従来どおり外部から演者を招いて上演し復活させた。4年に一度、松本三ノ宮神社境内で開催される。この舞台では、山本に伝わる伝統芸能である妙伝寺雅楽や、山本太々神楽も披露される。太々神楽は大羽の綱神社等にも伝えられている。

祭礼と密接に関わる民俗芸能は、各地区の人々の交流の核となってきたものであり、多彩な祭りや芸能が継承されてきたことは、益子の暮らしと文化の大きな特性である。こうした伝統文化を大切にす風土を背景に、あじさい祭りや土祭等の新しく創造された祭りも行われている。



写真 3-17 芦沼獅子舞



写真 3-18 山本太々神楽



写真 3-19 長堤太々神楽



写真 3-20 綱神社太々神楽



写真 3-21 妙伝寺の雅楽

### (3) 多彩な人物群と芸術文化

益子は地元出身者と移住者の芸術家やクリエイターが多く存在する地でもある。

益子出身で江戸時代後期に活躍した画家の小泉斐は、鮎の絵で著名であるが、富士登山の折に描いた「富嶽写真」は、富岡鉄斎の富士図製作や、葛飾北斎の富嶽三十六景にも影響を与えたと言われる。濱田庄司の移住以後、陶芸の里としての益子の知名度が高まったことや、濱田による民藝運動のネットワークの中で、様々な文化人や芸術家が訪れたこともあり、益子に醸成された文化的風土は、笹島喜平（版画家）や古郷秀一（彫刻家）のような地元出身の芸術家を生むと共に、他所から芸術家やクリエイターが益子へ移り住むようになった。

ハンガリー出身の彫刻家ワグナー・ナンドールは、スウェーデンから移住し、昭和45年（1970）に益子にアトリエを建設して、そこで様々な作品を制作した。現在、そのアトリエはワグナー・ナンドール アートギャラリーとなって、益子町の文化施設の一つとなっている。また、世界的ファッションデザイナーの熊谷登喜男のパートナーとして、TOKIO KUMAGAI ブランドのプロデュースを手がけたクリエイターの馬場浩史は、「衣食住のクリエイティブな自給自足」を実施できる場として益子へ移住し、平成10年（1998）にカフェ・ギャラリー「スターネット」を開設、益子へ多くのカフェがつけられるさきがけとなった。また土祭を企画し、総合プロデューサーもつとめた。

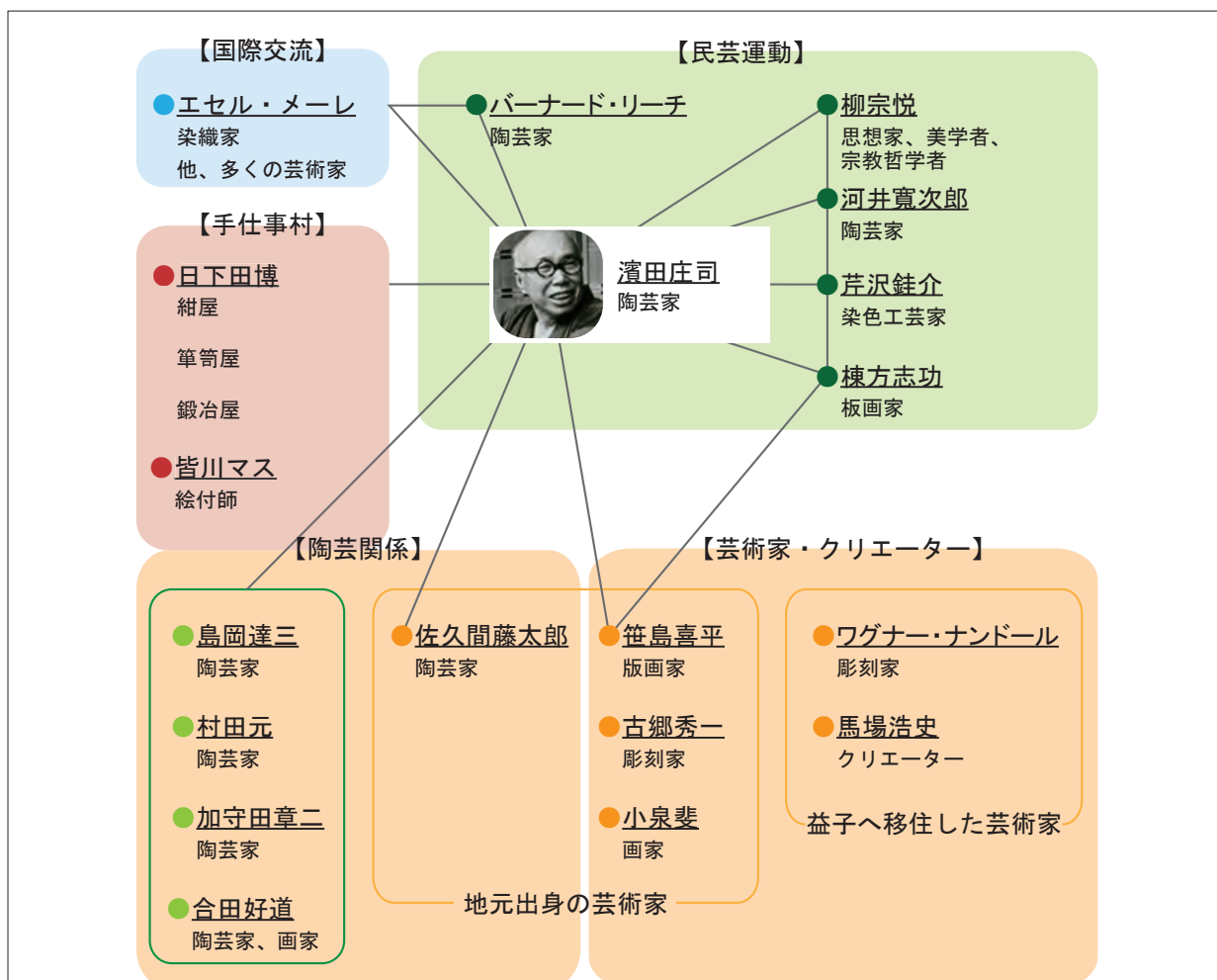


図 3-2 人物相関図

#### 1-4 益子町の歴史文化特性のまとめ

##### (1) 歴史の足跡を伝える豊富な文化財

益子の歴史の中で特徴的な時代として、県内の古代史を語る上で貴重な古墳がつくられた古墳時代、大規模な古窯址群が残り、紀氏が本格的に益子の地に進出してきた平安時代、宇都宮氏および宇都宮氏の有力家臣となった益子氏により経済的にも文化的にも隆盛を迎えた鎌倉時代から室町時代、大塚啓三郎により開始された益子焼が産業として発展した幕末～明治時代、濱田庄司の移住をきっかけに、日用雑器であった益子焼が民芸品としての地位を確立した昭和時代を挙げることができる。

中でも、鎌倉時代から室町時代の中世の文化財や遺跡は歴史的な価値の高いものが多い。特に、上大羽一帯に残されている遺跡や文化財は、益子のみならず、関東の中世の歴史を考える上でも重要である。宇都宮家の墓所周辺の遺構配置は、墓所とゆかりの寺院跡や多宝塔跡が横（南北）に並ぶ状況が足利市の樺崎寺跡と類似しており、それから類推すると、墓所や地蔵院の前面（西側）に浄土庭園が存在する可能性が高い。

##### (2) 工芸・芸術文化の遺産

昭和30年代までは、すり鉢や片口等の日用品の生産が主体であった益子焼が、民芸品、工芸品としての地位を獲得し、全国にその名が知られるようなきっかけとなったのは、濱田庄司の移住である。

濱田の移住は、益子焼を日用品から民藝陶器へと変化させ、益子を全国、さらにはバーナード・リーチを通して海外へも及ぶ民藝運動の交流（ネットワーク）の中に位置づけるきっかけとなった。また、民藝運動に取り組む柳宗悦、バーナード・リーチ、芹沢銈介、棟方志功等の文化人や芸術家が益子を訪れ滞在したことにより、多くの財産が益子に残された。

濱田に続いて村田元、加守田章二、島岡達三等の才能ある陶芸家が益子に集まり、益子焼の伝統に基づきながら、自由な作家性を表現する益子独自のスタイルが確立されていった。また、江戸創業時の藍甕を守りながら、染・織の新たな可能性に取り組む日下田家は、濱田の手仕事村の理念を伝えている。陶芸の他にこうした工芸の伝統技術が継承されているのも、益子の大きな特徴である。

濱田による民藝運動のネットワークの中で、益子に醸成された文化的風土は、笹島喜平や古郷秀一のような地元出身の芸術家を生むと共に、ワグナー・ナンドール等の芸術家やクリエイターが他所から益子へ移り住む素地を作ったといえる。

これらの芸術家やクリエイターの足跡は、益子の歴史文化遺産の一つとなっている。

##### (3) 伝統と交流の要としての祭りや民俗芸能

益子には各所に土地の人々に受け継がれてきた祭礼や民俗芸能が存在する。これらの中には、一度途絶えながらも復活したもの、現代に創設されたものもある。

益子祇園祭や各地域に保存・活用されている彫刻屋台等は、貴重な文化財となっている。

龍神さま（雨乞い）、風祭り（台風除け祈願）、どんどん焼などの季節の行事にちなんだ祭りも各所で伝えられている。

芦沼獅子舞や松本歌舞伎舞台、妙伝寺雅楽、山本鹿島神社や綱神社の太々神楽等、民俗芸能も多彩である。

こうした伝統文化を大切にする風土を背景に、あじさい祭りや土祭等の新しく創造された祭りも行われている。



#### (4) 特徴的な植生と、暮らしと結びついた自然系文化遺産

益子は暖温帯の植物の宝庫であり、スダジイ、リンボク等が自生している。高館山や雨巻山の山頂部では、これら暖温帯植物に混じって冷温帯植物であるブナが自生している。暖温帯、冷温帯双方の植物が混在することは全国的にも珍しい。

コナラやアカマツを主体とした里山および芦沼石や益子焼の陶土を産出する益子の大地（地層）は、他と比べて、特段に特徴的なものではないが、益子の暮らしや産業と深く結び付いた貴重な資産である。こうした人と自然との係りによって成立した資産を自然系文化遺産とする。

益子の歴史文化の基盤を成すものとして、土と里山をあげることができる。焼き物に適した陶土を生み出す土は、益子の暮らしの糧となった農産物を育み、また、焼き物の釉薬にもなる芦沼石やマンガンなどの資源も産出している。

里山が生み出す木材を利用した薪や炭は、江戸時代には益子を代表する物産として江戸に運ばれ、昭和30年代まで燃料として人々の生活を支えた。また、落ち葉は堆肥となって益子の土地を肥よくにし、森は保水や水の浄化の役割も担っていた。



図 3-3 益子の自然と益子焼の関係図

## 2. 益子町の歴史文化遺産

### 2-1 文化財および歴史文化に関わる調査

#### (1) これまでの調査履歴

益子町史編纂事業を昭和55年（1980）から平成3年（1991）に町村合併30周年の記念事業として実施し、益子町史編纂委員会を組織し約10年をかけて編纂した。これに伴い、遺跡分布調査、西明寺測量調査、近世文書・近代文書の悉皆調査と所在目録・マイクロフィルムの作成、窯元に関する統計調査、車堂遺跡、山居台遺跡、原東窯跡、近代窯跡などの発掘調査を行った。これらの調査は栃木県埋蔵文化財センターや大学と連携して実施した。

表3-1 発掘調査

発掘年	遺跡	時代	出土物	備考
1983年	車堂遺跡	弥生時代後期	住居跡3、二軒屋式土器・十王台式土器、紡錘車、凹石	町史編さん事業
1954年	荒久台古墳群 (天王塚古墳)	6世紀末～7世紀前半	円筒埴輪・形象埴輪、装身具、武器、武具、馬具、鏡、太刀	早稲田大学による
1985年	山守塚古墳	古墳時代後期 6世紀後半～7世紀代		記録保存のための調査

表3-2 開発事業に伴う発掘調査

発掘年	遺跡	時代	出土物	備考
1973年	向北原遺跡	古墳時代前期	堅穴住居跡15、方形周溝墓8（35m×36m大型周溝墓） ※古墳時代前期の方形周溝墓は少数	ゴルフ場造成
1975年	長堤遺跡	弥生時代	住居跡4、二軒屋式土器・十王台式土器	県道新設工事
1975年	星の宮ケカチ遺跡	平安時代前期	掘立柱建物8、堅穴住居24、佐波理の匙外遺物多数	益子高校の校庭敷地造成工事
1978年	大郷戸南遺跡	縄文時代	楕円形土坑数基	圃場整備
1979年	星の宮A遺跡	旧石器時代	削器、細石刃、礫器、石核	道路拡張工事
1980年	向北原南遺跡	8、9世紀代	住居跡、土師器、須恵器多数	県立益子養護学校造成工事
1981年	埴遺跡	旧石器時代	尖頭器、ナイフ形石器、石錐、石核・薄片	道路拡張工事
1982年	新田山古墳群	古墳時代	円筒埴輪、太刀（直刀）	宅地造成工事
1985年	向北原古墳群	古墳時代	古墳時代前期15件、古墳時代後期1件、方形周溝墓8基、円筒埴輪、土師器坏・甕	ゴルフ場造成
1989年	御城山遺跡	戦国時代	住居跡、溝、土師器・須恵器遺物多数	陶芸メッセ建設工事
1999年	御霊前遺跡	縄文時代	住居跡、土坑、遺物多数	県営広域農道線建設
2012年	高館城（西明寺城） 跡遺跡	戦国時代	溝、遺物少数	地上デジタル中継局建設
2015年	高館城（西明寺城） 跡遺跡	戦国時代	遺物少数	防災無線アンテナ設置

#### (2) 歴史文化に関わる主な刊行物

基本構想策定にあたって確認した史料・文献は下記の通りである。

- ・『益子町史』第1巻～第6巻、別巻 益子町（1985～1991）
- ・『芳賀の文化財』第1集～第25集 芳賀郡市文化財保護審議会連絡協議会（1967～2015）
- ・『益子町の文化財』 益子町教育委員会（1999）
- ・『益子の文化財』 下野新聞社（1970）
- ・『益子地名考』上中 野崎忠
- ・『ましこの民話「伝説とれきし」』 益子町郷土理解教育研究会（1997）
- ・『大羽史蹟抄』大羽小学校PTA文化部（1959）など集落ごとの郷土史 など

### (3) 歴史文化基本構想のための調査

#### ①益子の風土・風景を読み解くプロジェクト

「益子の風土・風景を読み解くプロジェクト」は、土祭 2015 開催に伴い行われたものである。町内を 13 地区に分けて、土祭風土形成ディレクター廣瀬俊介氏を中心に地域住民の協力を得ながら、平成 26 年（2014）10 月から平成 27 年（2015）6 月にかけて各地区を踏査、住民の方々への聞き取り、文献調査などを行った。1 回の踏査について平均 100 枚前後のスライドを作成、その報告内容を材料に地区住民と情報や意見を交換する「地区ごとの風土・風景を読み解くつどい」を、各地区の公民館等で開催した。

住民参加で益子の歴史と風土について調査や意見交換を行った当プロジェクトの成果は、基本構想の策定にあたっても貴重な資料となり得ることから、成果を位置づけることにした。

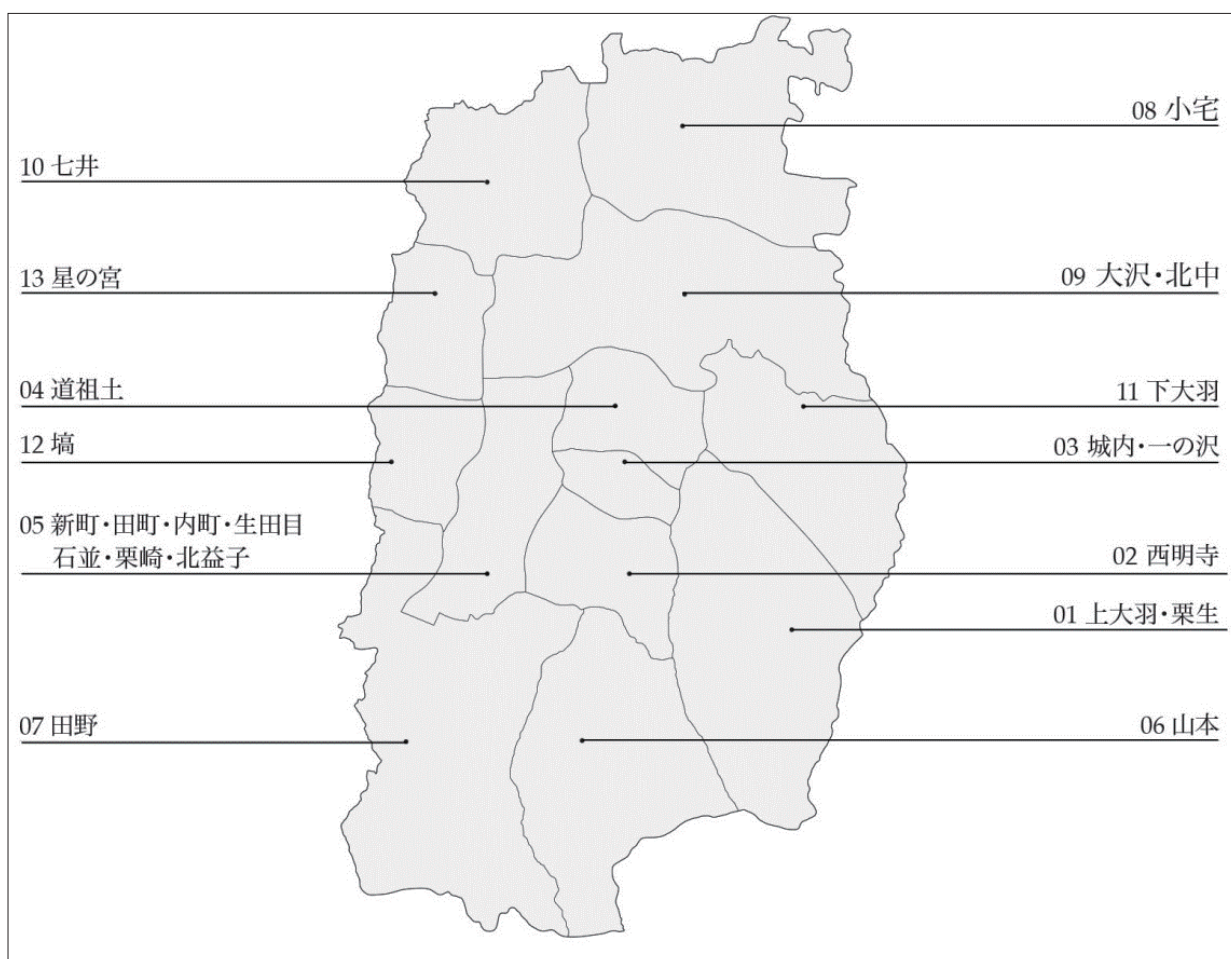


図 3-4 「益子の風土・風景を読み解くプロジェクト」の調査が行われた 13 地区



## プロジェクトで住民の方々により語られた益子の歴史風土

## 《益子の土》

・焼き物の陶土だけではなく、マンガン、芦沼石（陶器の釉薬にも使用）等の資源を含む地層。高館山に金山が存在したという伝説、朱が取れたとも伝えられている。

## 《益子の森（里山）》

・昭和30年代までは薪が燃料の中心であり、落ち葉は畑の堆肥として利用された。雑木林で、赤松が多かった。松は火持ちが良く、焼き物を焼くのに向いていた。薪や陶土、焼き物等を運ぶのに必要な荷車を引くために馬を飼っている家も多くあり、馬のエサとなる草を刈りにいく森（里山）があった。

## 《益子の水》

・森（里山）から流れ出る水が山と平地の間に流れ（小川）をつくる。様々な生物が生息して、夏には蛍が見られた。山水は冷たいので、テビグロという人口の水路に水を引き込んで、水を温めた。益子の気候は栃木県内でも特殊で、雨が少なく、農業用水用に溜池が掘られた（江戸時代地図には既に存在）。

・藍染の日下田家の前に西明寺からの細流があり、洗濯ができるくらいきれいな川で、ギンギョ（ギバチ）等の小魚も多く見られた。

## 《益子の祭り》

・各地域にそれぞれの祭りがある。

・八坂神社御神酒頂戴式                      ・祇園祭りの彫刻屋台

・芦沼の獅子舞                                ・太々神楽（長堤・山本・綱神社）

・その他農作業と結びついた祭り        ・山の神の祭り

## 《益子の生業》

・火山灰質の土壌で葉タバコの生産が盛んだった。たばこを干すペーハ小屋（たばこの乾燥小屋）では灯油が普及するまで、薪を燃やして乾燥していた。

・城内で見られた職種には、紺屋、鍛冶屋、籠屋、箆筒屋（木工/家具）、竹細工屋、唐傘屋などの他、馬の蹄鉄や荷鞍をつくった「荷鞍屋」もあった。

・昔の農家は皆農耕馬を飼っていた。農業のかたわら農耕馬に荷物を引かせる仕事（荷車屋）をしている人もいた。荷車屋は粘土や薪を運び、どの瀬戸屋も世話になった。

・焼き物に適した土（黄土）が採取できたため、北郷谷地区には水簸<sup>すいひ</sup>での手作業の粘土作りを行う職人さんたちが多く軒を並べていた。

## 《土地の歴史（文化財）とのつながり》

・一の沢の東の大門口という場所から高館城の大門に至る坂道があった。

・日下田藍染交差点近くの自転車店のところの中堀は益子城の堀だと言われている。近所の窯場の所や、日下さんのところに土塁も残っている。

・星ノ宮神社の前を通り、鬼怒川を渡らずに奥州へ行ける道はたつ街道という古い街道である。

・亀岡八幡宮の氏子青年会と里山の会で小宅古墳群の周りに桜や菜の花を植えている。



写真 3-22 マンガン採掘跡



写真 3-23 水簸の場

## ②文化財悉皆調査

益子町の歴史文化の特性を把握するため、基本情報の収集として文化財の悉皆調査を実施している。おもに『益子町史』や『芳賀の文化財』など、既存の文献に掲載されている文化財（未指定含む）を一覧にまとめているほか、文化財の現在の有無・状態の変化・記載漏れ等、記載内容に変更点がないかを確認するために現地調査で補完している。現地調査は事務局のみで実施するものと「文化財探検隊」として住民参加型で実施するものがある。

「文化財探検隊」は少人数のグループを組み、事務局作成の文化財一覧と地図などの資料をもとに散策しながら文化財を確認していく調査である。見つけた文化財はカメラで写真に撮り、文化財マップを作成した。平成 27 年 11 月から文化財悉皆調査の一助として実施し、所在確認による文化財分布図の作成や、一覧未掲載の文化財把握につなげた。住民に普段見過ごしがちな身近な文化財に目を向けてもらうことで、住民自身が地域の歴史や文化に関心を持つきっかけとなった。

実施地域は、普門寺周辺（上山／11/13）、光明寺周辺（山本／12/12）、上大羽（12/19）、長堤八幡宮周辺（長堤／12/25）、御霊神社周辺（大沢／12/26）、七井市街地（1/16）、益子市街地（1/23）、東田井（2/20）、生田目（2/27）の 9 か所である。

実施後は事務局が地図をとりまとめ、参加者に配布するほか、実施報告をまとめて平成 28 年（2016）3 月 19 日～4 月 17 日に中央公民館 1 階ロビーで展示を行った。



写真 3-24 文化財探検隊実施の様子①



写真 3-25 文化財探検隊実施の様子②



写真 3-26 文化財探検隊実施の様子③



写真 3-27 文化財探検隊報告の展示

## 2-2 指定文化財

益子町の文化財の種別ごとの件数は以下の表の通りである。国指定の文化財はすべて重要文化財の建造物であり、西明寺、地蔵院、綱神社、円通寺等の寺社の建築で、室町時代のものである。県指定文化財は有形文化財の彫刻が多いが、これは、中世の仏像が主である。町指定文化財では建造物と天然記念物が多い。建造物は江戸時代の寺社建築が主となっている。天然記念物はすべて樹木である。

表 3-3 指定文化財の総数

種類	区分	国指定	県指定	町指定	小計
有形文化財	建造物	7	5	14	26
	絵画	0	2	6	8
	彫刻	0	11	1	12
	工芸品	0	1	2	3
	書跡	0	5	2	7
	考古資料	0	1	4	5
無形文化財	工芸技術	0	1	0	1
民俗文化財	有形	0	1	6	7
	無形	0	0	6	6
記念物	史跡	0	6	7	13
	天然記念物	0	3	16	19
総計		7	36	64	107

※平成 28 年 8 月 1 日現在

表 3-4 指定文化財リスト

No.	種別	名称等	員数	指定年月日	所在地等	所有者(管理者)	時代	備考
1	国指定 建造物	西明寺三重塔	1 基	S25. 8. 29	益子	西明寺	室町	
2	国指定 建造物	西明寺楼門	1 棟	S25. 8. 29	益子	西明寺	室町	
3	国指定 建造物	地蔵院本堂	1 棟	S25. 8. 29	上大羽	地蔵院	室町	
4	国指定 建造物	綱神社本殿	1 棟	S25. 8. 29	上大羽	綱神社	室町	建久 5 年 (1194) 創建
5	国指定 建造物	綱神社撰社大倉神社本殿	1 棟	S25. 8. 29	上大羽	綱神社	室町	大同 2 年 (807) 創建
6	国指定 建造物	円通寺表門	1 棟	S25. 8. 29	大沢	円通寺	室町	
7	国指定 建造物	西明寺本堂内厨子	1 基	S37. 6. 21	益子	西明寺	室町	
8	県指定 建造物	円通寺一切経塔	1 棟	S33. 4. 25	大沢	円通寺	江戸	応永 9 年 (1402) 創建
9	県指定 建造物	西明寺本堂	1 棟	S37. 1. 9	益子	西明寺	江戸	応永元年 (1394) 建立
10	県指定 建造物	西明寺鐘楼	1 棟	S50. 1. 28	益子	西明寺	江戸	
11	県指定 建造物	日下田邸 (染色工房併用)	1 棟	H8. 8. 20	城内坂	個人	江戸	
12	県指定 建造物	益子参考館上台 (旧濱田庄司邸離れ)	1 棟	H14. 8. 30	益子	個人	江戸	
13	県指定 絵画	絹本著色鮎図	1 幅	S48. 11. 27	長堤	個人	江戸	小泉斐 作
14	県指定 絵画	絹本著色両界曼荼羅図	2 幅	H14. 2. 15	上大羽	地蔵院	室町	



No.	種別		名称等	員数	指定年月日	所在地等	所有者(管理者)	時代	備考
15	県指定	彫刻	銅造阿弥陀如来立像・両脇侍	3体	S35.10.11	大沢	円通寺	鎌倉	「大沢山」の陰刻あり
16	県指定	彫刻	銅造阿弥陀如来立像	1体	S35.10.11	山本	光明寺	鎌倉	
17	県指定	彫刻	木造如意輪観世音菩薩座像	1体	S44.4.25	益子	観音寺	鎌倉	
18	県指定	彫刻	木造閻魔王座像・両脇侍像	3体	S50.4.30	益子	西明寺	江戸	
19	県指定	彫刻	木造良栄上人像	1体	S52.2.15	大沢	円通寺	江戸	
20	県指定	彫刻	木造阿弥陀如来座像	1体	S52.2.15	大沢	円通寺	鎌倉	
21	県指定	彫刻	木造千手観音菩薩立像 附木札六枚	1体	H2.1.26	益子	西明寺	鎌倉	
22	県指定	彫刻	木造千手観音菩薩座像	1体	H2.1.26	益子	西明寺	鎌倉	
23	県指定	彫刻	木造阿弥陀三尊像	3体	H2.1.26	上大羽	地藏院	鎌倉	阿弥陀像は室町作、寛永10年(1633)修理
24	県指定	彫刻	木造阿弥陀三尊像	3体	H2.1.26	上大羽	地藏院	平安	伝尾羽寺本尊
25	県指定	彫刻	西明寺本堂厨子内仏像群	8体	H4.2.28	益子	西明寺	鎌倉	如意輪観音菩薩像は室町作
26	県指定	工芸品	梵鐘	1口	S50.4.30	益子	西明寺	江戸	
27	県指定	書跡	正親町天皇綸旨	1通	S52.2.15	大沢	円通寺	室町	
28	県指定	書跡	聖鬘贊	15冊	S52.2.15	大沢	円通寺	江戸	
29	県指定	書跡	浄土総系図	2巻	S52.2.15	大沢	円通寺	江戸	
30	県指定	書跡	月形函文書	70冊	S52.2.15	大沢	円通寺		
31	県指定	書跡	浄土鎮西義名越派代々印 璽脈譜	3巻	S52.2.15	大沢	円通寺	室町	
32	県指定	考古資料	瓶子	1口	S35.10.11	益子	西明寺	鎌倉	
33	県指定	無形	草木染		H17.8.16	城内坂	個人	江戸	
34	県指定	有形民俗	藍染め甕場		H8.8.20	城内坂	個人	江戸	
35	県指定	史跡	風戸塚古墳	1基	S29.9.7	北中	個人	古墳	
36	県指定	史跡	入定塚古墳	1基	S33.8.27	大沢	円通寺	古墳	
37	県指定	史跡	小宅古墳群	18基	S34.11.27	小宅	亀岡八幡宮	古墳	
38	県指定	史跡	宇都宮家の墓所		S42.1.20	上大羽	益子町	室町	
39	県指定	史跡	西明寺境内		S50.4.30	益子	西明寺	室町	
40	県指定	史跡	浅間塚古墳	1基	H28.3.4	埴	栃木県	古墳	
41	県指定	天然記念物	こうやまき	1本	S29.9.7	益子	西明寺	鎌倉	
42	県指定	天然記念物	西明寺の椎林叢	18本	S30.7.26	益子	西明寺		
43	県指定	天然記念物	枝垂えごのき	1本	S34.11.27	山本	光明寺		
44	町指定	建造物	西明寺閻魔堂	1棟	S48.2.7	益子	西明寺	江戸	
45	町指定	建造物	長堤八幡宮本殿	1棟	S48.2.7	長堤	長堤八幡宮	江戸	康平6年(1063)創建
46	町指定	建造物	地藏院観音堂	1棟	S48.2.7	上大羽	地藏院	室町	昭和58年(1983)修理
47	町指定	建造物	光明寺薬師堂	1棟	S48.2.7	山本	光明寺	江戸	
48	町指定	建造物	安善寺本堂	1棟	S56.12.15	大平	安善寺	江戸	建久5年(1194)創建
49	町指定	建造物	鶏足寺山門	1棟	H1.5.15	益子	鶏足寺	江戸	
50	町指定	建造物	旧濱田庄司の母屋	1棟	H1.6.12	益子	益子町	江戸	
51	町指定	有形民俗	内町彫刻屋台	1台	H1.9.1	益子	内町自治会	江戸	明治14年(1881)購入
52	町指定	有形民俗	新町彫刻屋台	1台	H1.9.1	益子	新町自治会	江戸	明治13年(1880)購入
53	町指定	有形民俗	田町彫刻屋台	1台	H1.9.1	益子	田町自治会	江戸	明治15年(1882)購入
54	町指定	有形民俗	松本屋台	1台	H2.9.4	山本	松本自治会	江戸	京都で製作
55	町指定	有形民俗	原彫刻屋台	1台	H2.9.4	山本	原自治会	江戸	明治43年(1910)彩色
56	町指定	有形民俗	上棟柱立飾山車	1台	H26.2.26	七井	下町後町自治会		
57	町指定	建造物	日枝神社本殿	1棟	H4.1.23	七井	日枝神社	江戸	神護景雲2年(768)創立
58	町指定	建造物	西明寺大師堂	1棟	H4.5.8	益子	西明寺	江戸	
59	町指定	建造物	益子参考館内登り窯	1基	H5.11.5	益子	益子参考館	昭和	濱田庄司築窯
60	町指定	建造物	妙伝寺山門	1棟	H10.7.1	山本	妙伝寺	明治	
61	町指定	建造物	益子参考館細工場	1棟	H15.3.20	益子	益子参考館	明治	
62	町指定	建造物	岩下製陶(太平窯)登窯	2基	H19.7.18	益子他	個人	明治	

No.	種別	名称等	員数	指定年月日	所在地等	所有者(管理者)	時代	備考	
63	町指定	建造物	山本八幡宮	1棟	H28.7.26	山本	山本神社氏子		
64	町指定	絵画	歌舞伎舞台背景襖絵	48枚	S48.2.7	山本	松本自治会	江戸	
65	町指定	絵画	元禄絵地図	1面	S48.2.7	益子	個人	江戸	
66	町指定	絵画	文化絵地図	1面	S48.2.7	益子	個人	江戸	
67	町指定	絵画	天保絵地図(長堤村地図)	1面	S48.2.7	長堤	個人	江戸	
68	町指定	絵画	真言八祖絵図	8幅	S60.6.4	東田井	東田井自治会	室町	室町末～江戸初期
69	町指定	絵画	襖絵	8枚	H10.7.1	山本	妙伝寺	江戸	
70	町指定	彫刻	木造阿弥陀如来像	1体	S48.2.7	前沢	長谷寺	鎌倉	
71	町指定	工芸品	濱田庄司作品	5点	H5.3.11	益子	益子参考館	昭和	
72	町指定	工芸品	島岡達三作品	5点	H22.2.24	益子	益子町ほか	昭和	
73	町指定	書跡	宋版大般若経	452巻	S48.2.7	上大羽	地蔵院	江戸	
74	町指定	書跡	小宅家文書	9通	S48.2.7	小宅	個人	室町	
75	町指定	考古資料	板碑	1基	S48.2.7	大平	安善寺	室町	
76	町指定	考古資料	五輪塔及び瓶子	1基1口	S48.2.7	上山	普門寺	鎌倉	
77	町指定	考古資料	羽石家五輪塔	6基	S48.2.7	前沢	長谷寺	鎌倉	
78	町指定	考古資料	大郷戸廃寺跡五輪塔群		S48.2.7	大郷戸	益子町	鎌倉	
79	町指定	無形民俗	芦沼獅子舞		S49.3.28	芦沼	芦沼獅子舞保存会	江戸	
80	町指定	無形民俗	八坂神社御神酒頂戴式		S60.2.15	益子	大字益子	江戸	
81	町指定	無形民俗	山本太々神楽		H19.6.26	山本	山本鹿島神社氏子	明治	
82	町指定	無形民俗	長堤太々神楽		H19.6.26	長堤	長堤八幡神社宮比講	明治	
83	町指定	無形民俗	綱神社太々神楽		H19.6.26	上大羽	綱神社太々神楽保存会	明治	
84	町指定	無形民俗	妙伝寺の雅楽		H19.6.26	山本	妙伝寺	明治	
85	町指定	史跡	古代窯跡		S48.2.7	上大羽	個人	古代	
86	町指定	史跡	天王塚古墳	1基	S48.2.7	益子	個人	古墳	
87	町指定	史跡	高館城跡		S48.2.7	益子	益子町	室町	
88	町指定	史跡	藤根善治の墓	1基	S48.2.7	益子	正宗寺	江戸	
89	町指定	史跡	安善寺境内		S52.7.18	大平	安善寺		
90	町指定	史跡	本沼窯業群跡		S52.7.18	本沼	個人ほか	古代	
91	町指定	史跡	御城山遺跡		H3.6.11	益子	益子町	室町	
92	町指定	天然記念物	椎	1本	S48.2.7	上大羽	綱神社	鎌倉	
93	町指定	天然記念物	クスノキ	1本	S52.7.18	益子	西明寺		
94	町指定	天然記念物	リンボク群生地帯	群生地	S52.7.18	益子	西明寺		
95	町指定	天然記念物	菩提樹	1本	S52.7.18	上大羽	地蔵院	室町	
96	町指定	天然記念物	金木犀	1本	S52.7.18	山本	光明寺	江戸	
97	町指定	天然記念物	梅	1本	S52.7.18	山本	光明寺	江戸	
98	町指定	天然記念物	シダレ桜	1本	S52.7.18	山本	光明寺	江戸	
99	町指定	天然記念物	シダレ桜	1本	S52.7.18	大平	安善寺		
100	町指定	天然記念物	カヤ	1本	S52.7.18	大平	安善寺		
101	町指定	天然記念物	ヒイラギ	1本	S52.7.18	大平	安善寺		
102	町指定	天然記念物	タラヨウ	1本	S57.10.1	長堤	個人	江戸	
103	町指定	天然記念物	梅	1本	S57.10.1	長堤	個人	江戸	
104	町指定	天然記念物	ムベ	1本	S57.10.1	益子	西明寺		
105	町指定	天然記念物	シカクダケ	群生地	S57.10.1	益子	西明寺		
106	町指定	天然記念物	糸絵葉	1本	S60.2.15	上大羽	地蔵院	室町	
107	町指定	天然記念物	赤松	2本	H9.9.1	小宅	益子町	大正	



(1) 国指定文化財



写真 3-28 西明寺三重塔



写真 3-29 西明寺楼門



写真 3-30 地藏院本堂



写真 3-31 網神社本殿



写真 3-32 網神社摂社大倉神社本殿



写真 3-33 円通寺表門



写真 3-34 西明寺本堂内厨子



(2) 県指定文化財



写真 3-35 円通寺一切経塔



写真 3-36 西明寺本堂



写真 3-37 西明寺鐘楼



写真 3-38 日下田邸（染色工房併用）



写真 3-39 益子参考館上台（旧濱田庄司邸離れ）



写真 3-40 絹本着色鮎図

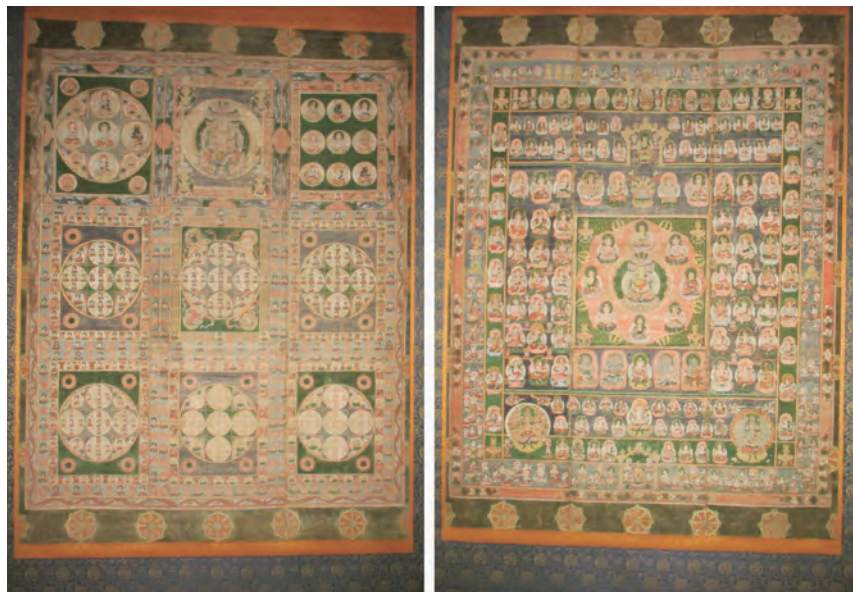


写真 3-41 絹本着色両界曼荼羅図





写真 3-42 銅造阿弥陀如来立像・両脇侍



写真 3-43 銅造阿弥陀如来立像



写真 3-44 木造如意輪観世音菩薩座像



写真 3-45 木造閻魔王座像・両脇侍像



写真 3-46 木造良栄上人像



写真 3-47 木造阿弥陀如来座像



写真 3-48 木造千手観音菩薩立像附木札六枚



写真 3-49 木造千手観音菩薩座像



写真 3-50 木造阿弥陀三尊像（鎌倉）



写真 3-51 木造阿弥陀三尊像（平安）





写真 3-52 西明寺本堂厨子内仏像群



写真 3-53 梵鐘

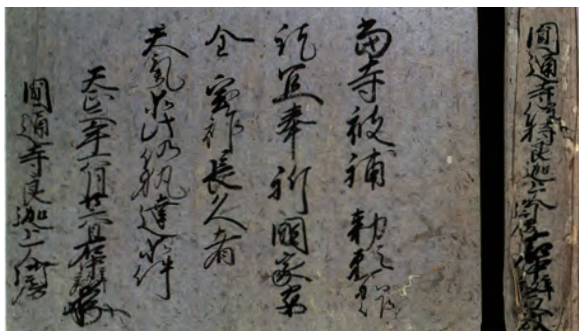


写真 3-54 正親町天皇綸旨



写真 3-55 聖鬮贊



写真 3-56 浄土総系図



写真 3-57 月形函文書



写真 3-58 浄土鎮西義名越派代々印璽脈譜



写真 3-59 瓶子





写真 3-60 草木染



写真 3-61 藍染め甕場



写真 3-62 風戸塚古墳



写真 3-63 入定塚古墳



写真 3-64 小宅古墳群



写真 3-65 宇都宮家の墓所



写真 3-66 西明寺境内



写真 3-67 浅間塚古墳



写真 3-68 こうやまき



写真 3-69 西明寺の椎林叢



写真 3-70 枝垂えごのき







### 2-3 未指定文化財

未指定文化財については、悉皆調査で『益子町史』や『芳賀の文化財』で挙げられているものをリスト化して、可能な限りその所在等について調査を行った。調査は現在も継続中である。その結果、994件にもものぼる文化財がリスト化された。リストは巻末資料に掲載した。

益子には古墳群や奈良・平安時代の窯跡群、中世の城館跡や旧地蔵院跡、西明寺跡等、貴重な遺跡が数多く存在するが、これらのほとんどが未調査かまたは一部の限られた範囲しか発掘調査が行われていない状況である。

表 3-5 未指定文化財の総数

種類	区分	未指定
有形文化財	建造物	139
	絵画	41
	彫刻	49
	工芸品	0
	書跡	116
	考古資料	26
無形文化財	工芸技術	0
民俗文化財	有形	238
	無形	152
記念物	史跡	228
	天然記念物	5
総計		994

※平成 28 年 10 月 1 日現在



写真 3-71 石塔群



写真 3-72 二十三夜塔



写真 3-73 山本八幡宮 摂社 鹿島神社



写真 3-74 御霊神社 社叢



写真 3-75 建造物



写真 3-76 半鐘



## 2-4 地域ごとの文化財の状況

文化財探検隊で調査した9か所について、その概要と確認した文化財について紹介する。

### (1) 普門寺周辺（大字上山）

#### 【地域の概要】

上山は旧田野村に属し、北側は旧益子町の生田目と接し西端に小貝川が流れる。小貝川にそそいでいるぐみ川が東から西に流れており、普門寺を中心とした地域と田野中学校南部に飛び地が存在する。夏になると休耕田を利用して上山営農組合によるひまわり祭りが開催され、県内外から多くの観光客が訪れる。

#### 【確認した主な文化財について】

字老戸の石塔群には天明6年（1786）の二十三夜供養塔をはじめ8基の石塔が一か所に集められている。馬頭観音2基、対露従軍馬匹記念碑1基、生馬大神1基と馬に関する石塔が目立つ。天保絵地図（町指定文化財）に記されている田野御陣屋の北側の道「御前曲輪宿通」は現在も色濃くその様子をとどめており、その道沿いにはお堂や道標が残っている。普門寺境内には多くの石塔が集められているほか、境内墓地にある侠客梅五郎碑は石材に田野八幡原古墳群の天井石が用いられている。



図3-6 天保絵地図（上）と現在の地図（下）  
長堤村の絵図である天保絵地図の白抜き部分は、上山村の土地を表しており、現在の区域と一致する。

### (2) 長堤八幡宮周辺（大字長堤）

#### 【地域の概要】

上山の南に位置し、西端を流れる小貝川にかかる田野橋が真岡市からの玄関口となっている。全体的に平坦な土地柄ではあるが緩やかな台地が南部へ伸びており、低い土地に水田、台地には畑が広がる。田野城跡や長堤八幡宮などが残り、現在も学校や郵便局などがおかれるなど古くから田野地域の中心地となっている。長堤八幡宮の10月の例大祭では長堤太々神楽（町指定文化財）の奉納が行われる。平成28年（2016）10月には道の駅ましこが開業した。

#### 【確認した主な文化財について】

県道41号線長堤交差点から西側に一本入った道が昔の本通りである。その街道に面した字南廓に虚空蔵堂や石塔群が建てられている。石橋料寄附之碑は、明和5年（1768）に長堤の添谷氏と妻の実家（茨城県桜川市大泉）の袖山氏が、江戸の千住から長堤村までの橋が壊れているのを憂い、石橋料を寄付したことに對しての顕彰碑である。天保絵地図に描かれた街道は現代のものと同重なる部分が多い。南端の田野地区小泉との境にたたずむ十九夜供養塔は道標を兼ねている。その他にも表宿や東曲輪など田野城に関係していると思われる地名が多く残されている。



写真3-77 石橋料寄附之碑

### (3) 光明寺周辺（大字山本）

#### 【地域の概要】

光明寺のある山本地区は、益子町の南東部、高館山の南側、茨城県との県境にあり、小貝川に合流するぐみ川の源流を持つ。河川の流域には水田が広がっており農業を生業の中心とし、十数年前までタバコの栽培も盛んであった。江戸時代に越後国からの入百姓があった歴史を持つこの地区には、現在でも多くの祭りや民俗芸能が残り、松本歌舞伎舞台襖絵、妙伝寺雅楽、山本太々神楽（いずれも町指定文化財）、お囃子などが地域の人々によって受け継がれている。

#### 【確認した主な文化財について】

阿弥陀如来像（県指定文化財）、薬師堂（町指定文化財）、シダレ桜（町指定文化財）など数多くの指定文化財を有している光明寺には、その他にも十九夜塔や二十三夜塔など信仰にかかわる周辺の石塔が集められている。山本八幡宮（町指定文化財）は山本太々神楽の舞台として地元の方に親しまれており、拝殿の天井には色鮮やかなさまざまな植物が描かれ美術的にも注目される。



写真 3-78 山本八幡宮拝殿天井

### (4) 東田井地区

#### 【地域の概要】

東田井は益子町の西部に位置し、東に小貝川、西に独立丘陵である根本山を配した南北に長い地域である。古墳群や集落跡などの遺跡があり、江戸時代には幕府領（真岡代官領）であった。町指定文化財には中世末期から近世初期に描かれたとされる真言八祖絵図がある。東田井のお囃子は益子祇園祭で新町に伝授されるなど他地域との文化的交流がある。

#### 【確認した主な文化財について】

東田井を南北に伸びる街道をタツ街道という。真岡市との境に建つ観音堂から、東田井に入る山裾の道には、数多くの石塔や神社などが残されている。東田井町営住宅南のY字路には二十三夜供養塔兼道標があり、「左くげたつくぼ道／右さいみゃうじきつれがわ道」と刻まれている。喜連川には宿場がありその先で奥州街道につながった。江戸時代に流行した百観音を巡る観音信仰は、各地にミニ霊場をつくり、芳賀郡内にも芳賀百観音が設けられた。東田井の千手観音は芳賀西国16番にあたる。



写真 3-79 二十三夜塔兼道標



## (5) 生田目地区

## 【地域の概要】

生田目は、生田目城跡を背後に擁して高龕神社を中心に置き、小貝川低地をゆるやかに見下ろす地域である。車堂遺跡の住居跡に代表されるように縄文時代から人が住んでいることが明らかになっている。江戸時代には生田目村として益子村・上大羽村などとともに黒羽藩の飛び地（下の庄）として支配されていた。ながく農業用水に悩まされており、小貝川から水を引く際にしばしば東田井との間に水争いが起きていたことがわかっている。現在は秋になると休耕田を利用してコスモス祭りが開催され、県内外から多くの観光客が訪れる。

## 【確認した主な文化財について】

共同墓地内の釈迦堂に昔の霊柩車がおさめられていた。大小1つずつあり、大人用と子ども用とことりひょうという。また、霊柩車を運ぶための役割分担表である床取表も同じ釈迦堂内に納められており、たいへん貴重である。生田目城跡内には昔、しょうそうじ正覚寺という寺院があり、本尊は芳賀百観音の芳賀坂東3番となっている。益子小学校初代校長の木村時習は、益子小の前身となる私立日新館をこの寺に建て小学校教育に尽力した。『ましこの民話伝説とれきし』には生田目を舞台とした物語が多く集録されており、物語に登場する地藏様や薬師堂が残されている。文化4年(1807)の道標には「右ハさくハミち(作場道) / 左ハ日光のぶほしのみや道(日光・延生・星の宮)」と記されている。



写真 3-80 昔の霊柩車

## (6) 益子本通り(大字益子)

## 【地域の概要】

益子町のほぼ中央部、真岡鐵道益子駅のあるこの地区は、駅前より東へ緩やかに登る地形であり、東西に通る本通り沿いには、古くからの商店が立ち並ぶ。毎年7月には鹿島神社周辺を中心に祇園祭が催され、御神酒頂戴式(町指定文化財)が行われるほか、彫刻屋台(町指定文化財)が引き回される。近世は鬼怒川の舟運、近代以降は真岡鐵道による鉄道輸送にかかわる物資集散地のように機能したと思われる。窯業について、城内から道祖土にかけて作陶場が集中し、販売店は仲買店を含めて新町、田町に集中しており、地区ごと機能が分担されていたことがわかる。

## 【確認した主な文化財について】

元禄絵地図(町指定文化財)に記された街道は、現代の道と重なる部分が多く、当時のようすをうかがうことができる。近代に入ってから商店街のようすも残っており、近代和風建築を多く見ることができる。新町南側石塔群は、戦後になってから地元の人たちによって現在の場所に集められた。もとの位置を把握している人が健在なため、今後聞き取りを行うなどの記録が必要である。鹿島神社の境内には古い鳥居が埋められていることや、征清記念碑には古墳の天井石が使われているなどの話を地元の歴史に明るい方々からうかがうことができた。



写真 3-81 征清記念碑



## (7) 上大羽地区

### 【地域の概要】

上大羽は高館山の東側に位置し、低山登山で人気の雨巻山・三登谷山などが連なる山々の麓、大羽川、栗生川に沿って南北に細長く開けた土地である。平安時代末期から室町時代にかけて活躍した宇都宮氏ゆかりの土地であり、地蔵院・綱神社・大倉神社など国指定文化財が残るほか、綱神社では綱神社太々神楽（町指定文化財）が行われる。

### 【確認した主な文化財について】

大羽小学校 PTA 文化部により昭和 34 年（1959）に発行された『大羽史蹟抄』に「大羽史蹟要覧」という地図が付属され、そこに記された石塔や建造物、天然記念物などが現在も多く残されている。益子焼の祖である大塚啓三郎に焼き物の技術を指導した田中長平が黒子道之祐とともに大羽に御嶽社を開いたことを記念した碑が建てられている。この地区でみられた藁宝殿は形状が茨城県のもの類似していることから文化圏のつながりがうかがえる。

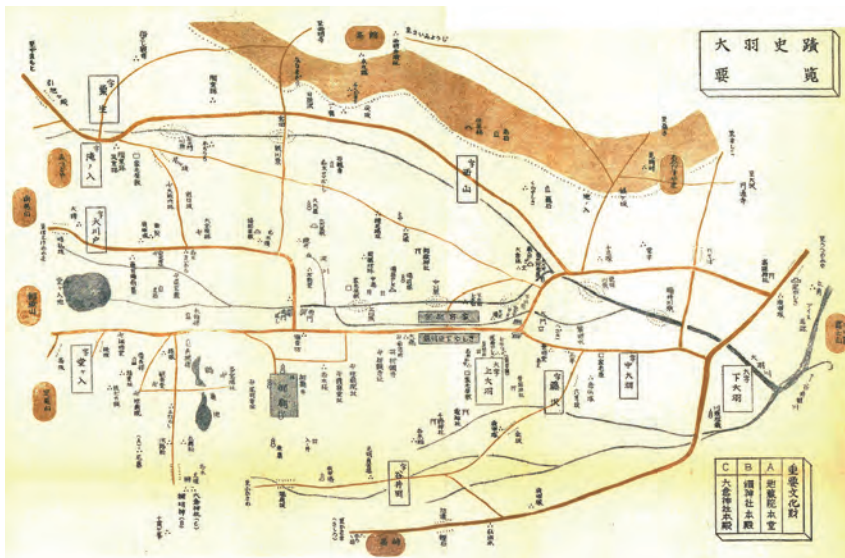


図 3-7 大羽史蹟要覧

## (8) 七井地区

### 【地域の概要】

益子町の北西部、隣町の市貝町との町境にあり、町を南北に縦断する小貝川がこの地区のほぼ中央を流れ、川に並行して真岡鐵道が走る。七井駅の東側が中心部で、小宅川・大羽川・小貝川に三方を囲まれた台地には七井城が造られた。益子勝宗が矢島城主七井綱代を破り 5 男勝忠を七井城主としたことが始まりとされ、益子氏ゆかりの城館といえる。宿場町として賑わいその後も商店街が形成され映画館や旅館もあった。この地区には、水の染み出る場所が数多くあり、七井という地名の由来と言われている。町指定文化財の上棟柱立飾山車は地元の夏祭りで引き回されるが、地元の人々によって近年になり復活したものである。

### 【確認した主な文化財について】

七井城は土塁が残り各所で確認できるほか、今回の調査で削平された場所も確認できた。旧七井村役場跡には住宅が建てられているが、入口に植えられた松だけが当時の面影を残している。たいへん幅が狭い古い道があり、現在はあまり使われていないように見受けられたが、地元の方によれば以前は神輿を担いでこの道を通ったそうで、地域に根付いた道であるといえる。

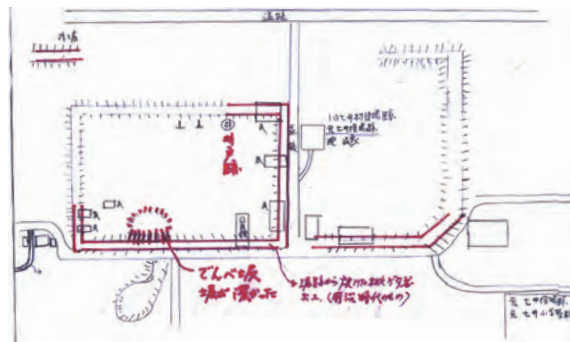


図 3-8 手書きの七井城跡の図

参加者の自主的な古老への聞き取りでわかった土塁の跡がピンク色で記されている。

## (9) 御霊神社周辺（大字大沢）

## 【地域の概要】

大沢地区は、主に北郷谷丘陵の北部に位置し、一部新福寺が雨巻山地に含まれ、東の船橋川、西の大羽川がそれぞれ南東から北西に流れる。集落は丘の麓に形成された台地上にほぼ集まり、縄文時代の御霊前遺跡、古墳時代の御霊神社古墳群などの数多くの遺跡が分布する。御霊神社の創建は社伝に「景行天皇の御世」と書かれる。

## 【確認した主な文化財について】

この地区を通る水戸北街道は、全長 60 km で、栃木県の中心部と、茨城県の中心部を結ぶ重要な道であった。益子では現在の県道 1 号線と重なる部分が多く、下大羽から七井に向かうとき大沢では大羽川の右岸を並行するように通っている。しかし御霊前遺跡付近になると遺跡を避けるように御霊橋を渡り大羽川左岸を通っている。字上町の Y 字路で再び大羽川を渡り県道 1 号線に戻るがこの Y 字路に石塔群があり目印となっている。また、主要な道のひとつに益子から大沢への道がある。現在の町民センターと益子中学校の間の道をとおり、大沢に入ると水戸北街道に接続する。接続した交差点には石塔群がありこちらも目印となっている。



写真 3-82 石塔群

### 3. 歴史文化保存・活用の課題

#### 3-1 保存・活用の現状と課題

益子町における文化財の保存・活用は第2章2-3に挙げている通りである。文化財を常設展示する施設がなく、埋蔵文化財を含めた文化財を保存・管理し活用を推進していくための文化財担当の専門職員（正規）が不在であるなど体制面での課題がある。また、国指定文化財個別の保存・活用計画を整える必要があり、文化財の画像撮影・デジタル化による記録が求められる。その他、町内外への周知を充実させる必要であり、有形文化財の公開や新ましこ未来計画に沿った観光、環境、建設等、関連部局との連携が求められる。

#### 3-2 調査研究の現状と課題

調査については益子町史編纂や芳賀郡内の4町（芳賀町・市貝町・茂木町・益子町）と真岡市で作成している『芳賀の文化財』の発行に伴うものなど、第2章2-3、第3章2-1で述べたとおりである。益子町には多くの文化財があるため、調査研究を行いその価値について把握することで、未来へ継承し今後のまちづくりに活かすための基礎資料とする必要があるといえる。基本構想の策定にあたり文献調査や文化財探検隊等で現地確認調査を実施したが、今後も悉皆調査を継続するほか、町で把握している225件の埋蔵文化財包蔵地のうち、そのほとんどが未発掘であるため、学術調査の実施等を検討する必要がある。また調査を実施しそれらをまとめ益子町の歴史文化を研究する専門職員の配置や専門家・専門機関との連携が求められる。

#### 3-3 体制上の現状と課題

町の体制については第2章2-1で述べたとおりである。地域と連携して小宅、大羽、山本のよ様な地元主導の取組みへの助言・支援を行い、文化財所有者の意識向上に向けた助言・支援も行っている。今後は文化財パトロールや防災・防犯設備の充実を図るとともに、行政、地域、所有者の円滑な連携が求められる。



## 第4章 歴史文化保存・活用の方針

### 1. 基本理念と目標

#### 1-1 基本理念

「益子町歴史文化基本構想」を実施する上で基本となる望ましい将来像（理念）を以下のように設定する。

**守り育む 文化が薫る歴史と自然の里 益子**

#### 1-2 基本目標

基本理念に基づき、歴史文化を活かした町づくりと文化財の保存・活用を行っていく上で基本となる目標を以下のように定めた。

**豊かな益子の歴史文化遺産の魅力を  
「引き出す」「まもる」「広める」「活かす」**

益子町は益子焼の町として知られ、春、秋の陶器市等を中心に年間185万人（平成26年度統計）の観光客を集めている。しかし、関東地方でも有数の集中地を誇る中世の文化財に代表される歴史文化遺産、多彩な祭りや民俗芸能、歴史の蓄積と民藝運動を始めとする多くの工芸家の人的ネットワークに醸成された文化芸術、特徴的な自然植生や里山等の益子の歴史文化の特性は、認知度が低く十分に活用されていない。これら多彩で豊かな益子の歴史文化の魅力を引き出し、後世に継承できるよう守り、町内外に発信し、町づくりの中に活かしていくことを基本目標とする。

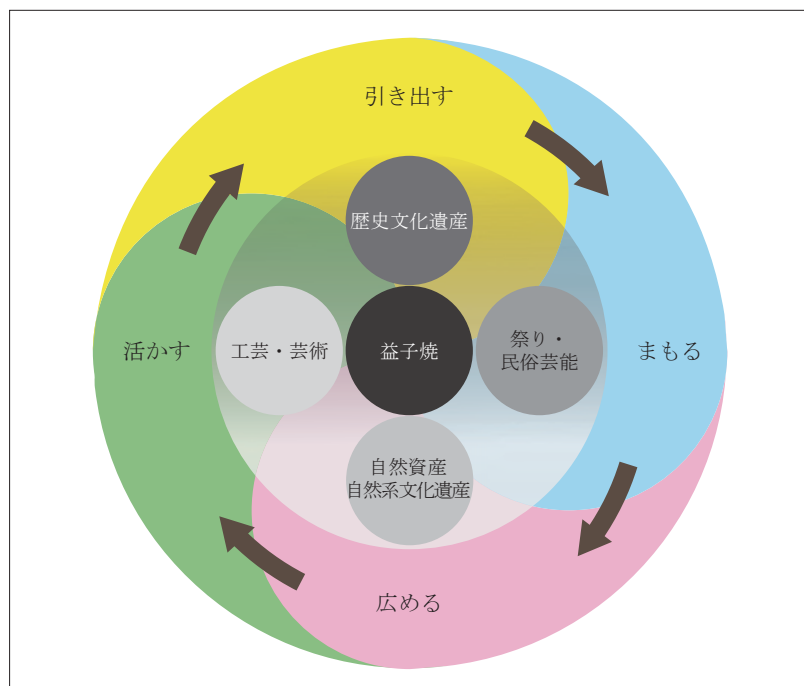


図4-1 歴史文化保存・活用の基本目標

## 2. 歴史文化を活かした町づくり

### 2-1 歴史文化特性に基づくテーマ

将来像に向けて、益子の4つの歴史文化特性を「歴史の足跡を伝える豊富な文化財」「工芸・芸術文化の遺産」「伝統と交流の要としての祭りや民俗芸能」「特徴的な植生と、暮らしと結びついた自然系文化遺産」と設定した。

それらを「歴史の里ましこ」「工芸・芸術の里ましこ」「祭りと芸能の里ましこ」「みどりと土の里ましこ」とそれぞれのテーマを設け、テーマごとに歴史文化を活かした町づくりの方向性を示し、将来像に向けて活かしていくこととした。

表 4-1 益子の歴史文化特性に基づくテーマ

特 性	テーマ
<p>《歴史の足跡を伝える豊富な文化財》 歴史の足跡を今に伝える文化財が数多く存在し、特に宇都宮氏、益子氏の中世の文化財が集積する。</p>	《歴史の里ましこ》
<p>《工芸・芸術文化の遺産》 幕末以来の益子焼の伝統の上に、濱田庄司の移住と民藝運動により触発され発展した工芸・芸術に関する歴史文化遺産と人的ネットワークが存在する。</p>	《工芸・芸術の里ましこ》
<p>《伝統と交流の要としての祭りや民俗芸能》 各所に土地の人々に受け継がれてきた祭りや民俗芸能、これに関連する文化財が存在し、伝統芸能や祭りの復活、新しい祭りの創造も行われている。</p>	《祭りと芸能の里ましこ》
<p>《特徴的な植生と、暮らしと結びついた自然系文化遺産》 スダジイ等の暖温帯植物と、冷温帯植物のブナが混在する全国的にも珍しい植生である。また、里山林、芦沼石や陶土の採掘地、溜池等、益子の暮らしや産業と深く結び付いた自然系文化遺産が存在する。</p>	《みどりと土の里ましこ》

### 2-2 町づくりに活かすための方向性

歴史文化を活かした町づくりを具体的に進めていくために、テーマごとに基本目標に沿った方向性を示すとともに、益子町の総合計画である「新ましこ未来計画」や実施されている取り組みの中から、関連性が想定できる施策を整理した。

(1) 歴史の里ましこ

益子町には数多くの文化財が存在する。文献調査や文化財探検隊の実施により、その数は1000件以上にのぼることが明らかになった。しかし、計画的で継続的な調査が実施されていないため、文化財の内容や歴史的価値について不明な点が多い。今後、計画的・継続的な調査が実施できるよう体制整備を図ると共に、文化財の保存・活用について、住民参加で取り組んでいけるように図っていく。

表 4-2 歴史の里ましこの取り組みの方向性

基本目標	方向性	関連性が想定できる施策・取り組み
引き出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>益子の歴史を探る上で重要な文化財について、調査を行う。特に貴重なものが多い中世の文化財について、計画的に調査を進める。</li> <li>町民参加で地域の歴史文化を発見・再発見していく活動を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財探検隊（聞き取りを含む）</li> <li>土祭</li> </ul>
まもる	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財指定制度を活用して、重要度が高く要件が整ったものについては、積極的に指定文化財としていく。</li> <li>文化財の防犯・防災体制、設備のあり方について所有者等、関係者や関係機関と協議していく。</li> <li>文化財とその周辺の景観・環境を一体的に保全していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保存や、文化財周辺の環境整備の推進</li> <li>文化財パトロール</li> <li>長期的な景観づくり、景観形成に関する条例</li> </ul>
広める	<ul style="list-style-type: none"> <li>益子の文化財に関わる講演会、専門家との見学ツアー、道の駅での紹介等、益子の文化財の価値や魅力を伝える機会や場の創出を図っていく。</li> <li>町民が楽しみながら、益子の文化財について知り学ぶための仕組みづくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史講座などの開催</li> <li>ましこ検定の実施</li> <li>ましこ世間遺産認定制度の新設</li> </ul>
活かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用の拠点となる文化財の環境整備を進める、また、その活動を支援する。</li> <li>文化財を観光やタウンプロモーションの素材として積極的に活用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小宅古墳群周辺の環境整備</li> <li>ラーニングパッケージの充実</li> <li>町のブランドイメージ確立のための国内外プロモーション</li> </ul>

表 4-3 歴史の里ましこの構成資産

種類	区分	資産
有形文化財	建造物	西明寺三重塔、西明寺楼門、西明寺本堂、西明寺本堂内厨子、西明寺鐘楼、西明寺閻魔堂、西明寺大師堂、地藏院本堂、地藏院観音堂、綱神社本殿、綱神社摂社大倉神社本殿、円通寺表門、円通寺一切経塔、長堤八幡宮本殿、山本八幡宮、光明寺薬師堂、安善寺本堂、鶏足寺山門、日枝神社本殿、妙伝寺山門
	絵画	絹本着色両界曼荼羅図・元禄絵地図・文化絵地図・天保絵地図（長堤村地図）・真言八祖絵図
	彫刻	西明寺本堂厨子内仏像群、木造千手観音菩薩立像附木札六枚、木造千手観音菩薩座像、木造閻魔王座像・両脇侍像、木造阿弥陀三尊像（鎌倉）、木造阿弥陀三尊像（平安）、木造良栄上人像、銅造阿弥陀如来立像・両脇侍、木造阿弥陀如来座像、銅造阿弥陀如来立像、木造如意輪観世音菩薩座像、木造阿弥陀如来像
	工芸品	梵鐘
	書跡	正親町天皇綸旨、聖闍賛、浄土総系図、月形函文書、宋版大般若経、浄土鎮西義名越派靈脈譜、小宅家文書
	考古資料	板碑、瓶子、大郷戸廃寺五輪塔、五輪塔及び瓶子、羽石家五輪塔
記念物	史跡	西明寺境内、安善寺境内、浅間塚古墳、小宅古墳群、風戸塚古墳、入定塚古墳、天王塚古墳、宇都宮家の墓所、藤根善治の墓、高館城跡、御城山遺跡、古代窯跡、本沼窯業群跡



(2) 工芸・芸術の里ましこ

「新ましこ未来計画」の中では、町の基幹産業の一つである窯業の振興を中心に、「工芸・芸術の里ましこ」に関連する様々な施策が位置付けられている。基本構想では、益子焼の歴史や濱田庄司と民藝運動によってもたらされた歴史文化遺産や、益子出身や益子へ移住した芸術家の資産をより積極的に活用していく。

表 4-4 工芸・芸術の里ましこの取り組みの方向性

基本目標	方向性	関連性が想定できる施策・取り組み
引き出す	・益子焼の歴史や、手仕事村の遺産等、益子工芸の歴史と遺産に関する総合的な調査を行う。	・土祭
まもる	・藍染めや竹細工等の伝統的な工芸技術の継承について取り組んでいく。 ・伝統的な工芸技術を映像等により記録保存していく。 ・江戸時代以来の紺屋の様子を伝える日下田邸（染色工房併用）の保存に取り組んでいく。	・ものづくり人材育成や研究開発などの支援
広める	・益子工芸の歴史と資産に関する調査成果を、現在に活かせるように、書籍やホームページを通じて情報提供する。 ・益子出身や益子ゆかりの作家や作品についての冊子や映像を作成し、道の駅等で紹介する他、ホームページを制作する等、積極的にPRしていく。	・手仕事人材バンクの設置 →作家や工芸品の情報を一元化し、町内外に情報提供する ・各種観光パンフレット等を統合したわかりやすい情報誌の作成
活かす	・益子の工芸・芸術文化資産を観光やタウンプロモーションの素材として積極的に活用していく。	・ラーニングパッケージの充実 ・町のブランドイメージ確立のための資産を活用した展覧会等の各種イベント ・町のブランドイメージ確立のための国内外プロモーション

表 4-5 工芸・芸術の里ましこの構成資産

種類	区分	資産
窯業および濱田庄司関連資産	作品	益子焼、現在活躍している作家の作品 濱田庄司、島岡達三、加守田章二、村田元、佐久間藤太郎、皆川マス（絵付け）等、益子で製作を行った陶芸家等の作品 河井寛次郎、バーナード・リーチ等民藝運動や益子ゆかりの陶芸家の作品 棟方志功、芹沢銈介等濱田庄司の縁で益子を訪れた作家の作品
	施設等	益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子 濱田庄司記念益子参考館（上台（旧濱田庄司邸離れ）、細工場、登り窯） つかもと美術記念館、旧濱田庄司の母屋、岩下製陶（太平窯）登窯
	その他	手仕事村構想、濱田庄司蒐集品
焼き物以外の工芸関連資産	作品・工芸技術	現在製作されている工芸品・技術：草木染（藍染）、竹細工、ガラス工芸、鍛冶等 手仕事村構想の遺産：階段箆筒、ランプシェード
	施設等	日下田邸、藍染め甕場
芸術文化関連資産	作品	笹島喜平木版画作品、ワグナー・ナンドール彫刻作品、絹本著色鮎図、襖絵
	施設	益子陶芸美術館内笹島喜平館、ワグナー・ナンドール アートギャラリー
	人物	小泉斐・古郷秀一（益子出身者）、馬場浩史（移住者）

(3) 祭りや芸能の里ましこ

益子町内の各地で継承されている祭りや芸能は、現在も地域の交流の要として重要な役割を果たしている。今後もこれらの祭りや民俗芸能を継承していけるよう、担い手となっている団体に対する支援を行う。また、民俗芸能の発表の場や機会の創出を積極的に図っていく。祭礼や芸能を守り伝えるために必要な調査や記録も行う。

表 4-6 祭りや芸能の里ましこの取り組みの方向性

基本目標	方向性	関連性が想定できる施策・取り組み
引き出す	・益子の民俗についての調査を行い、継承されている祭りや民俗芸能の特色を明らかにする。	・土祭
まもる	・担い手となっている団体への支援を行う。また、支援のあり方について、関係者と協議する場を設けていく。 ・祭礼や芸能を守り伝えるために必要な映像等による記録を作成する。	・支援の継続
広める	・民俗芸能の発表の場と機会の創出を積極的に図る。 ・益子の祭りや民俗芸能についての冊子や書籍を作成して配布する。 ・祭りや芸能に関する映像を、道の駅で紹介する等、積極的に発信していく。	・地域の祭りや風習を記録・保存、土祭や伝統芸能フェスティバル等各種イベントなどを通して町内外へ発信
活かす	・住民が自らの地域の祭りや芸能を知り、交流する拠点となる場を整備していく。 ・祭りや民俗芸能を観光やタウンプロモーションの素材として積極的に活用していく。	・町のブランドイメージ確立のための各種イベントや国内外プロモーション

表 4-7 祭りや芸能の里ましこの構成資産

種類	区分	資産
祭礼に関する資産	祭り	祇園祭（天王祭）、八坂神社御神酒頂戴式
	屋台・山車	新町彫刻屋台、内町彫刻屋台、田町彫刻屋台、松本屋台、原彫刻屋台、上棟柱立飾山車、綱神社神輿
	団体	各自治会
民俗芸能に関する資産	芸能	芦沼獅子舞、妙伝寺の雅楽、山本太々神楽、長堤太々神楽、綱神社太々神楽
	舞台・道具等	歌舞伎舞台背景襖絵、神楽殿
	団体	各自治会

(4) みどりと土の里ましこ

益子町の貴重な自然を町民参加で保存し、町づくりに活かしていくための方策については、「益子町第2次環境基本計画」（平成25年3月策定）において示されている。基本構想では、歴史・文化と自然との関わりについて学ぶプログラムを設け、環境学習やラーニングバケーションの中での位置付けを図っていく。また、文化財に関わるボランティアと環境に関わるボランティアの連携についても取り組んでいく。

表 4-8 みどりと土の里ましこの取り組みの方向性

基本目標	方向性	関連性が想定できる施策・取り組み
引き出す	・自然と歴史・文化の関わりを探るための調査を実施する。	・益子町自然環境基礎調査 ・動植物生息調査 ・高館城跡等、貴重な自然が残る地域に所在する史跡の植生等自然環境の調査 ・古代、中世の植生に関する調査
まもる	・天然記念物および特徴的な自然植生を保全する。 ・天然記念物へ指定する。 ・里山を保全、再生する。 ・里山景観や文化財周辺の景観を保全する。	・自然環境保全監視体制の強化 ・里山モデル地区づくり ・アカマツ復活プロジェクト ・長期的な景観づくり、景観形成に関する条例
広める	・益子の自然に関する講演会、専門家との見学ツアー、道の駅での紹介等、益子の文化財の価値や魅力を伝える機会や場の創出を図っていく。 ・益子の自然についての冊子や書籍を作成する。	・歴史講座などの開催
活かす	・自然と歴史・文化の関わりを楽しみながら学ぶ体験プログラムを検討、実施する。	・ラーニングバケーションの充実 ・益子焼の製作に必要な材料や燃料などの自然資源を巡るツアーや体験学習

表 4-9 みどりと土の里ましこの構成資産

種類	区分	資産
自然資産	みどり	高館山および西明寺境内の植生、雨巻山の植生、その他天然記念物の樹木
	土	地形、地質
	水	百目鬼川等の河川
	その他	希少性の高い野生生物
自然系文化遺産※	みどり	里山、農地
	土	陶土、マンガン、芦沼石等の資源とその採掘地
	水	溜池

※人と自然との関わりによって成立したものの



### 3. 文化財の保存・活用

#### 3-1 保存・活用の方向性

今後の文化財行政の指針を定めるために、益子の多様な歴史文化の保存・活用について方向性を示し、文化財の種類ごとの保存・活用についても方針を示した。

表 4-10 文化財の保存・活用の方向性

基本目標	方向性	考えられる施策・取り組み
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本構想推進のための体制づくり</li> <li>町民との協働体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史文化基本構想推進委員会（仮称）を設置する。</li> <li>文化財の保存・活用に関わる施策を推進していくために必要な文化財担当の専任職員を配置できるようにする。</li> <li>文化財探検隊、文化財パトロールなど、今後も町民の参加や協力を進めていく。</li> <li>地域の祭りや伝統芸能の担い手、観光ボランティアガイド、その他文化財の保存・活用に関わる団体との懇談会や協議会を設置し、文化財の保存・活用のための行政、民間双方の役割や支援のあり方について検討していく。</li> </ul>
引き出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の価値を明らかにしていくための各種調査を計画的に実施</li> <li>文化財台帳（データベース）の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学、博物館等調査研究機関と連携し、調査・研究を推進していく。</li> <li>文化財の状況を総合的に把握し保存状況を管理していくために、基本構想で作成した文化財リストを基に、所在地、所有者、管理者等が把握できる文化財台帳（データベース）を作成する。</li> </ul>
まもる	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の維持管理</li> <li>文化財の現況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な文化財の調査、文化財の指定、モニタリングを実施し、文化財台帳（データベース）の内容を更新していく。</li> <li>文化財保護のための防犯・防災体制を整える。</li> <li>破損や劣化が生じた文化財の補強や修理を行う。</li> </ul>
広める	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の普及啓発活動の一層の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史講座や歴史探訪を継続していく。</li> <li>文化財調査の成果を発表する現地説明会、シンポジウム等を積極的に実施する。</li> <li>学校への出前講座や文化財関連の冊子、書籍の制作について検討する。</li> <li>ましこ世間遺産認定制度やましこ検定を実施する。</li> <li>文化財を常時公開する場を設けたり、一斉公開日を設けたりするなど、文化財の公開の場を創出する。</li> </ul>
活かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の活用のための仕組みや体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町民等の活動を支援する仕組みや体制等を整える。</li> <li>町のブランドイメージ確立につなげる。</li> </ul>

表 4-11 種類ごとの保存・活用方針

種類	区分	方針	施策
有形文化財	建造物	7件の国指定重要文化財をはじめ特に貴重な建造物は、今後も確実に保存し継承していくために、所有者と協議しながら修理や防災設備の更新を計画的に行っていく。また、その価値を町内外に広めていくために、専門家を招いてのシンポジウムや、見学ツアーを企画し実施していく。 町内の歴史的建造物に関する総合的な調査を実施し、所在と状況を把握する。重要なものは、指定文化財や登録文化財にしていくことを検討する。	・国指定重要文化財の保存・活用計画の策定 ・建造物総合調査
	建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、古文書、考古資料、歴史資料	文化財台帳の作成と合わせて画像撮影を行い、文化財の保存状況の確認やホームページ等での公開等、普及活動に活用できるようにする。 数多くの文化財が集中する中世の文化財などは、総合的な調査を実施し、重要なものについては、指定文化財としていくことを検討する。	・デジタル画像撮影 ・既存写真等のデジタル化 ・中世有形文化財の総合調査
無形文化財	工芸技術	手仕事の町益子の伝統工芸技術について、調査や記録保存を行っていく。	・藍染め、竹細工、鍛冶等の技術についての映像記録の作成
民俗文化財	有形民俗文化財	江戸時代の藍染作業場の形態を現在に伝える日下田家の藍染め甕場を保存し継承していくために、所有者と協議しながら修理や防災設備の更新を計画的に行っていく。また、県指定文化財から国指定文化財への移行の可能性について関係機関と協議していく。 また、彫刻屋台や山車等は祭りと一体的に保存・活用を行う。	・藍染め甕場屋根修理 ・藍染め甕場の国の指定文化財へ向けての検討
	無形民俗文化財	祭りや伝統芸能の団体への支援を行う。また、民俗調査と映像による記録保存を行う。	・担い手団体への支援 ・民俗学調査 ・映像記録の作成
記念物	史跡	各時代にわたり重要な遺跡が数多く存在し、特に地蔵院周辺には貴重な中世の遺跡が埋蔵されている可能性が高い。計画的な発掘調査を行い、その内容や価値を明らかにしていくと共に、重要なものについては、史跡に指定していくことを検討する。	・地蔵院周辺の遺跡確認調査 ・古代窯跡（栗生窯業群跡、本沼窯業群跡）の確認調査 ・県・町指定の古墳の測量調査 ・中世城館の遺跡確認調査
	天然記念物	今後も保存が図れるよう、環境保護活動や文化財パトロール活動と合わせて、モニタリングを行っていく。特に集中度が高い西明寺周辺の天然記念物については、西明寺や高館山と一体的に保存・活用を行っていくことを検討する。	・モニタリング ・西明寺周辺天然記念物と高館山の自然、を総合的に学ぶ見学会等の実施

### 3-2 関連文化財群

#### (1) 関連文化財群設定の考え方

関連文化財群とは、「地域の歴史や文化を語る重要な地域の資産として、総合的に保存・活用を行っていくもの」であり、「有形・無形、指定・未指定を問わず、文化財を相互に関連性のある一定のまとまりとしてとらえられる」ものである。

益子町の歴史文化の特徴を物語る資産については、「2. 歴史文化を活かした町づくり」において、歴史文化特性に基づく4つのテーマ「歴史の里ましこ」、「工芸・芸術の里ましこ」、「祭りと芸能の里ましこ」、「みどりと土の里ましこ」を設定し、その構成資産と保存・活用の方針を示した。

これら4つのテーマにまたがり、最も益子らしさを表すテーマを「益子・手仕事の技(わざ)資産群」と設定し、関連文化財群を設けた。益子町は益子焼をはじめとする「工芸の町」「手仕事の町」を、町の特色として打ち出してきた。益子の歴史には、各時代に益子の歴史文化を特徴づける手仕事の技を伝える資産が存在する。これらの資産を関連文化財群として位置づけ、保存・活用の方向性等を次の通り示した。

## (2) 構成資産

「益子・手仕事の技（わざ）資産群」を構成する資産群として下記の資産群を位置づけた。

### ①益子・手仕事の曙 古代手仕事関連資産群

古代に益子の地に暮らした人々の手仕事の技術や工芸文化に触れることができる遺産群。益子・手仕事文化の曙とも言える遺産群である。出土された遺物等から当時の工芸技術を知ることができる古墳や古代の集落遺跡と、焼き物の町益子の窯業の曙ともいえる古代窯跡群（栗生窯跡群、本沼・西山窯跡群）をあげることができる。

### ②中・近世の建築・工芸文化資産群

宇都宮氏、益子氏の庇護のもとに花開いた中世の寺社建築と仏像に代表される工芸文化を表す遺産群である。これら中世の寺社建築・工芸文化を引き継いだ近世の建築・工芸文化資産群も含むものとする。

### ③益子焼と手仕事村構想関連資産群

益子の工芸を代表する益子焼と、濱田庄司が構想した手仕事村に関連する資産群である。益子焼関連資産群には、工芸品である益子焼と、それを生み出し支えた自然と技術（陶土、アカマツ、釉薬の元となる芦沼石、陶土製作技術等）も含まれる。手仕事村構想関連資産群は手仕事村を構想した当時に濱田の注文によって作られたランプシェードや階段箆笥の他、現在も益子に残る工芸技術とその関連資産が含まれる。

### ④祭りと芸能を彩る手仕事の技資産群

益子の祭りや芸能に関連する手仕事関係の資産群である。祇園祭の付け祭りで引き回される屋台や松本歌舞伎舞台等が挙げられる。屋台は江戸時代後期に宇都宮で作られ、明治時代に益子の町内で購入したものが多く、宇都宮にあった屋台は昭和20年（1945）の空襲でほとんどが失われたため、当時の彫刻屋台の技術を知る上で貴重なものとなっている。松本歌舞伎舞台は、他地域の村歌舞伎等を招いての上演が昭和20年代に途絶えたことで、舞台のからくり技術等も失われていたが、平成15年（2003）に地元の努力により復活した。

## (3) 保存・活用の方向性

「2. 歴史文化を活かした町づくり」、「3. 文化財の保存・活用」に示した方針に従って、各資産の保存・活用策を実施していくと共に、上記の関連文化財群を益子らしさを表す代表的文化財群として位置づけ、普及啓発活動や学校教育、生涯学習、環境教育の中に活かしていく。

## (4) 具体的方策

- ①「益子・手仕事の技（わざ）資産群」を紹介する書籍やホームページを制作し、町内外にアピールする。
- ②中世の重要文化財建造物の建築技術を学ぶための現地見学会や、重要文化財建造物の修理に合わせた建築技術の見学会を開催する。
- ③益子焼とその陶土や釉薬（芦沼石）、燃料（アカマツ）等の自然系文化遺産との関係をはじめ、手仕事の技資産群と自然との関わりを学ぶ、益子独自の環境教育プログラムを検討し、学校教育やラーニングバケーションに活かしていく。



「益子・手仕事の技（わざ）資産群」を構成する資産を、4つの資産群「①益子・手仕事の曙 古代手仕事関連資産群」、「②中・近世の建築・工芸文化資産群」、「③益子焼と手仕事村構想関連資産群」、「④祭りと芸能を彩る手仕事の技資産群」に区分した。

テーマ	種類	区分	～古代	中世
歴史の里まじこ	有形文化財	建造物		西明寺三重塔、西明寺楼門、西明寺本堂内厨子、地藏院本堂、綱神社本殿、綱神社摂社大倉神社本殿、円通寺表門
		絵画		真言八祖絵図、絹本著色両界曼荼羅図
		彫刻		西明寺本堂厨子内仏像群、木造千手観音菩薩立像附木札六枚、木造千手観音菩薩座像、木造阿弥陀三尊像(鎌倉)、木造阿弥陀三尊像(平安)、銅造阿弥陀如来立像・両脇侍、木造阿弥陀如来座像、銅造阿弥陀如来立像、木造如意輪観世音菩薩座像、
		工芸品		
		書跡		
		考古資料		
	記念物	史跡	古代窯跡、本沼窯業群跡、浅間塚古墳、小宅古墳群、風戸塚古墳、入定塚古墳、天王塚古墳、御霊前遺跡、山居台遺跡、車堂遺跡、長堤遺跡、星の宮ケカ子遺跡	宇都宮家の墓所、尾羽寺跡、高館城跡、御城山遺跡、田野城跡、山本古屋城跡、小宅城跡
工芸・芸術の里まじこ	窯業および濱田庄司関連資産	作品		
		施設等		
		その他		
	焼き物以外の工芸関連資産	作品・工芸技術		
		施設等		
	芸術文化関連資産	作品		
	施設			
	人物			
祭り・芸能の里まじこ	祭りに関する資産	祭り 屋台・山車 団体		
	民俗芸能に関する資産	芸能 舞台・道具等 団体		
みどりとの里まじこ	自然資産	みどり	高館山および西明寺境内の植生、雨巻山の植生、その他天然記念物の樹木	
		土	地形、地質	
		水	百目鬼川等の河川	
		その他	希少性の高い野生生物	
	自然系文化遺産	みどり	里山、農地、アカマツ林	
		土	陶土、マンガン、芦沼石等の資源とその採掘地	
		水		

図4-2 「益子・手仕事の技（わざ）資産群」を構成する資産群（古代～中世）

近世	近代～
西明寺本堂、西明寺閻魔堂、西明寺大師堂、地藏院観音堂、円通寺一切経塔、長堤八幡宮本殿、山本八幡宮、光明寺薬師堂、安善寺本堂、日枝神社本殿	
絹本着色貼図、元禄絵地図、文化絵地図、天保絵地図（長堤村地図）、襖絵	
木造閻魔王座像・両脇侍像、木造良栄上人像	
梵鐘	
正親町天皇繪旨、聖閻賛、浄土総系図、月形函文書、宋版大般若経、浄土鎮西義名越派靈脈譜	
板碑、瓶子、大郷戸廃寺五輪塔、五輪塔及び瓶子、羽石家五輪塔、西明寺益子焼陶祖碑	
西明寺境内、安善寺境内	
	<p style="text-align: center;"><b>③益子焼と手仕事村構想関連資産群</b></p> <p>益子焼、現在活躍している作家の作品 濱田庄司、島岡達三、加守田章二、村田元、佐久間藤太郎、皆川マス（絵付け）等、益子で製作を行った陶芸家等の作品 河井寛次郎、バーナード・リーチ等民藝運動や益子ゆかりの陶芸家の作品 棟方志功、芹沢銈介等濱田庄司の縁で益子を訪れた作家の作品 益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子、濱田庄司記念益子参考館(上台（旧濱田庄司邸離れ）、細工場、登り窯)、つかもと美術記念館、旧濱田庄司の母屋、岩下製陶（太平窯）登窯 手仕事村構想、濱田庄司蒐集品 現在製作されている工芸品・技術（草木染(藍染)、竹細工、ガラス工芸、鍛冶等)、手仕事村構想の遺産(階段箆笥、ランプシェード) 日下田邸、藍染甕場 笹島喜平木版画作品、ワグナー・ナンドール彫刻作品 益子陶芸美術館内笹島喜平館、ワグナー・ナンドールアートギャラリー 小泉 斐、古郷 秀一（益子出身者） 馬場 浩史（移住者）</p>
<p style="text-align: center;"><b>④祭りと芸能を彩る手仕事の技資産群</b></p>	<p>祇園祭(天王祭)、八坂神社御神酒頂戴式</p>
<p>新町彫刻屋台、内町彫刻屋台、田町彫刻屋台、松本屋台、原彫刻屋台、上棟柱立飾山車、綱神社神輿</p>	<p>各自治会</p>
<p>芦沼獅子舞、妙伝寺の雅楽、山本太々神楽、長堤太々神楽、綱神社太々神楽</p>	<p>歌舞伎舞台背景襖絵、神楽殿</p>
<p>各自治会</p>	<p>各自治会</p>
<p>高館山および西明寺境内の植生、雨巻山の植生、その他天然記念物の樹木</p>	<p>地形、地質</p>
<p>百目鬼川等の河川</p>	<p>希少性の高い野生生物</p>
<p>里山、農地、アカマツ林</p>	<p>陶土、マンガン、芦沼石等の資源とその採掘地、陶土製作技術</p>
<p>溜池</p>	<p>溜池</p>

図4-3 「益子・手仕事の技(わざ)資産群」を構成する資産群（近世～現代）

## 4. 歴史文化保存活用区域

### 4-1 設定の考え方

歴史文化保存活用地区は、文化財が集中的に分布し、周辺の環境や景観が文化財（群）と一体となって、文化的な空間を形成している地区、または、今後、文化的空間を創生できる可能性が高い地区として位置づけられる。

関連文化財群「益子・手仕事の技（わざ）資産群」を構成する資産の分布密度を参考とし、指定文化財の分布状況についても考慮にいれながら、文化財と周囲の景観を一体的な歴史的景観として保存継承することが望まれる4つの地区「益子本通り・城内・道祖土地区」「西明寺地区」「上大羽地区」「山本地区」を設定した。

これとは別に、歴史文化保存活用地区のような文化財の集中と広がりは見られないが、所在する地域の文化財として重要であり、今後文化財の活用や調査研究等において重要なもの、現在整備や活用が行われている資産を拠点資産として位置付けた。拠点資産は「円通寺」「安善寺」「小宅古墳群」「古代窯業群跡（古代窯跡（栗生窯跡群）・本沼窯業群跡）」の4つである。

なお、各区域の具体的な境界は、各区域における保存活用計画や景観形成に関する条例の制定等の段階において、関係機関との調整を図り、確定するものとする。また、拠点資産については、基本構想に基づく、文化財行政の進捗状況に応じて、概ね5年程度で見直しを行っていくこととする。



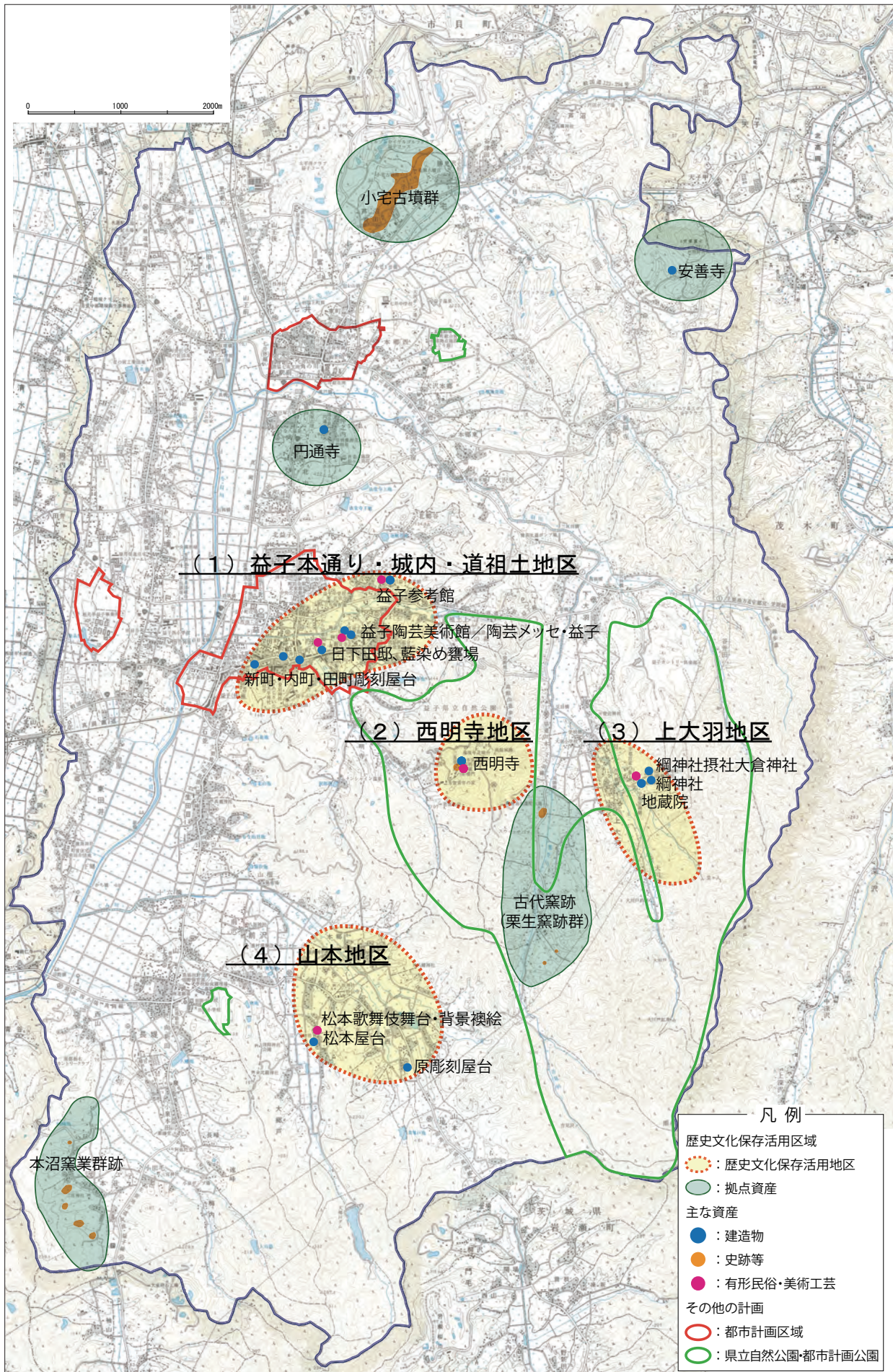


図 4-4 歴史文化保存活用区域



## 4-2 歴史文化保存活用地区

### (1) 益子本通り・城内・道祖土地区

#### 【地区の概要】

城内坂を中心とした益子市街地であり、関連文化財群（益子・手仕事の技（わざ）資産群）の中の「益子焼と手仕事村関連資産群」が集中して存在する。なかでも、城内坂は益子町の観光の中心地であり、益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子、益子参考館等の益子焼や工芸・芸術文化の施設も多くこの地区に立地する。

都市計画上是用途地区地域であるが、風致地区等の景観規制を伴う区域設定はなされていない。城内坂は電柱の地中埋設等の景観整備が成されている。

#### 【保存・活用の方向性】

- ・城内坂は今後も良好な景観形成がはかれるよう、取り組みを続けていくと共に、景観形成に関する条例の制定等の景観規制について検討を図っていく。
- ・旧濱田庄司の母屋、益子参考館内登り窯をはじめとする益子焼の登り窯、日下田邸、藍染め甕場等、地区の歴史文化を特徴づける「益子焼と手仕事村」に関連する歴史的建造物や有形民俗文化財をその周辺の景観と共に保存していく。
- ・益子観光の中心地であり、文化施設も多く立地する特徴を活かして、益子の歴史文化に関する情報提供の中心窓口としての機能を強化できるようにする。
- ・益子の歴史文化全般に関する冊子や地図等の案内ツールを設置し、紹介を行うコーナーを益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子等の文化施設に設けるとともに、観光ガイドの申し込みについても、より積極的な告知を行う。
- ・また、地区内に数多く存在するカフェや陶器販売店が、こうした益子の歴史文化観光の発信地となるよう、冊子、地図の設置や、観光ガイド紹介について協力をお願いしていく。

表 4-12 益子本通り・城内・道祖土地区のマな資産

区分	資産
関連文化財群	<p>《益子焼と手仕事村関連資産群》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子（島岡達三作品 / 町指定文化財）、</li> <li>・益子参考館（濱田庄司作品 / 町指定文化財、階段筆筒、ランプシェード）</li> <li>・益子参考館上台（旧濱田庄司邸離れ / 県指定文化財）</li> <li>・益子参考館内登り窯、益子参考館細工場、旧濱田庄司の母屋（町指定文化財）</li> <li>・岩下製陶（太平窯）登窯（町指定文化財）</li> <li>・日下田邸（染色工房併用）、藍染め甕場、草木染（県指定文化財）</li> </ul> <p>《祭りと芸能を彩る手仕事の技資産群》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新町彫刻屋台・内町彫刻屋台・田町彫刻屋台（町指定文化財）</li> </ul>
その他の資産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿島神社（八坂神社）・祇園祭</li> <li>・八坂神社御酒頂戴式（町指定文化財）</li> <li>・太平神社・あじさい祭り</li> <li>・御城山城跡（益子古城跡 / 町指定文化財）、益子古館城跡（根古屋城跡）</li> <li>・ワグナー・ナンドール アートギャラリー</li> </ul>

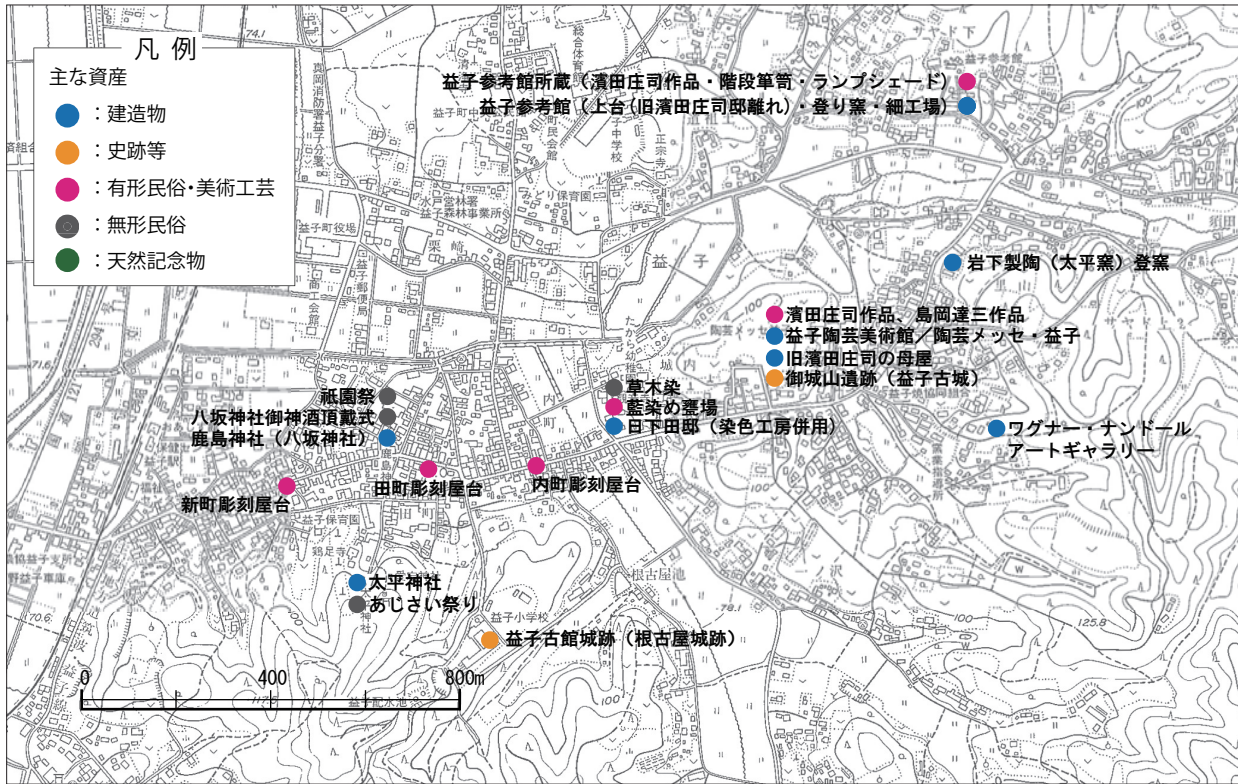


図 4-5 益子本通り・城内・道祖土地区位置図



写真 4-1 益子参考館内登り窯



写真 4-2 益子参考館細工場



写真 4-3 旧濱田庄司の母屋



写真 4-4 岩下製陶 (太平窯) 登窯



写真 4-5 御城山城跡 (益子古城跡)



(2) 西明寺地区

【地区の概要】

西明寺境内と高館山を中心とした地区である。西明寺は、関連文化財群（益子・手仕事の技（わざ）資産群）の中の「中世の建築・工芸文化資産群」が数多く存在する。また、境内にはこうやまき、椎林叢、クスノキ、リンボク群生地帯等の天然記念物の植物が多く自生する。高館山頂部は暖温帯植物に混じってブナやヤマボウシ、オオウラジロノキなどの冷温帯植物が自生し、高館城跡も存在する。歴史文化遺産と自然資産が重複して集中する地区である。県立自然公園内に立地し、自然公園の規制を受ける地区内にある。

【保存・活用の方向性】

- ・国指定重要文化財建造物である西明寺楼門と三重塔、西明寺本堂内厨子については、今後、保存活用計画を策定して、計画的な修理と防犯・防災対策を行う。
- ・その他本堂・鐘楼（県指定文化財）閻魔堂・大師堂（町指定文化財）等の建造物についても、修理や防犯・防災対策を進める。
- ・仏像群は総合的な調査を行い、保存、公開、指定の方針を定めていく。
- ・西明寺境内（県指定史跡）、高館城跡（西明寺跡）についても、調査を行い、国の史跡指定の可能性について栃木県等の関係機関と協議していく。
- ・地区内の貴重な自然資産について、継続的にモニタリングを行い保全していく。
- ・西明寺周辺は良好な景観が保全できるよう、景観形成に関する条例の制定等の景観規制について検討を図っていく。
- ・西明寺および高館山の歴史と自然に親しむ見学コースを設定し、案内板の設置や案内マップ、冊子の配布、案内ガイドの養成等により、西明寺・高館山の自然と文化財巡りが行えるようにする。
- ・西明寺境内の休憩所を、見学コース案内の窓口として位置付け、冊子やマップの配布、ガイドの申し込み等ができる場として利用できるよう、西明寺と協議する。

表 4-13 西明寺地区の主な資産

区 分	資 産
関連文化財群	<p>《中世の建築・工芸文化資産群》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西明寺三重塔、西明寺楼門、西明寺本堂内厨子（国指定文化財）</li> <li>・西明寺所蔵：西明寺本堂厨子内仏像群、木造千手観音菩薩立像附木札六枚、木造千手観音菩薩座像、木造閻魔大王座像・両脇侍像、瓶子、梵鐘（県指定文化財）</li> </ul>
その他の資産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西明寺本堂、西明寺鐘楼、西明寺境内（県指定文化財）</li> <li>・西明寺閻魔堂、西明寺大師堂（町指定文化財）</li> <li>・西明寺の椎林叢、こうやまき（県指定文化財）</li> <li>・クスノキ、リンボク群生地帯、ムベ、シカクダケ（町指定文化財）、高館山山頂付近のブナ</li> <li>・高館城跡（西明寺城跡 / 町指定文化財）、指差し観音</li> </ul>



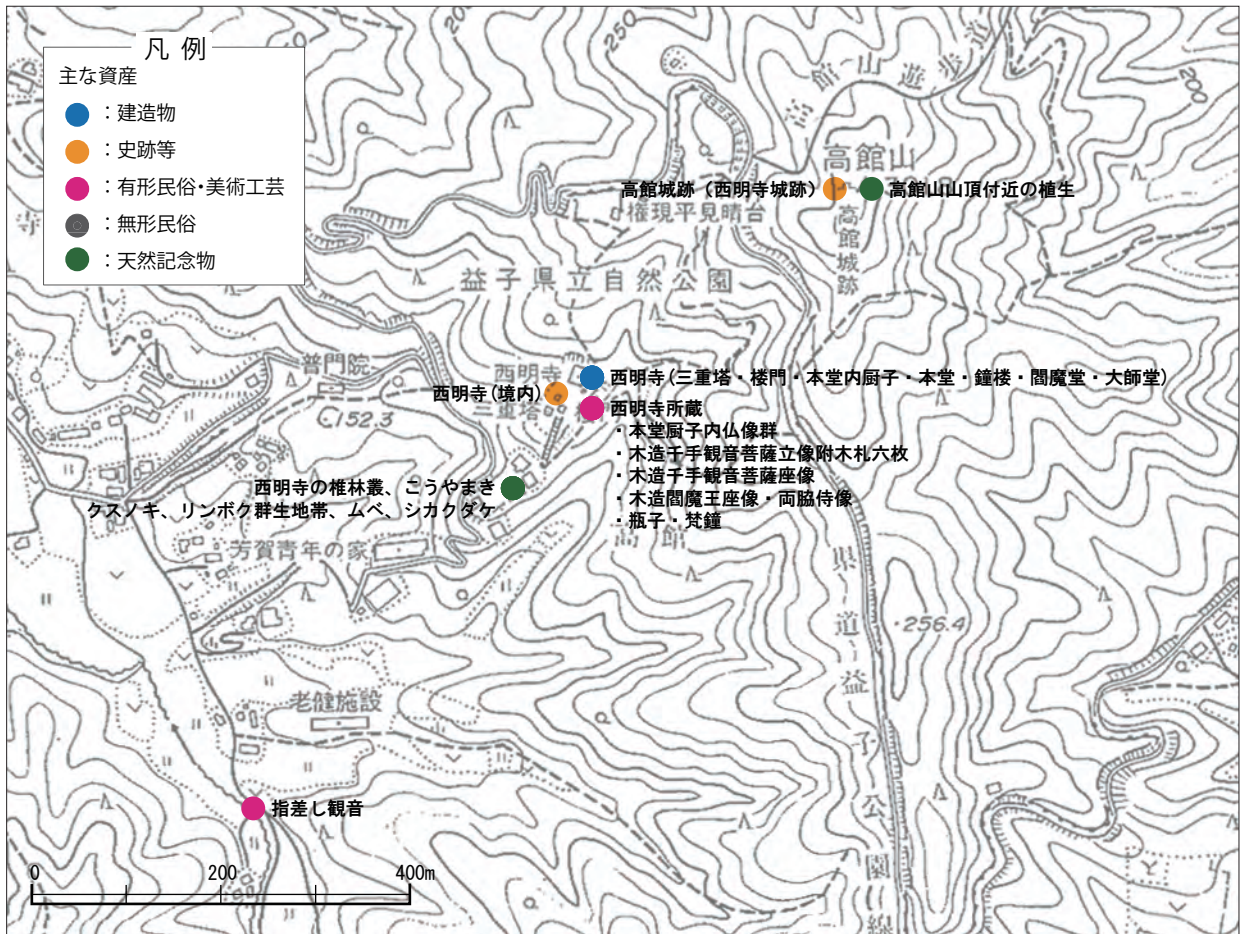


図4-6 西明寺地区位置図



写真4-6 西明寺閻魔堂



写真4-7 西明寺大師堂



写真4-8 高館城跡 (西明寺城跡)



写真4-9 クスノキ



写真4-10 リンボク群生地帯



写真4-11 ムベ



写真4-12 シカクダケ



(3) 上大羽地区

【地区の概要】

地蔵院、綱神社、大倉神社、宇都宮家の墓所等の中世宇都宮氏の遺産が集中する地区である。関連文化財群（益子・手仕事の技（わざ）資産群）の中の「中・近世の建築・工芸文化資産群」が数多く存在する。

現在その存在が顕在化している地蔵院本堂、綱神社本殿、綱神社撰社大倉神社本殿（いずれも国指定重要文化財建造物）、宇都宮家の墓所（県指定史跡）の他に、尾羽寺跡、旧地蔵院跡等の遺跡が埋蔵されており、今後の調査により浄土庭園跡等の重要遺構や遺跡が発見される可能性が高い。

都市計画は用途地域外であるが、栃木県の景観条例で規制されている。

【保存・活用の方向性】

- ・国指定重要文化財建造物である地蔵院本堂、綱神社本殿、綱神社撰社大倉神社本殿については、今後、保存活用計画を策定して、計画的な修理と防犯・防災対策を行う。
- ・宇都宮朝綱の最初の隠棲地であり、浄土庭園を有したと記録される尾羽寺跡の発掘調査を計画的に行い、その内容を明らかにしていく。
- ・旧地蔵院跡、定光寺跡、祈願寺跡等、地蔵院、周辺一帯の中世の遺跡についても、計画的な調査を行う。
- ・調査成果に基づき、将来的な史跡指定について検討する。
- ・宇都宮家の墓所は将来的に尾羽寺跡と一体的な環境整備を行い、中世宇都宮氏関連の歴史文化遺産の拠点として活用できるようにする。
- ・上大羽一帯の中世文化財や歴史文化遺産を巡る見学コースを設定し、案内板の設置や案内マップ、冊子の配布、案内ガイドの養成等により、地蔵院周辺一帯の歴史まち歩きが行えるようにする。
- ・地区のカフェや店舗等に、冊子、地図の設置や、ガイドの紹介等の案内窓口として機能を担ってもらえるよう協力を図る。
- ・良好な景観を保全できるよう、景観形成に関する条例の制定等の景観規制について検討を図っていく。

表 4-14 上大羽地区の主な資産

区 分	資 産
関連文化財群	<p>《中世の建築・工芸文化資産群》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地蔵院本堂、綱神社本殿、綱神社撰社大倉神社本殿（国指定文化財）</li> <li>・地蔵院観音堂（町指定文化財）</li> <li>・地蔵院所蔵：木造阿弥陀三尊像（鎌倉）、木造阿弥陀三尊像（平安）、宋版大般若経、絹本著色両界曼荼羅図（県指定文化財）</li> </ul>
その他の資産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮家の墓所（県指定文化財）</li> <li>・尾羽寺跡、旧地蔵院跡、定光寺跡、祈願寺跡、護摩堂跡、多宝塔跡、経堂跡、海音坊石塔群、西念坊等の中世遺跡群</li> <li>・綱神社太々神楽（町指定文化財）</li> <li>・菩提樹、糸絵葉、椎（町指定文化財）、堂ヶ入池（堂ヶ入沢親水公園）</li> </ul>



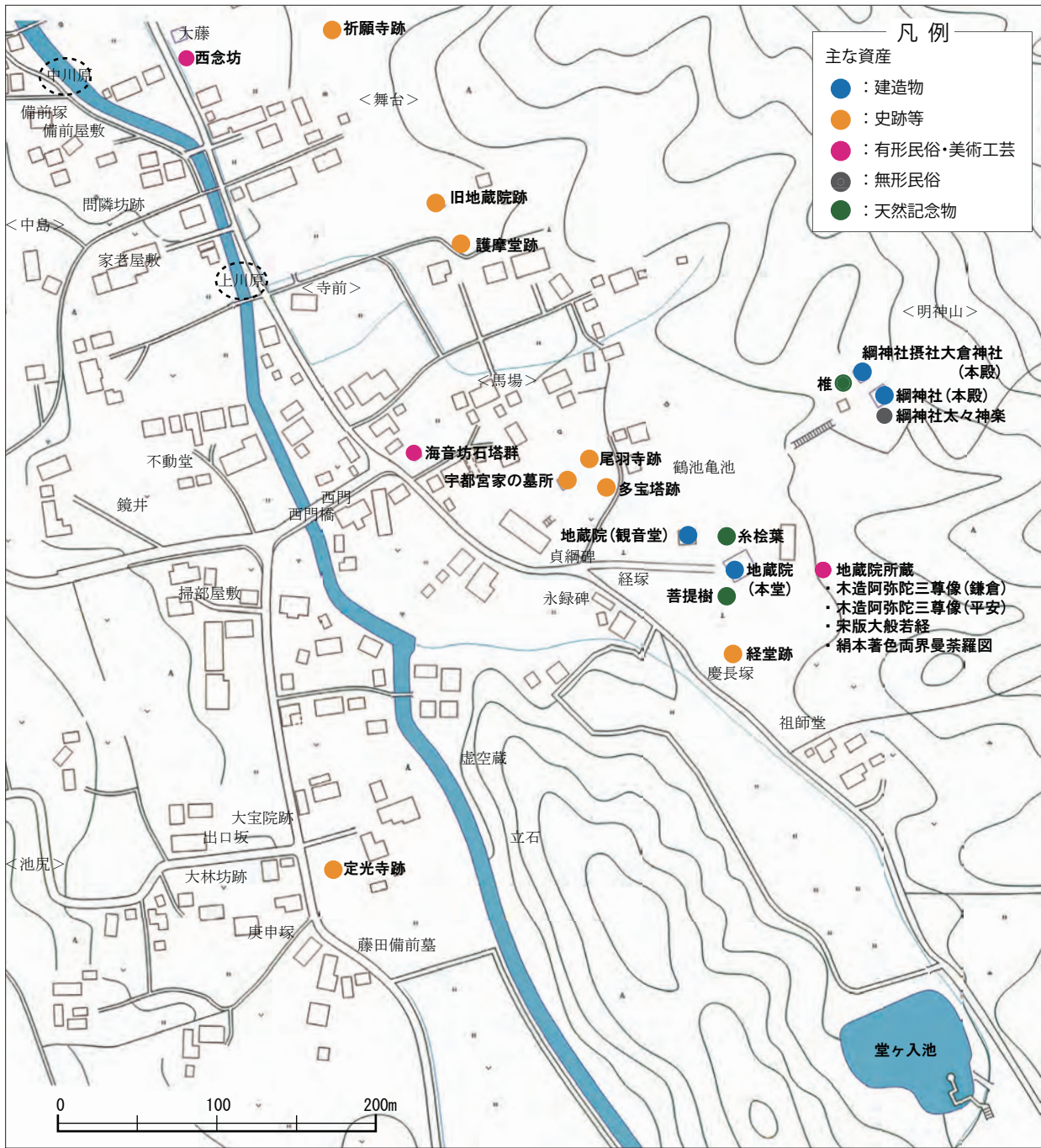


図 4-7 上大羽地区位置図



写真 4-13 地蔵院観音堂



写真 4-14 菩提樹



写真 4-15 系捨葉



写真 4-16 椎

(4) 山本地区

【地区の概要】

松本歌舞伎舞台、妙伝寺の雅楽、山本太々神楽、山本祇園祭、原彫刻屋台、松本屋台等の祭り・芸能関係の資産が集中する地区である。関連文化財群（益子・手仕事の（わざ）資産群）の中の「祭りと芸能を彩る手仕事の技資産群」が多く存在する。地区内に所在する光明寺は、シダレ桜、金木犀、梅が町指定、枝垂えごのきが県指定の天然記念物になっている他、銅造阿弥陀如来立像は県指定有形文化財となっており、多くの文化財が存在する。また、葉タバコの乾燥の際に使われたベーハ小屋と言われる建物も数多く残されている。

都市計画は用途地域外であるが、栃木県の景観条例で規制されている。

【保存・活用の方向性】

- ・祭りや芸能の担い手団体への支援を行っていく。
- ・祭り芸能の里をテーマとしたイベントの創設等により、民俗芸能の発表の場を確保すると共に、内外へのPRにより観光振興へと繋げていく。
- ・祭り、芸能の記録保存や民俗学的な調査・研究を推進する。
- ・地区の良好な農村風景を保全していくために、景観形成に関する条例の制定等の景観規制について検討を図っていく。

表 4-15 山本地区の主な資産

区 分	資 産
関連文化財群	≪祭りと芸能を彩る手仕事の技資産群≫ ・歌舞伎舞台背景襖絵（町指定文化財）、松本歌舞伎舞台、山本八幡宮 ・原彫刻屋台、松本屋台（町指定文化財）
その他の資産	・妙伝寺山門、襖絵（町指定文化財） ・妙伝寺の雅楽、山本太々神楽（町指定文化財） ・山本祇園祭 ・光明寺所蔵：銅造阿弥陀如来立像（県指定文化財） ・枝垂えごのき（県指定文化財）、シダレ桜、金木犀、梅（町指定文化財）



写真 4-17 歌舞伎舞台背景襖絵



写真 4-18 妙伝寺山門



写真 4-19 襖絵



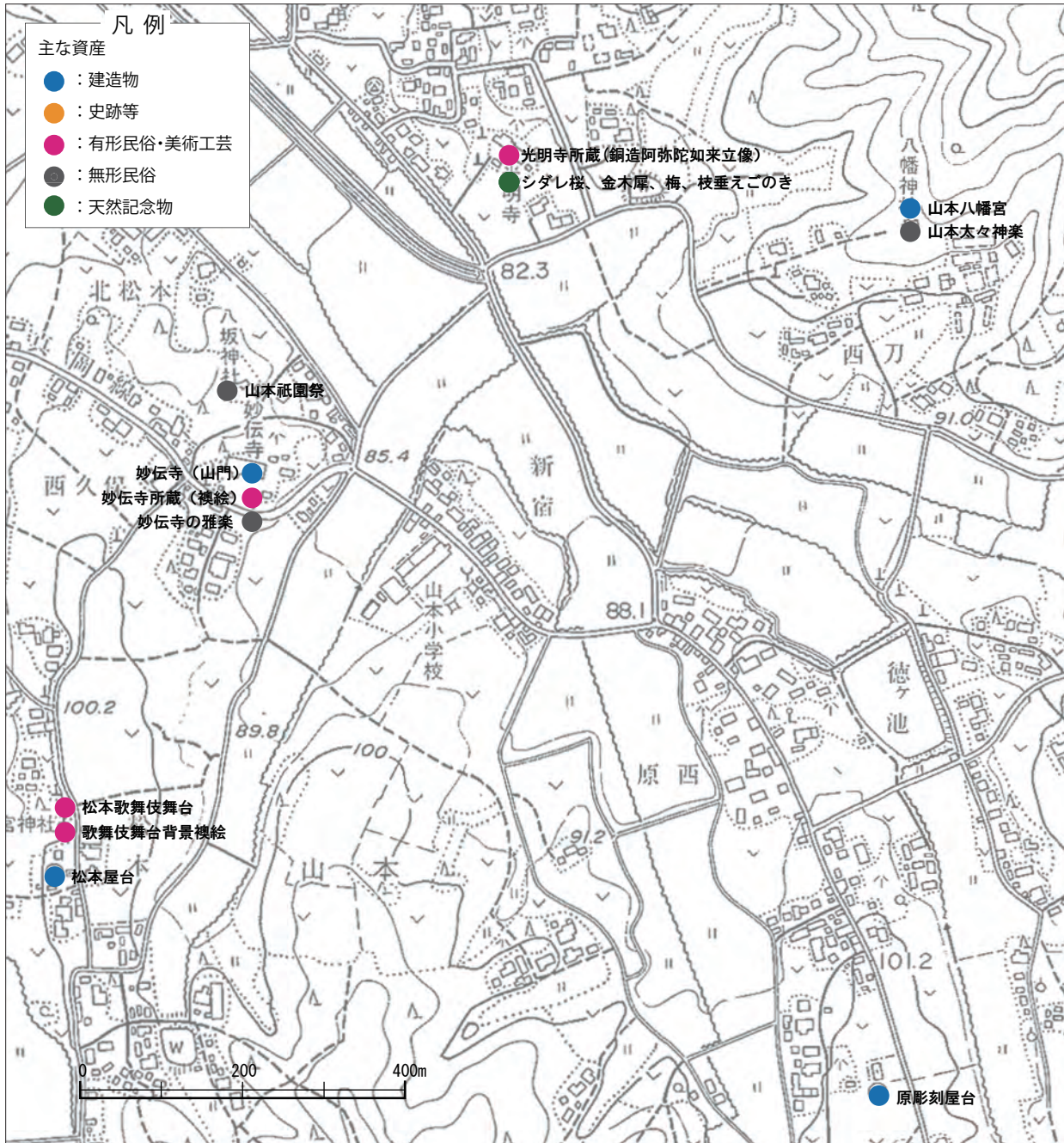


图 4-8 山本地区位置图



写真 4-20 シダレ桜



写真 4-21 金木犀



写真 4-22 梅



#### 4-3 拠点資産

##### (1) 円通寺

###### 【資産概要】

円通寺は、応永元年（1394）大平字舟橋に舟橋談所（虎溪院）が開かれた後、応永9年（1402）良栄上人によって開山された浄土宗鎮西流名越派の大本山である。天文10年（1541）の大火により、表門のみを残して堂宇が焼失したが、益子氏の援助を受けて、天文22年（1553）から永禄2年（1559）にかけて現在地に堂宇を建立し、表門（国指定文化財）は移築した。学問所として大沢文庫を設け、多くの書籍や経典を所有し、多くの子弟を教育し、名僧を輩出した。関連文化財群である「中・近世の建築・工芸文化資産群」の中心的な資産の一つである。

###### 【保存・活用の方向性】

- ・国指定重要文化財である円通寺表門は、今後、保存活用計画を策定して、計画的な修理と防犯・防災対策を行う。
- ・円通寺一切経塔（県指定文化財）等の建造物についても、修理や防犯・防災対策を進める。
- ・木造良栄上人像、木造阿弥陀如来座像、銅造阿弥陀如立像・両脇侍（県指定文化財）の仏像や、正親町天皇綸旨、月形函文書（県指定文化財）等の書跡については、中世文化財の総合調査のなかで調査を行い、保存、公開、指定の方針を定めていく。

##### (2) 安善寺

###### 【資産概要】

安善寺は、宇都宮朝綱と親交のあった平貞能が、宇都宮氏の家臣河原光直の援助を得て、建久5年（1194）に、大平山の山腹に開山した寺である。平貞能は源頼朝が平氏打倒の兵を挙げた時、大番役として京都にいた宇都宮朝綱が下野に帰国できるよう尽力したことから、源氏が平氏に勝利した後、宇都宮朝綱の庇護を受けてこの地に安善寺を建立したと伝えられる。

残存している安善寺本堂（町指定文化財）は江戸時代のものであるが、安善寺境内（町指定文化財）には平貞能の百年供養塔として建立された板碑（町指定文化財）や、シダレ桜、カヤ、ヒイラギ（町指定文化財）が存在する。現在は芳賀富士と呼ばれる大平山の登山口にある施設としても親しまれており、花の時期には多くの人がお花見とピクニックに訪れる。

###### 【保存・活用の方向性】

- ・芳賀富士と一体となった環境と景観の保全が今後も図れるよう、景観形成に関する条例の制定等の景観規制について検討を図っていく。
- ・安善寺と協議の上、境内の調査を行い中世安善寺跡の遺構の内容を明らかにしていく。
- ・中世宇都宮氏関連の資産として、上大羽の地蔵院・綱神社周辺の歴史文化遺産や、西明寺、円通寺と共に中世の遺産見学コースの中に位置付けて、活用していくことを検討する。



写真 4-23 安善寺本堂



写真 4-24 安善寺境内



写真 4-25 板碑



写真 4-26 シダレ桜



写真 4-27 カヤ



写真 4-28 ヒイラギ

### (3) 小宅古墳群

#### 【資産概要】

亀岡八幡宮から青田地区にまたがる前方後円墳6基、円墳29基（内9基は削平）から成る古墳群である。そのうち18基（内1基は削平）は県指定史跡となっている。現在、小宅地区の「亀岡八幡宮里山の会」の方々により、古墳周辺のシノ竹が伐採され、桜や菜の花が植えられ、花と古墳に親しむことができる名所となりつつある。

#### 【保存・活用の方向性】

- ・ 今後とも地区の方々の取り組みを支援していく。
- ・ 古墳の測量および発掘調査の実施を検討する。
- ・ 周辺を散策しながら古墳について説明を行う見学会等の催しを積極的に開催していく。
- ・ 道の駅で、古墳周辺の菜の花から採取した菜種油の販売や、菜の花と桜が開花する時期の古墳の風景や歴史の紹介等を行い、古墳の存在を内外にアピールする。

#### (4) 古代窯業群跡

##### 【資産概要】

古代窯跡（栗生窯跡群 / 町指定文化財）は、大羽川の支流によって開かれた谷沿いに分布している脇屋窯跡、東山窯跡、滝ノ入窯跡、倉見沢窯跡等から成る。須恵器の坏、壺、鉢、甕および硯、瓦等が出土しており、9世紀代には窯の操業が行われていたと考えられている。

本沼窯業群跡（町指定文化財）は、桜川と神崎川の上流域にあたり、これらの小河川に流入する支流によって開かれた谷の奥部に分布する北山窯跡、毘沙門入窯跡、谷津入窯跡、カスガ入窯跡、古ヶ原窯跡等から構成される。丘陵を挟んだ西側には真岡市の南高岡窯業群跡が、また県境を南に超えた茨城県側には堀ノ内窯業群跡や花見堂窯業群跡が位置しており、一大窯業群跡が形成されている。

古代窯業群跡がこの地に成立した背景には、登り窯を作りやすい地形、燃料である樹木や粘土の確保のしやすさがあったものと考えられる。益子の窯業の曙と言えるものであり、基本構想において、関連文化財群「益子・手仕事の技（わざ）資産群」の一つに位置付けている。

##### 【保存・活用の方向性】

- ・今後、計画的な調査を実施して、遺跡の内容を明らかにしていく。
- ・調査の成果に基づき史跡に指定し、将来的には益子窯業の曙を表す場所として整備を図っていくことを検討する。
- ・益子窯業の曙として、道の駅の交流コーナー等で益子焼と共に遺跡や出土遺物の紹介を行う。
- ・益子焼と共に須恵器の製作も行い、両者の違いを通して焼き物の歴史を体験的に学ぶ焼き物体験学習を、学校等で行うことを検討する。



写真 4-29 古代窯跡（栗生窯跡群）



写真 4-30 本沼窯業群跡



## 第5章 実施に向けての検討

### 1. 今後の事業展開（進め方）について

今後、基本構想で提示した内容を実施していくために、以下のように事業を進めていくことを検討する。また、今回策定した基本構想については、定期的に進捗を確認し、実施状況を見て内容を見直し、改訂していくものとする。

#### (1) 歴史文化を活かした町づくりについて

町全体のブランドイメージづくりに関連するものであることから、町のPR活動や「土祭」のような益子を内外に発信するイベントの中に、歴史文化まちづくりのテーマを活かしていく方策について、今後、関係部局と協議していく。

(例)・「道の駅」の交流コーナーにおいて、歴史文化を活かしたまちづくりのテーマに沿った資産の紹介等を行い、町内外にPRしていく。

・歴史文化基本構想についてのシンポジウムの開催

日本遺産に選定された場合は、日本遺産の活用を推進する協議会を歴史文化を活かしたまちづくりの推進主体に位置づけ、様々な取り組みを行っていくことを検討する。

#### (2) 文化財の保存・活用について

文化財に関わる施策を推進していくのに必要な専任職員を配置し、文化財担当部局が主体となって、文化庁、栃木県の支援を受けながら進めていく体制を整備する。今後、基本構想推進のための委員会を設置し、年度ごとの事業目標や進捗状況について報告を行い、指導・助言をいただくことを検討する。

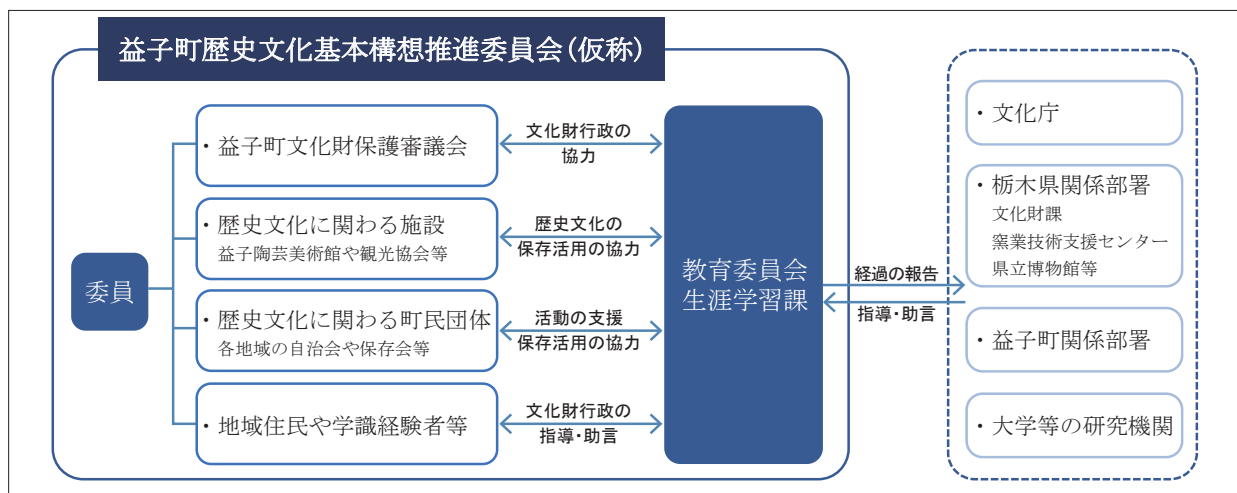


図 4-9 文化財の保存・活用のための新体制イメージ

#### (3) 歴史文化保存活用区域について

歴史文化保存活用区域の文化財の調査および保存・活用に関わるものについては、文化財担当部局が主体となって行っていく。

歴史文化保存活用区域の景観保全に関しては、景観形成に関する条例の制定等の具体的な方策について関係部局との連携を図る。

## 巻末資料

### 未指定文化財リスト

平成 28 年（2016）10 月時点での未指定文化財リストは下記の通りである。ただし、種別は指定後に想定される区分を記載している。また、ナンバーの表記は指定文化財から続くものとして 108 番からとした。このリストは『益子町史』（第 1 巻～第 6 巻、別巻）、『芳賀の文化財』（第 1 集～第 25 集）、『益子町の文化財』、『益子町史料所在目録』（第 1 集～第 8 集）、「益子町遺跡所在目録」（益子町史付録）をもとに作成し、文化財探検隊等で現地確認がとれているものには、備考欄に「確認済み（現存）」「確認済み（現存せず）」と記載した。

表 未指定文化財リスト

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
108	建造物	観音堂	芦沼・鹿島前		不詳	観世音菩薩（芳賀坂東 11 番）
109	建造物	地藏堂	芦沼・鹿島前		不詳	延命地藏尊／高麗神社境内
110	建造物	地藏堂	梅ヶ内・天神前		不詳	地藏様／木造小建物
111	建造物	黒崎邸	大郷戸	個人	江戸	
112	建造物	お堂	大郷戸・台	大郷戸公民館	不詳	不動明王・十九夜観音・地藏菩薩
113	建造物	観音堂	大沢・風戸		不詳	観音様／木造の覆いあり
114	建造物	地藏堂	大沢・風戸		不詳	お地藏様／木造の覆いあり
115	建造物	観音堂	大沢・御座内		不詳	朝日聖観音
116	建造物	お堂	大沢・小林		不詳	阿弥陀様
117	建造物	薬師堂	大沢・御霊前		不詳	確認済み（現存）／薬師様（目の神様）
118	建造物	薬師堂	大沢・新福寺		不詳	薬師如来
119	建造物	お堂	大沢・新福寺		不詳	薬師様／薬師堂の隣／木造小建物
120	建造物	観音堂	大沢・寺前	円通寺	不詳	聖観音（芳賀坂東 5 番）
121	建造物	お堂	大沢・仲田		不詳	確認済み（現存）／みねぎしの観音様
122	建造物	地藏堂	大平	安善寺	不詳	聖観音・地藏様（芳賀坂東 13 番）
123	建造物	河原邸	大平	個人	江戸	
124	建造物	お堂	大平・滝山		不詳	地藏様／木造の覆いあり
125	建造物	太子堂	大平・舟橋		不詳	聖徳太子／No. 737 を実施
126	建造物	お堂	大平・松山		不詳	No. 738 地藏様を実施／木造の覆いあり
127	建造物	薬師堂	小宅・日向		不詳	薬師様
128	建造物	光厳寺	小宅・日向		不詳	十一面観音（芳賀坂東 11 番）
129	建造物	お堂	上大羽		不詳	確認済み（現存）／西念坊
130	建造物	愛宕神社	上大羽・太夫ヶ入		不詳	
131	建造物	観音堂	上大羽・堂ヶ入		不詳	十一面観音（芳賀坂東 2 番）
132	建造物	お堂	上大羽・堂ヶ入		不詳	地藏様／観音堂の前／木造の覆い
133	建造物	御嶽神社	上大羽・中ノ内		不詳	確認済み（現存）
134	建造物	お堂	上大羽・馬場		不詳	海音坊／石造建物
135	建造物	お堂	上大羽・馬場		不詳	木造小建物
136	建造物	薬師堂	上山・北浦		不詳	確認済み（現存）／昔は No. 743 薬師様（念仏講）を実施
137	建造物	お堂	上山・宿		不詳	確認済み（現存）／聖観音（芳賀西国 18 番）／旧日光山延命寺／昔は No. 744 実施
138	建造物	お堂	上山・宿		不詳	確認済み（現存）／稻荷様の神楽殿／昔は No. 745 実施
139	建造物	大日堂	上山・向新田		不詳	大日如来／旧光明院／No. 748 実施
140	建造物	お堂	上山・向新田		不詳	地藏菩薩／No. 749 実施
141	建造物	お堂	上山・六反田		不詳	地藏様／昔は No. 750 の念仏を唱えた
142	建造物	お堂	北中・上ノ台		不詳	阿弥陀様／旧西光寺
143	建造物	お堂	北中・上ノ台		不詳	地藏様／簡単な覆いあり

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
144	建造物	お堂	北中・上ノ台		不詳	地藏様／簡単な覆いあり
145	建造物	加茂神社	北中・上京塚		不詳	確認済み(現存)／風神様
146	建造物	観音堂	北中・田端		不詳	馬頭観音(芳賀坂東4番)
147	建造物	不動堂	小泉・入山		不詳	不動様
148	建造物	虚空蔵堂	小泉・小田毛		不詳	虚空蔵菩薩
149	建造物	お堂	小泉・小田毛		不詳	十九夜講
150	建造物	阿彌陀堂	小泉・五領		不詳	阿彌陀如来
151	建造物	お堂	小泉・遠峰		不詳	如意輪観世音／十九夜
152	建造物	お堂	小泉・遠峰		不詳	如意輪観世音(芳賀西国20番)／旧玉蔵院
153	建造物	薬師堂	小泉・本田		不詳	虚空蔵・薬師如来
154	建造物	お堂	小泉・本田		不詳	如意輪観世音
155	建造物	お堂	小泉・向原		不詳	土留め石の中にある
156	建造物	薬師堂	下大羽・後田		不詳	No.770 薬師さまを実施
157	建造物	お堂	下大羽・後田		不詳	薬師堂の隣／簡単な覆い
158	建造物	観音堂	下大羽・西ノ根		不詳	馬頭観音(芳賀坂東4番)／石造建物
159	建造物	お堂	下大羽・堀ノ内		不詳	旧宝蔵寺跡／簡単な覆い
160	建造物	お堂	長堤・表宿		不詳	地藏菩薩／羽石内蔵助の守り本尊
161	建造物	お堂	長堤・表宿		不詳	稻荷様／稻荷は城の鬼門の守り
162	建造物	お堂	長堤・西山		不詳	地藏菩薩
163	建造物	虚空蔵堂	長堤・南郭		不詳	確認済み(現存)／虚空蔵菩薩
164	建造物	桜井邸	七井	個人	江戸	文化12年(1815)建築
165	建造物	地藏堂	七井	正法寺	不詳	地藏様／No.778 実施
166	建造物	お堂	七井・後町		不詳	お堂の中に朱塗りの小祠あり
167	建造物	お堂	七井・大和田		不詳	地藏様／鉄骨石造の簡単な覆いのみ
168	建造物	お堂	七井・大和田		不詳	旧大敬寺／薬師如来
169	建造物	観音堂	七井・上町		不詳	確認済み(現存)／不動様(千手観音、芳賀坂東6番)
170	建造物	薬師堂	七井・上町		不詳	確認済み(現存)／薬師如来
171	建造物	お堂	七井・上町		不詳	観音様／観音堂の隣／木造小建物
172	建造物	お堂	七井・上町		不詳	地藏様／木造小建物
173	建造物	八雲神社	七井・祇園	八雲神社	不詳	
174	建造物	勘定地神社	七井・高尾地		不詳	
175	建造物	薬師堂	七井・田子谷台		不詳	No.789 実施
176	建造物	お堂	七井・東台		不詳	お地藏様／鉄骨の簡単な覆いのみ
177	建造物	加藤邸	生田目	個人	江戸	確認済み(現存)／天明年間建築／20年ほど前に銅葺きに変更
178	建造物	加藤家土蔵	生田目	個人	明治	確認済み(現存)／明治18年(1885)造／旧小作米検査場所
179	建造物	地藏堂	生田目・下城		不詳	地藏菩薩／石造小建物
180	建造物	釈迦堂	生田目・釈迦入		不詳	確認済み(現存)／釈迦如来
181	建造物	如意輪堂	生田目・館山		不詳	確認済み(現存)／如意輪観音(芳賀坂東3番、加藤家で保存)／旧正覚寺
182	建造物	阿彌陀堂	生田目・道場前	正宗寺	不詳	確認済み(現存)／阿彌陀如来／旧久光寺
183	建造物	地藏堂(泥かけ地藏)	生田目・日向口		不詳	確認済み(現存)／地藏菩薩／石造小建物
184	建造物	薬師堂(とつとめ薬師)	生田目・向畑		不詳	確認済み(現存)／薬師様
185	建造物	高麗神社	生田目・和合神	高麗神社	不詳	確認済み(現存)／大同2年(807)創建と伝えられる
186	建造物	地藏堂	塙・下町道西		不詳	地藏尊／木造小建物／No.799 女衆地藏講実施／北向き
187	建造物	白滝不動堂	塙・滝ノ脇		不詳	No.800 不動尊実施／木造小建物
188	建造物	聖観音堂	塙・西側	法眼寺	不詳	聖観音(芳賀西国12番)／木造小建物／No.803 実施
189	建造物	薬師堂	塙・西側	明林寺	不詳	薬師如来／No.801 実施
190	建造物	観音堂	塙・西側		不詳	馬頭観音／No.802 実施
191	建造物	お堂	塙・西側		不詳	薬師堂の前／木造小建物



No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
192	建造物	地藏堂	塙・東側		不詳	地藏尊/木造小建物/No.804 女衆地藏講実施/西向き
193	建造物	不動堂	塙・東側		不詳	不動明王/旧法眼寺/No.805 実施
194	建造物	地藏堂	塙・東側		不詳	地藏尊/木造小建物/No.806 実施
195	建造物	お堂	塙・星宮西側		不詳	地藏尊/木造小建物
196	建造物	不動堂	塙・星宮東側		不詳	不動明王/旧不動院/No.807 実施
197	建造物	観音堂	塙・星宮東側		不詳	聖観音(芳賀西国11番)/No.808 実施
198	建造物	地藏堂	塙・星宮東側		不詳	地藏尊/十二神将/旧十王堂
199	建造物	金比羅堂	塙・星宮東側		不詳	火盜鎮護神
200	建造物	地藏堂	東田井・大内		不詳	確認済み(現存)/地藏菩薩
201	建造物	愛宕神社	東田井・柿木沢		不詳	確認済み(現存)/愛宕さま
202	建造物	薬師堂	東田井・在家		不詳	薬師如来/No.818 実施
203	建造物	お堂	東田井・ジャク下		不詳	確認済み(現存)/木造小建物
204	建造物	薬師堂	東田井・寺内		不詳	薬師如来/No.820 実施
205	建造物	社殿	東田井・向原		不詳	確認済み(現存)/佐原大明神/No.821 実施
206	建造物	お堂	東田井・山ノ入		不詳	確認済み(現存)/一面六臂千手観音(芳賀西国16番)
207	建造物	高橋邸	前沢	個人	江戸	
208	建造物	薬師堂	前沢・荒町		不詳	旧成就院の東側/古墳の上
209	建造物	地藏堂	前沢・荒町		不詳	上の地藏/木造小建物
210	建造物	地藏堂	前沢・荒町		不詳	中の地藏/木造小建物
211	建造物	観音堂	前沢・岡部		不詳	聖観音菩薩(芳賀西国17番)/旧廣澤山重宗寺
212	建造物	地藏堂	益子	観音寺	不詳	旧宝蔵寺より移築
213	建造物	弁天堂	益子	鶏足寺	不詳	弁天様/木造小建物
214	建造物	地藏堂	益子	鶏足寺	不詳	確認済み(現存)/子育て地藏菩薩/木造小建物
215	建造物	久保邸	益子	個人	明治	確認済み(現存)/明治23年(1890)造
216	建造物	濱田家長屋門	益子	個人	明治	確認済み(現存)/大羽から昭和9年移築
217	建造物	日下田家主屋	益子	個人	明治	明治15年(1882)造の木造平屋建・寄棟造・瓦葺
218	建造物	日下田家招魂社の門	益子	個人	明治	明治15年(1882)造の唐破風造榑門・銅瓦葺
219	建造物	松の屋店舗・袖蔵	益子	個人	明治	確認済み(現存)/明治22年(1889)造/呉服商・肥料商を営んでいた
220	建造物	松原製材所事務所	益子	個人	明治	確認済み(現存)/明治40年(1907)造
221	建造物	山口邸	益子	個人	近代	確認済み(現存)/木造2階建/木製のシャッターあり
222	建造物	旧つかもと平成館	益子	益子町	昭和	確認済み(現存)/昭和4年(1929)造/南間ホテル別館を昭和48年移築
223	建造物	地藏堂	益子・合ノ田		不詳	地藏菩薩/木造小建物/No.832 実施
224	建造物	薬師堂	益子・赤法花		不詳	赤目薬師堂
225	建造物	薬師堂	益子・一ノ沢	一ノ沢公民館	不詳	
226	建造物	地藏堂	益子・内町東側		不詳	子安地藏尊/木造小建物
227	建造物	不動堂・地藏堂	益子・北組		不詳	不動尊・地藏尊/石造建物
228	建造物	愛宕神社	益子・下り		不詳	太平神社東側
229	建造物	薬師堂	益子・黒石		不詳	旧西明寺公民館跡地内
230	建造物	真岡鐵道小貝川橋梁	益子・下川	真岡鐵道	大正	
231	建造物	八坂神社	益子・中宿	鹿島神社	不詳	
232	建造物	三日月堂	益子・西久保		不詳	旧持法院の跡/No.837 実施
233	建造物	社殿	益子・西久保		不詳	No.838 稻荷様実施
234	建造物	社殿	益子・西の台		不詳	No.839 稻荷様実施
235	建造物	旧益子陶器伝習所	益子・根古屋	個人	明治	
236	建造物	稻荷神社	益子・向原		不詳	No.840 実施
237	建造物	毘沙門堂	本沼・中坪		不詳	毘沙門天
238	建造物	薬師堂	本沼・中坪		不詳	薬師如来
239	建造物	鯉淵家主屋	山本	個人	大正	確認済み(現存)/大正15年(1926)造

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
240	建造物	お堂	山本・池下		不詳	地藏様／公民館敷地内／簡単な覆いのみ
241	建造物	薬師堂	山本・北		不詳	薬師如来
242	建造物	お堂	山本・常願		不詳	子育て地藏様／木造小建物内
243	建造物	お堂	山本・中城		不詳	確認済み(現存)／お地藏様／石造建物内
244	建造物	阿弥陀堂	山本・本郷	本郷公民館	不詳	旧東光寺旧阿弥陀堂
245	建造物	境三ノ宮神社	山本・前畑		不詳	磐裂命・経津主命・根裂命
246	建造物	お堂	山本・宮東		不詳	三ノ宮神社東側／木造小建物
247	絵画	名称不明の絵画	上大羽	綱神社	江戸	嘉永6年(1853)作／奉納者：青木辰蔵 藤沢半蔵
248	絵画	句額	上大羽	綱神社	不詳	
249	絵画	鳥居の図	上大羽	綱神社	不詳	
250	絵画	熊谷直実・平敦盛一騎打の図	上大羽	綱神社	不詳	奉納者：衣笠宥慶妻瀧女／作者不詳
251	絵画	富士山に馬放牧図	長堤	長堤八幡宮	不詳	奉納者・作者不詳
252	絵画	百人一首	長堤	長堤八幡宮	不詳	奉納者：樋口三郎／作者不詳
253	絵画	加藤清正虎退治の図	長堤	長堤八幡宮	不詳	奉納者：仙斎／作者不詳
254	絵画	武士と天狗の図	七井	日枝神社	江戸	天明8年(1788)作／奉納者・作者不詳
255	絵画	伊勢参宮同行の馬図	七井	日枝神社	江戸	文久3年(1863)作／奉納者：押久保伊兵衛他23名
256	絵画	宮中絵図	七井	日枝神社	江戸	寛政2年(1790)作／奉納者：上町田谷他22名
257	絵画	御教憲三條	七井	日枝神社	不詳	
258	絵画	大願成就	七井	日枝神社	明治	明治27年(1894)作／奉納者：植木芳蔵
259	絵画	神社の祭典風景図	七井	日枝神社	明治	明治31年(1898)作
260	絵画	大玉室日枝大神百一上棟記念	七井	日枝神社	不詳	
261	絵画	奉獻額	七井	日枝神社	不詳	
262	絵画	天の岩戸前の図	七井	日枝神社	昭和	昭和3年(1928)作／奉納者：大倉時三郎他9名
263	絵画	句額	七井	日枝神社	不詳	
264	絵画	満州出征凱旋記念鳥居の図	七井	日枝神社	不詳	
265	絵画	天水鉢一對	七井	日枝神社	不詳	
266	絵画	弁慶と牛若丸の図	七井	日枝神社	不詳	奉納者：五月女半兵衛他4名
267	絵画	諸願成就	七井	日枝神社	不詳	奉納者・作者不詳
268	絵画	鳥居の図	七井	日枝神社	不詳	
269	絵画	鏡もちの図	不詳		不詳	
270	絵画	瓶子の図	不詳		不詳	奉納者・作者不詳
271	絵画	瓶子の図	不詳		不詳	
272	絵画	「め」	不詳		不詳	
273	絵画	鬼神退治の図	益子	太平神社	江戸	嘉永2年(1849)作／奉納者：高塩口三郎 榎屋新之助
274	絵画	和歌	益子	太平神社	不詳	
275	絵画	鯛の図	益子	太平神社	不詳	
276	絵画	奉納	益子	太平神社	不詳	
277	絵画	奉納	益子	太平神社	不詳	
278	絵画	馬の図	益子	太平神社	不詳	
279	絵画	天狗面	益子	太平神社	不詳	
280	絵画	不詳	益子	太平神社	不詳	奉納者・作者不詳
281	絵画	天狗面	益子	太平神社	不詳	
282	絵画	烏天狗面	益子	太平神社	不詳	
283	絵画	烏天狗面	益子	太平神社	不詳	
284	絵画	奉納	益子	太平神社	不詳	
285	絵画	応感徳神	益子	太平神社	不詳	
286	絵画	奉納	益子	太平神社	不詳	
287	絵画	奉納	益子	太平神社	不詳	

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
288	彫刻	名称不明の彫刻	芦沼		江戸	木造、彩色、89 cm
289	彫刻	木造良純導観上人像	大沢	円通寺	江戸	彩色
290	彫刻	木造善導大師	大沢	円通寺	不詳	彩色
291	彫刻	木造開山上人坐像	大沢	円通寺	不詳	彩色
292	彫刻	木造法然像	大沢	円通寺	不詳	彩色
293	彫刻	木造阿彌陀如来坐像	大沢	円通寺	鎌倉	金箔、50 cm
294	彫刻	木造阿彌陀如来坐像	大沢	円通寺	鎌倉	90 cm
295	彫刻	木造地藏菩薩像	大平	安善寺	不詳	金箔
296	彫刻	木造阿彌陀如来立像	大平	安善寺	不詳	
297	彫刻	木造阿彌陀如来坐像	小宅	光厳寺	不詳	
298	彫刻	木造不動明王立像(念持仏)	上大羽	個人	鎌倉	漆箔
299	彫刻	薬師如来立像	上大羽	地藏院	不詳	確認済み(現存せず)/漆箔
300	彫刻	木造延命地藏菩薩像	上大羽	地藏院	江戸	確認済み(現存)/金箔/宝永3年(1706)作
301	彫刻	木造虚空蔵菩薩	上大羽	地藏院	江戸	確認済み(現存せず)/金箔
302	彫刻	木造大日如来坐像	上大羽	地藏院	江戸	確認済み(現存)/彩色
303	彫刻	木造不動明王坐像	上大羽	地藏院	江戸	確認済み(現存)/古色塗
304	彫刻	木造阿彌陀如来像	上山	普門寺	不詳	金箔
305	彫刻	木造阿彌陀如来立像	小泉	小泉自治会	不詳	金箔、160 cm
306	彫刻	木造地藏菩薩像	長堤	個人	不詳	金箔
307	彫刻	添谷長俊像	長堤	個人	不詳	
308	彫刻	名称不明の彫刻	七井		江戸	宝暦3年(1753)作/木造、漆箔、37 cm
309	彫刻	木造千手観音像	塙	閑空院	不詳	金箔
310	彫刻	木造おんびんずる様像	塙	明林寺	不詳	彩色
311	彫刻	木造聖観音菩薩像	塙	明林寺	不詳	金箔
312	彫刻	木造阿彌陀如来坐像	東田井	東光寺(廃寺)	不詳	確認済み(現存せず)/金箔/廃寺
313	彫刻	木造阿彌陀如来立像	益子	清浄寺	鎌倉	金箔、時代推定
314	彫刻	木造大日如来像	益子	観音寺	江戸	金箔
315	彫刻	木造不動明王像	益子	観音寺	不詳	漆箔
316	彫刻	木造地藏菩薩像	益子	観音寺	不詳	金箔
317	彫刻	木造阿彌陀如来立像	益子	正宗寺	不詳	金箔
318	彫刻	木造阿彌陀三尊像	益子	正宗寺	不詳	金箔
319	彫刻	木造千手観音像	益子	西明寺	不詳	
320	彫刻	木造奪衣婆像	益子	西明寺	不詳	確認済み(現存)/色彩
321	彫刻	木造地藏像	益子	西明寺	不詳	確認済み(現存)/金箔
322	彫刻	木造紀貫之夫婦像	益子	西明寺	不詳	確認済み(現存)/色彩
323	彫刻	木造十一面観音菩薩像	益子	西明寺	不詳	確認済み(現存)/金箔、芳賀坂東1番力
324	彫刻	木造十一面観音菩薩像	益子	西明寺	不詳	彩色、秘仏、芳賀坂東1番力
325	彫刻	木造毘沙門天像	本沼	個人	不詳	
326	彫刻	木造阿彌陀像	本沼	個人	室町	
327	彫刻	木造薬師如来坐像	山本	光明寺	不詳	金箔
328	彫刻	銅造阿彌陀如来像	山本	光明寺	不詳	確認済み(現存せず)/46.7 cm
329	彫刻	木造毘沙門天像	山本	光明寺	不詳	彩色
330	彫刻	木造不動明王像	山本	光明寺	不詳	彩色
331	彫刻	木造大日如来像	山本	光明寺	不詳	金箔
332	彫刻	木造大日如来像	山本	光明寺	不詳	金箔
333	彫刻	木造阿彌陀如来立像	山本	妙伝寺	江戸	金箔/天保年間作
334	彫刻	木造伝士大師像	山本	妙伝寺	明治	彩色/明治10年(1877)作
335	彫刻	木造十二神将像	山本・北	光明寺・薬師堂	江戸	彩色
336	彫刻	木造薬師如来坐像	山本・北	光明寺・薬師堂	江戸	彩色
337	書跡	石井家文書	芦沼	個人	近世	
338	書跡	鈴木家文書	芦沼	個人	不詳	
339	書跡	豊田家文書	梅ヶ内	個人	不詳	



No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
340	書跡	岩崎家文書	大沢	個人	不詳	
341	書跡	岩崎家文書	大沢	個人	不詳	
342	書跡	小滝家文書	大沢	個人	不詳	
343	書跡	小嶋家文書	大沢	個人	不詳	
344	書跡	佐藤家文書	大沢	個人	不詳	
345	書跡	高塩家文書	大沢	個人	不詳	
346	書跡	橋本家文書	大沢	個人	不詳	
347	書跡	三村家文書	大沢	個人	不詳	
348	書跡	岩下家文書	大平	個人	近世・近現代	
349	書跡	河原家文書	大平	個人	不詳	
350	書跡	河原家文書	大平	個人	近世・近現代	
351	書跡	小倉家文書	小宅	個人	不詳	
352	書跡	小倉家文書	小宅	個人	不詳	
353	書跡	福田家文書	小宅	個人	近世・近現代	
354	書跡	横山家文書	小宅	個人	不詳	
355	書跡	黒子家文書	上大羽	個人	近世・近現代	
356	書跡	黒子家文書	上大羽	個人	近世・近現代	
357	書跡	黒子家文書	上大羽	個人	近世・近現代	
358	書跡	黒子家文書	上大羽	個人	近世・近現代	
359	書跡	地蔵院文書	上大羽	地蔵院	近世・近現代	
360	書跡	田中家文書	上大羽	個人	近世・近現代	
361	書跡	田中家文書	上大羽	個人	近世・近現代	
362	書跡	田中家文書	上大羽	個人	近世・近現代	
363	書跡	芦野家文書	上山	個人	不詳	
364	書跡	粕谷家文書	上山	個人	不詳	
365	書跡	普門寺文書	上山	普門寺	不詳	
366	書跡	渡辺家文書	上山	個人	不詳	
367	書跡	小島家文書	小泉	個人	不詳	
368	書跡	仁平家文書	小泉	個人	不詳	
369	書跡	小堀家文書	下大羽	個人	近世・近現代	
370	書跡	中山家文書	下大羽	個人	近世・近現代	
371	書跡	藤田家文書	下大羽	個人	近世・近現代	
372	書跡	大山家文書	長堤	個人	不詳	
373	書跡	小野家文書	長堤	個人	不詳	
374	書跡	添谷家文書	長堤	個人	不詳	
375	書跡	田野分館文書	長堤		不詳	
376	書跡	堀中家文書	長堤	個人	不詳	
377	書跡	柳家文書	長堤	個人	不詳	
378	書跡	渡辺家文書	長堤	個人	不詳	
379	書跡	岩崎家文書	七井	個人	不詳	
380	書跡	岩崎家文書	七井	個人	不詳	
381	書跡	岩松家文書	七井	個人	不詳	
382	書跡	大岡家文書	七井	個人	不詳	
383	書跡	大倉家文書	七井	個人	不詳	
384	書跡	太田家文書	七井	個人	不詳	
385	書跡	押久保家文書	七井	個人	不詳	
386	書跡	加藤家文書	七井	個人	不詳	
387	書跡	角海家文書	七井	個人	近世	
388	書跡	桜井家文書	七井	個人	近世・近現代	
389	書跡	里区有文書	七井		近現代	
390	書跡	田子谷区有文書	七井		近現代	
391	書跡	保園家文書	七井	個人	近世・近現代	
392	書跡	手塚家文書	七井	個人	不詳	

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
393	書跡	手塚家文書	七井	個人	不詳	
394	書跡	向田家文書	七井	個人	近世・近現代	
395	書跡	弥生家文書	七井	個人	不詳	
396	書跡	加藤家文書	生田目	個人	不詳	
397	書跡	高松家文書	生田目	個人	不詳	
398	書跡	高松家文書	生田目	個人	不詳	
399	書跡	生田目区有文書	生田目	生田目自治会	不詳	
400	書跡	仁平家文書	生田目	個人	不詳	
401	書跡	仁平家文書	生田目	個人	近世・近現代	
402	書跡	石川家文書	塙	個人	近世・近現代	
403	書跡	上野家文書	塙	個人	近世・近現代	
404	書跡	大塚家文書	塙	個人	近世・近現代	
405	書跡	小熊家文書	塙	個人	近世・近現代	
406	書跡	小菅家文書	塙	個人	近世・近現代	
407	書跡	小玉家文書	塙	個人	近世・近現代	
408	書跡	高橋家文書	塙	個人	近現代	
409	書跡	塙区有文書	塙	塙自治会	近現代	
410	書跡	大根田家文書	東田井	個人	不詳	
411	書跡	仙波家文書	東田井	個人	不詳	
412	書跡	高久家文書	東田井	個人	不詳	
413	書跡	高松家文書	東田井	個人	不詳	
414	書跡	高橋家文書	前沢	個人	不詳	
415	書跡	高橋家文書	前沢	個人	不詳	
416	書跡	法師人家文書	前沢	個人	不詳	
417	書跡	飯塚家文書	益子	個人	不詳	
418	書跡	飯塚家文書	益子	個人	不詳	
419	書跡	生沼家文書	益子	個人	不詳	
420	書跡	大久保家文書	益子	個人	不詳	
421	書跡	大塚家文書	益子	個人	不詳	
422	書跡	大塚家文書	益子	個人	不詳	
423	書跡	大塚家文書	益子	個人	不詳	
424	書跡	大塚家文書	益子	個人	不詳	
425	書跡	大塚家文書	益子	個人	近世・近現代	
426	書跡	加藤家文書	益子	個人	不詳	
427	書跡	加藤家文書	益子	個人	不詳	
428	書跡	観音寺文書	益子	観音寺	不詳	
429	書跡	菊池家文書	益子	個人	不詳	
430	書跡	木村家文書	益子	個人	不詳	
431	書跡	木村家文書	益子	個人	不詳	
432	書跡	久野家文書	益子	個人	不詳	
433	書跡	鶏足寺文書	益子	鶏足寺	不詳	
434	書跡	西明寺文書	益子	西明寺	不詳	
435	書跡	佐藤家文書	益子	個人	不詳	
436	書跡	正宗寺文書	益子	正宗寺	不詳	
437	書跡	添谷家文書	益子	個人	不詳	
438	書跡	日下田家文書	益子	個人	不詳	
439	書跡	日下田家文書	益子	個人	近世・近現代	
440	書跡	平野家文書	益子	個人	近世・近現代	
441	書跡	益子小学校文書	益子	益子町	不詳	
442	書跡	三田家文書	益子	個人	不詳	
443	書跡	芦沢家文書	本沼	個人	不詳	
444	書跡	上野家文書	本沼	個人	不詳	
445	書跡	菊島家文書	本沼	個人	不詳	

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
446	書跡	菊島家文書	本沼	個人	不詳	
447	書跡	豊田家文書	本沼	個人	不詳	
448	書跡	鯉淵家文書	山本	個人	不詳	
449	書跡	出口家文書	山本	個人	不詳	
450	書跡	広沢家文書	山本	個人	不詳	
451	書跡	宮城家文書	山本	個人	不詳	
452	書跡	妙伝寺文書	山本	妙伝寺	不詳	
453	考古資料	宝篋印塔	大沢	円通寺	不詳	92 cm
454	考古資料	五輪塔	大平	安善寺	不詳	86 cm
455	考古資料	良月上人五輪塔	大平	安善寺	不詳	97 cm
456	考古資料	五輪塔	大平	安善寺	不詳	86 cm
457	考古資料	五輪塔	大平	安善寺	不詳	83 cm
458	考古資料	五輪塔	上大羽	個人	不詳	
459	考古資料	田村家五輪塔群	上大羽	個人	不詳	
460	考古資料	板碑	上大羽	地藏院	鎌倉	確認済み(現存) / 56 cm / 弘安6年(1283)作
461	考古資料	板碑	上大羽	地藏院	不詳	確認済み(現存) / 74 cm
462	考古資料	板碑	上大羽	地藏院	不詳	確認済み(現存) / 35 cm
463	考古資料	板碑	上大羽	地藏院	不詳	確認済み(現存) / 63 cm
464	考古資料	大六天の森の墓	上大羽・大六天		不詳	阿野全成か清水義高等の墓とされる
465	考古資料	宝篋印塔	上山	普門寺	江戸	確認済み(現存) / 安永9年(1780)造
466	考古資料	添谷家宝篋印塔	長堤	個人	江戸	明和3年(1766)造
467	考古資料	添谷家宝篋印塔	長堤	個人	江戸	宝暦9年(1759)造
468	考古資料	五輪塔	長堤	個人	不詳	70 cm
469	考古資料	五輪塔	長堤	個人	不詳	65 cm
470	考古資料	五輪塔	長堤	個人	不詳	天正寺入五輪塔群
471	考古資料	板碑	七井	個人	不詳	65 cm、吉添共同墓地
472	考古資料	五輪塔	益子	正宗寺	不詳	96 cm
473	考古資料	五輪塔	益子	正宗寺	不詳	152 cm
474	考古資料	五輪塔	山本	個人	不詳	153 cm、八幡下共同墓地
475	考古資料	五輪塔	山本	個人	不詳	168 cm、八幡下共同墓地
476	考古資料	五輪塔	山本	個人	不詳	156 cm、光明寺
477	考古資料	五輪塔	山本	光明寺	不詳	125 cm、八幡下共同墓地
478	考古資料	権大僧都法印瑠精五輪塔	山本	光明寺	江戸	125 cm、八幡下共同墓地 / 寛延3年(1750)造
479	有形民俗	馬頭観世音	芦沼		明治	明治3年(1870)造
480	有形民俗	南無観世音菩薩	芦沼・青田		江戸	寛延3年(1750)造
481	有形民俗	千手観音像	芦沼・青田		江戸	享保15年(1730)造
482	有形民俗	馬頭観世音	石橋角		江戸	文政2年(1819)造
483	有形民俗	勝善神	石橋角		明治	明治29年(1896)造
484	有形民俗	無名碑	石橋角		不詳	
485	有形民俗	二十三夜供養塔	上平道路側		江戸	安永3年(1774)造
486	有形民俗	二十三夜供養塔	梅ヶ内		江戸	寛政11年(1799)造
487	有形民俗	地藏尊像	大沢		江戸	確認済み(現存) / 天和7年(貞享4年か / 1687)造
488	有形民俗	如意輪観世音像	大沢		江戸	確認済み(現存) / 明和7年(1770)造
489	有形民俗	十九夜供養塔	大沢		江戸	文政13年(1830)造
490	有形民俗	馬頭観世音	大沢		江戸	文政2年(1819)造
491	有形民俗	二十三夜供養塔	大沢・風戸		江戸	天明2年(1782)造
492	有形民俗	祠	大沢・風戸		不詳	天神様 / 木造小祠
493	有形民俗	十九夜供養塔	大沢・御霊橋		江戸	文政13年(1830)造
494	有形民俗	十九夜供養塔	大沢・新福寺		江戸	文化2年(1805)造
495	有形民俗	馬頭尊	大沢・新福寺		江戸	嘉永4年(1851)造
496	有形民俗	延命地藏尊	大沢・新福寺		江戸	天保4年(1833)造
497	有形民俗	庚申塔	大沢・新福寺		不詳	



No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
498	有形民俗	祠	大沢・新福寺		不詳	天神様
499	有形民俗	祠	大沢・宗谷津		不詳	弁才天
500	有形民俗	祠	大沢・宗谷津		不詳	山の神/石造小祠
501	有形民俗	虎溪庵碑	大平・舟橋		昭和	昭和23年(1948)造
502	有形民俗	二十三夜供養塔	小宅		江戸	寛延2年(1749)造
503	有形民俗	祠	小宅・西寺窪		不詳	石造小祠
504	有形民俗	禊教沿革碑	小宅・馬場山	亀岡八幡宮	明治	明治19年(1886)造
505	有形民俗	東宮千別大人之碑	小宅・馬場山	亀岡八幡宮	明治	明治32年(1899)造
506	有形民俗	一乗妙法供養塔	上大羽	地藏院	安土桃山	慶長3年(1598)造
507	有形民俗	如意輪観音像	上大羽	地藏院	不詳	
508	有形民俗	如意輪観音像	上大羽	地藏院	江戸	宝暦3年(1753)造
509	有形民俗	地藏尊像	上大羽	地藏院	不詳	
510	有形民俗	地藏尊像	上大羽	地藏院	不詳	
511	有形民俗	梵字碑	上大羽		不詳	
512	有形民俗	馬頭尊	上大羽・地尻		不詳	確認済み(現存)
513	有形民俗	大勢至	上大羽・地尻		不詳	確認済み(現存)
514	有形民俗	一心巴講百年縁起	上大羽・堂ヶ入		昭和	昭和39年(1964)造
515	有形民俗	二十三夜供養塔	上大羽・谷井田		江戸	安永8年(1779)造
516	有形民俗	無名碑	上大羽・谷井田		不詳	
517	有形民俗	馬頭尊	上大羽・谷井田		明治	明治24年(1891)造
518	有形民俗	二十三夜塔	上大羽・谷井田		江戸	天明8年(1788)造
519	有形民俗	奉供養光明真言〇〇	上大羽・谷井田		江戸	天明8年(1788)造
520	有形民俗	地藏尊	上大羽・谷井田		不詳	
521	有形民俗	如意輪観音像	上大羽・谷井田		江戸	宝暦年間造
522	有形民俗	十九夜供養塔	上大羽・谷井田		江戸	天明1年(1781)造
523	有形民俗	庚申塔(三猿像)	上大羽・谷井田		江戸	安永7年(1778)造
524	有形民俗	如意輪観音	上大羽・谷井田		江戸	慶安年間造
525	有形民俗	地藏尊	上大羽・谷井田		江戸	明和7年(1770)造
526	有形民俗	如意輪観音	上大羽・谷井田		江戸	安永2年(1773)造
527	有形民俗	御嶽社建立碑	上大羽・谷井田		不詳	確認済み(現存)/田中長平・黒子道之祐御嶽社建立
528	有形民俗	百番供養塔	上大羽・海音坊庭		江戸	確認済み(現存)/万治元年(1658)造
529	有形民俗	如意輪観音碑	上大羽・海音坊庭		江戸	確認済み(現存)/安永10年(1781)造
530	有形民俗	地藏尊像	上大羽・海音坊庭		不詳	確認済み(現存)
531	有形民俗	宇都宮貞綱朝臣之碑記	上大羽・綱神社入口		明治	確認済み(現存)/明治28年(1895)造
532	有形民俗	二十三夜塔	上大羽・西念坊 火見下		江戸	確認済み(現存)/天保12年(1841)造
533	有形民俗	二十三夜塔	上大羽・西念坊 火見下		江戸	確認済み(現存)/慶応3年(1867)造
534	有形民俗	光明真言供養塔	上大羽・西念坊庭		江戸	確認済み(現存)/文化10年(1813)造
535	有形民俗	十九夜供養塔	上大羽・西念坊庭		江戸	確認済み(現存)/享保3年(1718)造
536	有形民俗	秩父坂東観世音菩薩碑	上大羽・西念坊庭		江戸	享和3年(1803)造
537	有形民俗	西念〇〇〇	上大羽・西念坊庭		江戸	明和2年(1765)造
538	有形民俗	北向地藏尊	上大羽・西念坊庭		不詳	確認済み(現存)
539	有形民俗	合掌地藏尊碑	上大羽・西念坊庭		不詳	確認済み(現存)
540	有形民俗	地藏尊像	上大羽・西念坊庭		不詳	
541	有形民俗	六角笠碑	上大羽・西念坊庭		不詳	確認済み(現存)
542	有形民俗	永祿碑	上大羽・地藏院入口		室町	永祿10年(1567)造
543	有形民俗	十九夜念仏	上大羽・地藏院入口		江戸	享保4年(1719)造
544	有形民俗	十九夜念仏	上大羽・地藏院入口		江戸	元禄12年(1699)造
545	有形民俗	道標	上山	普門寺	江戸	確認済み(現存)/文化12年(1815)造
546	有形民俗	馬頭観音	上山		江戸	天保13年(1842)造
547	有形民俗	二十三夜供養塔	上山		江戸	天明6年(1786)造

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
548	有形民俗	奉読誦大乘妙典千部成就所	上山		江戸	確認済み(現存) / 正徳5年(1715)造
549	有形民俗	如意輪觀世音像	上山		江戸	享保7年(1722)造
550	有形民俗	庚申塔	上山		江戸	元治年間造
551	有形民俗	道標	上山・御前東		昭和	確認済み(現存) / 昭和22年(1947)造
552	有形民俗	上山村旧記	上山・上山	上山神社	大正	確認済み(現存) / 大正7年(1918)造
553	有形民俗	祠	上山・宿		不詳	確認済み(現存) / 稻荷神社
554	有形民俗	祠	上山・宿		不詳	確認済み(現存) / 大杉神社
555	有形民俗	馬頭尊	観光道路追分		江戸	安政4年(1857)造
556	有形民俗	大勢至	観光道路追分		不詳	
557	有形民俗	正観音像	北中		江戸	元和2年(1616)造
558	有形民俗	地藏尊像南無阿彌陀仏	北中		江戸	文政7年(1824)造
559	有形民俗	南無阿彌陀仏千日供養	北中		江戸	天和2年(1682)造
560	有形民俗	地藏尊像	北中		江戸	天和2年(1682)造
561	有形民俗	道標	北中		不詳	国道294号北中 / さいみやうじ・からすやま・円通寺・うつのみや日光
562	有形民俗	権現様	北中・館坂		不詳	龍神様 / 木造小祠
563	有形民俗	南無阿彌陀仏	栗生公民館前		不詳	
564	有形民俗	阿闍梨有見	栗生公民館前		江戸	元禄5年(1692)造
565	有形民俗	梵字碑	栗生公民館前		江戸	正徳5年(1715)造
566	有形民俗	光明真言	栗生公民館前		江戸	明和7年(1770)造
567	有形民俗	花持観音	栗生公民館前		江戸	元禄2年(1689)造
568	有形民俗	地藏尊	栗生公民館前		不詳	
569	有形民俗	奉供養十九夜塔	栗生火見側		江戸	享保5年(1720)造
570	有形民俗	庚申塔	栗生火見側		江戸	安政5年(1858)造
571	有形民俗	二十三夜塔	栗生火見側		江戸	安永10年(1781)造
572	有形民俗	二十三夜塔	栗生火見側		江戸	文化6年(1809)造
573	有形民俗	地藏尊像	小泉		江戸	宝暦11年(1761)造
574	有形民俗	奉順礼西国秩父百番供養塔	小泉		江戸	文化7年(1810)造
575	有形民俗	庚申供養塔	小泉		江戸	安永5年(1776)造
576	有形民俗	二十三夜供養塔	小泉		江戸	寛政9年(1797)造
577	有形民俗	祠	小泉・小田毛		不詳	八坂神社 / 金比羅山
578	有形民俗	二十三夜供養塔	小泉・遠峰		江戸	天明3年(1783)造
579	有形民俗	南無地藏大菩薩	小泉・遠峰		江戸	享和3年(1803)造
580	有形民俗	馬頭尊	下大羽		明治	明治13年(1880)造
581	有形民俗	地藏尊像	下大羽		不詳	
582	有形民俗	地藏尊碑	下大羽		江戸	安政6年(1859)造
583	有形民俗	供養塔	下大羽		江戸	文化8年(1811)造
584	有形民俗	十九夜塔	下大羽		江戸	天保11年(1840)造
585	有形民俗	奉供養十九夜塔	下大羽		江戸	文化11年(1814)造
586	有形民俗	馬頭尊	下大羽		不詳	
587	有形民俗	馬頭尊	下大羽		明治	明治9年(1876)造
588	有形民俗	二十三夜塔	田古屋		江戸	元治1年(1864)造
589	有形民俗	地藏尊像	田古屋		江戸	元治1年(1864)造
590	有形民俗	馬頭尊像	田古屋		江戸	元治2年(1865)造
591	有形民俗	二十三夜供養塔	出口坂追分		江戸	明和9年(1772)造
592	有形民俗	百万遍供養塔	出口坂追分		江戸	安永6年(1777)造
593	有形民俗	光明真言供養塔	出口坂追分		江戸	宝暦13年(1763)造
594	有形民俗	秩父西国坂刺貞礼供養塔	出口坂追分		江戸	文化14年(1817)造
595	有形民俗	甘酒地藏尊像	出口坂追分		不詳	
596	有形民俗	二十三夜塔	仲内		江戸	天明8年(1788)造
597	有形民俗	二十三夜供養塔	仲内		江戸	文政3年(1820)造

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
598	有形民俗	二十三夜供養塔	長堤		江戸	確認済み(現存) / 天明6年(1786)造
599	有形民俗	馬頭観音	長堤		江戸	確認済み(現存) / 文化12年(1815)造
600	有形民俗	十九夜念仏供養塔	長堤		江戸	確認済み(現存) / 文化10年(1813)造
601	有形民俗	二十三夜供養塔	長堤		江戸	確認済み(現存) / 享和2年(1802)造
602	有形民俗	地藏像	長堤		江戸	元禄13年(1700)造
603	有形民俗	光明真言塔	長堤		江戸	宝暦8年(1758)造
604	有形民俗	如意輪観音像	長堤		江戸	元禄8年(1695)造
605	有形民俗	如意輪観世音像	長堤		江戸	文化11年(1814)造
606	有形民俗	奉読誦当途王経一万巻 成就所	長堤		江戸	寛永7年(1630)造
607	有形民俗	聖徳太子像	長堤		江戸	元治2年(1865)造
608	有形民俗	十九夜念仏供養塔	長堤		江戸	確認済み(現存) / 享和元年(1801)造
609	有形民俗	二十三夜供養塔	長堤		江戸	寛政8年(1796)造
610	有形民俗	四十八夜供養塔	長堤		江戸	宝永3年(1706)造
611	有形民俗	二十三夜供養塔	長堤		江戸	安政4年(1857)造
612	有形民俗	地藏尊像	長堤		江戸	延宝3年(1675)造
613	有形民俗	地藏尊像	長堤		江戸	延享4年(1747)造
614	有形民俗	十九夜念仏供養	長堤		江戸	寛永3年(1626)造
615	有形民俗	十九夜供養塔	長堤		不詳	奥羽道・真岡道
616	有形民俗	祠	長堤・表宿		不詳	鬼子母神 / 田野城主羽石氏の氏神
617	有形民俗	従五位之廟	長堤・新田		江戸	確認済み(現存) / 寛保3年(1743)造
618	有形民俗	石橋料寄附之碑	長堤・新田		江戸	確認済み(現存) / 明和3年(1766)と明和5年(1768)造
619	有形民俗	大乘妙典千部所	長堤・八幡原	長堤八幡宮	江戸	確認済み(現存) / 宝永4年(1707)造
620	有形民俗	二十三夜塔	七井		江戸	確認済み(現存) / 弘化4年(1847)造
621	有形民俗	二十三夜塔	七井・大和田		江戸	安政4年(1857)造
622	有形民俗	二十三夜供養塔	七井・大和田		江戸	明和年間造
623	有形民俗	地藏尊像	七井・大和田		不詳	
624	有形民俗	祠	七井・山王		不詳	石造小祠
625	有形民俗	二十三夜供養塔	七井・下町		江戸	天明4年(1784)造
626	有形民俗	三界萬霊塔	七井・下町		不詳	確認済み(現存)
627	有形民俗	地藏大菩薩・観世音菩薩	七井・田中		江戸	寛延3年(1750)造
628	有形民俗	観音像十九夜念仏	七井・田中		江戸	安永5年(1776)造
629	有形民俗	出羽三山供養塔	七井・田中		江戸	文政2年(1819)造
630	有形民俗	地藏尊像	七井・田中		江戸	元文1年(1736)造
631	有形民俗	如意輪観音像	七井・田中		江戸	明和5年(1768)造
632	有形民俗	地藏尊像	七井・田中		江戸	明和年間造
633	有形民俗	道標	生田目・上城		江戸	確認済み(現存) / 文化4年(1807)造 / さくハミち・日光のふほしのみや道
634	有形民俗	馬頭観音	生田目・上城		不詳	確認済み(現存)
635	有形民俗	子安地藏	生田目・上城		不詳	確認済み(現存)
636	有形民俗	大乘妙典日本回国供養塔	生田目・釈迦入		江戸	確認済み(現存) / 享和2年(1802)造
637	有形民俗	霊柩車	生田目・釈迦入		不詳	確認済み(現存) / 釈迦堂内に大小の2台と床取表
638	有形民俗	十九夜塔	生田目・日向口		明治	確認済み(現存) / 明治25年(1892)造
639	有形民俗	十九夜塔	生田目・向畑		江戸	確認済み(現存) / 享保5年(1720)造
640	有形民俗	百万遍供養塔	生田目・向畑		江戸	確認済み(現存) / 正徳3年(1713)造
641	有形民俗	二十三夜塔	生田目・向畑		江戸	確認済み(現存) / 安永3年(1774)造
642	有形民俗	如意輪観音	塙		江戸	県道塙・上根線塙 / 安永9年(1780)造 / 七井・いなけた
643	有形民俗	二十三夜塔	塙		明治	明治12年(1879)造
644	有形民俗	奉納大乘妙典六十六部供	東田井		江戸	確認済み(現存) / 享保6年(1721)造
645	有形民俗	馬頭観世音	東田井		江戸	確認済み(現存) / 嘉永4年(1851)造
646	有形民俗	二十三夜供養塔	東田井		江戸	天明2年(1782)造



No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
647	有形民俗	二十三夜供養塔兼道標	東田井		江戸	確認済み(現存) / 寛政7年(1795)造
648	有形民俗	半鐘	東田井・石橋		不詳	確認済み(現存)
649	有形民俗	祠	東田井・大内		不詳	No.812 コウセバ様実施/農家の神様
650	有形民俗	加波山三社大権現	東田井・大内前		江戸	確認済み(現存) / 文政13年(1830)造
651	有形民俗	日露戦没記念碑	東田井・大内前		大正	確認済み(現存) / 大正4年(1915)造
652	有形民俗	湯殿山供養塔	東田井・柿木沢		江戸	確認済み(現存) / 寛政6年(1794)造
653	有形民俗	大乘妙典一千部供養塔	東田井・山ノ入		不詳	確認済み(現存)
654	有形民俗	百万遍供養塔	東田井・山ノ入		江戸	確認済み(現存) / 享保6年(1721)造
655	有形民俗	二十三夜供養塔	前沢		江戸	享和3年(1803)造
656	有形民俗	大乘妙典千部供養	前沢		江戸	
657	有形民俗	奉供養仁王経千部所	前沢		江戸	寛文9年(1669)造
658	有形民俗	二十三夜供養塔	前沢・荒町		江戸	寛政4年(1792)造
659	有形民俗	十九夜供養塔	前沢・荒町		江戸	享和1年(1801)造
660	有形民俗	荒町の御大典記念道標	前沢・荒町		昭和	県道257号線変則十字路
661	有形民俗	荒町の御大典記念道標	前沢・荒町		不詳	県道257号線十字路
662	有形民俗	祠	前沢・前沢屋敷		不詳	狐塚古墳の上/石造小祠
663	有形民俗	馬頭観世音	益子・石並		江戸	確認済み(現存)
664	有形民俗	如意輪観音	益子・石並		江戸	確認済み(現存) / 明和3年(1766)造
665	有形民俗	南無地藏尊	益子・石並		江戸	確認済み(現存) / 宝暦11年(1761)造力
666	有形民俗	道標	益子・石並		不詳	確認済み(現存)
667	有形民俗	如意輪観音像	益子・一ノ沢		江戸	文化8年(1811)造
668	有形民俗	奉供養十九夜念仏	益子・一ノ沢		江戸	享保1年(1716)造
669	有形民俗	二十三夜供養塔	益子・一ノ沢		江戸	天明5年(1785)造
670	有形民俗	南無阿弥陀仏	益子・内町		江戸	享保2年(1717)造
671	有形民俗	二十三夜供養塔	益子・内町		江戸	天明4年(1784)造
672	有形民俗	十九夜念仏塔	益子・内町		江戸	安永8年(1779)造
673	有形民俗	南無地藏大菩薩	益子・内町		江戸	寛保2年(1742)造
674	有形民俗	奉納百番供養	益子・内町		江戸	享和2年(1802)造
675	有形民俗	奉読誦供養一千部	益子・内町		不詳	
676	有形民俗	祠	益子・北組		不詳	石造小祠
677	有形民俗	陶師大塚氏碑銘	益子・北山	西明寺	明治	確認済み(現存) / 明治14年(1881)造
678	有形民俗	追分地藏碑	益子・北山		安土桃山	天正4年(1576)造
679	有形民俗	指差し観音・道しるべ	益子・北山		江戸	享和3年(1803)造/あまびき・くりう
680	有形民俗	祠	益子・経塚		不詳	矢島産業の北/塚の上に石造小祠
681	有形民俗	道標	益子・西明寺		江戸	天保2年(1831)造
682	有形民俗	二十三夜供養塔	益子・道祖土		江戸	天明5年(1785)造
683	有形民俗	奉供養十九夜念仏	益子・道祖土		江戸	享保3年(1718)造
684	有形民俗	如意輪観音像	益子・道祖土		江戸	安政6年(1859)造
685	有形民俗	大乘妙典十六部成就所	益子・城内		江戸	寛延1年(1748)造
686	有形民俗	如意輪観音像	益子・城内		江戸	享保3年(1718)造
687	有形民俗	二十三夜供養塔	益子・城内		江戸	寛政4年(1792)造
688	有形民俗	梵字碑	益子・城内		江戸	元文2年(1737)造
689	有形民俗	道標	益子・城内		不詳	
690	有形民俗	二十三夜塔	益子・新町		江戸	寛政3年(1791)造
691	有形民俗	聖徳太子像	益子・新町		江戸	嘉永2年(1849)造
692	有形民俗	馬頭尊	益子・新町		江戸	元治1年(1864)造
693	有形民俗	祠	益子・新町南側		不詳	招魂社/愛宕神社の南/木造小祠
694	有形民俗	祠	益子・茶臼		不詳	愛宕山・三峰山/石造小祠に簡単な覆い
695	有形民俗	祠	益子・茶臼		不詳	サワラ様/石造小祠
696	有形民俗	益子町道路元標	益子・中宿		近代	確認済み(現存) / 鹿島神社内
697	有形民俗	征清記念碑	益子・中宿	鹿島神社	明治	確認済み(現存) / 明治35年(1902)造
698	有形民俗	祠	益子・古館		不詳	山の神/石造小祠
699	有形民俗	二十三夜供養塔	本沼		江戸	文政11年(1828)造

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
700	有形民俗	馬頭観世音	本沼		江戸	弘化3年(1846)造
701	有形民俗	奉供養十九夜念仏	山本		江戸	確認済み(現存)/享和4年(1804)造
702	有形民俗	祠	山本・荒宿		不詳	わらじを奉納/石造小建物
703	有形民俗	祠	山本・小聖		不詳	小聖神社/石造小祠
704	有形民俗	祠	山本・山居		不詳	虚空蔵様/石造小祠
705	有形民俗	龍神様	山本・根古屋		不詳	龍神様/木造小祠
706	有形民俗	二十三夜供養塔	山本・本郷		江戸	確認済み(現存)/寛政2年(1790)造
707	有形民俗	馬頭観音	山本・本郷		江戸	確認済み(現存)/文政3年(1820)造
708	有形民俗	二十三夜供養塔	山本・本郷		江戸	享保5年(1720)造
709	有形民俗	地藏尊像	山本・本郷		江戸	天保9年(1838)造
710	有形民俗	祠	山本・前畑		不詳	虚空蔵様/境三ノ宮神社境内/木造小祠
711	有形民俗	二十三夜塔	山本・松本		江戸	寛政3年(1791)造
712	有形民俗	奉造立聖徳太子像	山本・松本		江戸	寛政4年(1792)造
713	有形民俗	道標	山本・松本		昭和	昭和22年(1947)造
714	有形民俗	祠	山本・宮本		不詳	三ノ宮神社境内
715	有形民俗	稲荷様	山本・向原		不詳	稲荷様/古墳の上
716	有形民俗	祠	山本・若林		不詳	山の神/石造小祠
717	無形民俗	芦沼・鹿島前の行事	芦沼・鹿島前		不詳	8月第1日曜日
718	無形民俗	地藏さま	梅ヶ内・天神前		不詳	1月24日またはその前の日曜日
719	無形民俗	八幡さま	大郷戸		不詳	確認済み(現存)/10月第1日曜日/氏子・自治会長・当番が参加
720	無形民俗	不動さま	大郷戸・台	大郷戸公民館	不詳	確認済み(現存)/8月28日/お経・お札配り/高齢者・当番が出席
721	無形民俗	琴平まつり	大郷戸・台	大郷戸公民館	不詳	確認済み(現存)/11月15日付近の日曜日/神事・直会/豊作祈願
722	無形民俗	地藏講	大沢・風戸		不詳	1月下旬の日曜日
723	無形民俗	地藏講	大沢・風戸		不詳	1月下旬の日曜日
724	無形民俗	天神祭	大沢・風戸		不詳	12月初めの日曜日
725	無形民俗	大沢・御座内の行事	大沢・御座内		不詳	昔は3月18日
726	無形民俗	薬師祭	大沢・御霊前		不詳	8月12日
727	無形民俗	薬師祭	大沢・新福寺		不詳	お盆のころ
728	無形民俗	薬師祭	大沢・新福寺		不詳	お盆のころ
729	無形民俗	天神祭	大沢・新福寺		不詳	9月25日
730	無形民俗	観音祭	大沢・寺前		不詳	6月
731	無形民俗	大沢・仲田の行事	大沢・仲田		不詳	昔は8月17日
732	無形民俗	お日待	大平		不詳	確認済み(現存)/8月最終日曜日/昔は春にも行った
733	無形民俗	庚申さま	大平		不詳	確認済み(現存)/8月最終日曜日/お参り・直会
734	無形民俗	熊野神社大祭	大平・鶏足山	熊野神社	不詳	確認済み(現存)/9月最終日曜日/氏子・当番組中心/しめ縄の新調
735	無形民俗	熊野神社例祭	大平・鶏足山	熊野神社	不詳	確認済み(現存)/11月最終日曜日/氏子・当番組中心/餅をまく
736	無形民俗	熊野神社例祭	大平・鶏足山	熊野神社	不詳	確認済み(現存)/2月最終日曜日/氏子・当番組中心/餅をまく
737	無形民俗	おでっしゃま	大平・舟橋		不詳	2月22日前の日曜日/No.125 太子堂
738	無形民俗	じぞっこ	大平・松山		不詳	8月24日前の日曜日/No.126 お堂
739	無形民俗	薬師さま	小宅・日向		不詳	8月20日すぎの日曜日
740	無形民俗	上大羽・中ノ内の行事	上大羽・中ノ内		不詳	昔は8月25日
741	無形民俗	上山女芝居	上山	不在	不詳	確認済み(現存せず)/大正~昭和初期
742	無形民俗	権現祭	上山		不詳	確認済み(現存)/11月21日(現在は11月第3土曜日)
743	無形民俗	薬師さま	上山・北浦		不詳	No.136で昔は実施
744	無形民俗	観音さま	上山・宿		不詳	No.137で昔は7月17日と8月9日に実施
745	無形民俗	上山・宿の行事	上山・宿		不詳	昔はNo.138で、今は個人宅で実施

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
746	無形民俗	稲荷さま	上山・宿		不詳	No.553 で初午と11月の午の日近くの土曜か日曜日実施
747	無形民俗	大杉さま	上山・宿		不詳	No.554 で4月29日ごろ実施
748	無形民俗	大日さま	上山・向新田		不詳	No.139 で11月第2日曜日実施
749	無形民俗	地藏さま	上山・向新田		不詳	No.140 で2月の日曜日実施
750	無形民俗	地藏さま	上山・六反田		不詳	No.141 で4月24日またはその前の日曜日実施
751	無形民俗	北中・上京塚の行事	北中・上京塚		不詳	4月第1週の日曜日
752	無形民俗	八幡さま	北中・館坂		不詳	9月15日前後の日曜日
753	無形民俗	八日念仏	小泉		不詳	確認済み(現存) / 女人講(有志) / 日中実施
754	無形民俗	不動さま	小泉・入山		不詳	昔は毎月28日、今は4月28日
755	無形民俗	夏祭り	小泉・小田毛	小泉・梅ヶ内公民館	不詳	7月第3の土日月 / 子ども神輿・樽神輿
756	無形民俗	秋祭り	小泉・小田毛	公民館・三ノ宮神社	不詳	確認済み(現存) / 11月13日 / 神社で世話人を中心に神事
757	無形民俗	十九夜さま	小泉・小田毛		不詳	9月19日前の日曜日
758	無形民俗	どんど焼き(山の神)	小泉・旧小泉分校裏畑		不詳	確認済み(現存) / 1月の成人の日前後
759	無形民俗	観音さま	小泉・遠峰		不詳	1月17日前の日曜日
760	無形民俗	観音さま	小泉・遠峰		不詳	1月17日と9月17日
761	無形民俗	薬師まち	小泉・本田		不詳	昔は実施
762	無形民俗	十九夜さま	小泉・本田		不詳	1月19日前後の日曜日
763	無形民俗	観音さま	小泉・向原		不詳	1月17日前の日曜日
764	無形民俗	愛宕神社祭礼	下大羽	愛宕神社	不詳	確認済み(現存) / 11月第4日曜日 / 収穫祝い / しめ縄の新調
765	無形民俗	高尾神社祭礼	下大羽	高尾神社	不詳	確認済み(現存) / 11月第2日曜日 / 収穫祝い / しめ縄の新調
766	無形民俗	祇園祭	下大羽	八坂神社	不詳	確認済み(現存) / 7月第2日曜日 / 五穀豊穣・無病息災等
767	無形民俗	どんど焼き	下大羽		不詳	確認済み(現存) / 1月成人の日前の日曜日 / 育成会中心に役員等 / 12月に作成
768	無形民俗	お日待ち(じぞっこ)	下大羽		不詳	確認済み(現存) / 実施日不明 / 組ごと
769	無形民俗	お日待ち(じぞっこ)	下大羽		不詳	確認済み(現存) / 実施日不明 / 組ごと
770	無形民俗	薬師さま	下大羽・後田		不詳	7月初めの日曜日 / No.156 薬師堂
771	無形民俗	長堤八幡宮例大祭(大日さま)	長堤		不詳	確認済み(現存) / 10月第1日曜日 / 長堤太々神楽奉納
772	無形民俗	長堤・表宿の行事	長堤・表宿	個人	不詳	勤労感謝の日と初午の日
773	無形民俗	長堤・表宿の行事	長堤・表宿	個人	不詳	勤労感謝の日と初午の日
774	無形民俗	長堤・表宿の行事	長堤・表宿	個人	不詳	勤労感謝の日と初午の日
775	無形民俗	地藏さま	長堤・西山		不詳	8月の盆すぎ / 新田地区
776	無形民俗	虚空蔵さま	長堤・南郭		不詳	11月13日近くの日曜日 / 新田地区
777	無形民俗	加茂神社祭礼	七井	加茂神社	不詳	確認済み(現存) / 4月第2日曜日 / 五穀豊穣
778	無形民俗	地藏祭	七井	正法寺	不詳	8月末ころ / No.165 地藏堂
779	無形民俗	浅間神社祭礼	七井	浅間神社	不詳	確認済み(現存) / 11月第1日曜日 / 五穀豊穣
780	無形民俗	日枝神社例祭	七井	日枝神社	不詳	確認済み(現存) / 4月第1日曜日 / 五穀豊穣・家内安全等
781	無形民俗	日枝神社大祭	七井	日枝神社	不詳	確認済み(現存) / 11月第2日曜日 / 収穫祝い
782	無形民俗	日枝神社しめ縄づくり	七井	日枝神社	不詳	確認済み(現存) / 10月第2日曜日 / 大・小作成
783	無形民俗	ボウジボ	七井		不詳	確認済み(現存) / 十三夜に行う
784	無形民俗	七井・後町の行事	七井・後町		不詳	10月15日
785	無形民俗	七井・大和田の行事	七井・大和田		不詳	昔は1月24日頃の日曜日
786	無形民俗	観音祭	七井・上町		不詳	昔は8月に実施
787	無形民俗	観音祭	七井・上町		不詳	昔は8月に実施
788	無形民俗	祇園さま(八雲神社祭礼)	七井・祇園	八雲神社	不詳	確認済み(現存) / 夏休み始めの日曜日 / 神輿・山車・屋台出御



No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
789	無形民俗	田植念仏	七井・田子谷台		不詳	3月12日/No.175 薬師堂
790	無形民俗	一万燈	七井・田子谷台		不詳	8月9日/No.175 薬師堂
791	無形民俗	そば祭り	七井・仲町	公民館	不詳	確認済み(現存) / 11月15日
792	無形民俗	お月見会	七井・仲町		不詳	確認済み(現存) / 9月満月/文化財に含める?
793	無形民俗	高竈神社例祭(ふれあい祭)	生田目・和合神	高竈神社・公民館	不詳	確認済み(現存) / 11月1日
794	無形民俗	高竈神社例祭	生田目・和合神	高竈神社・公民館	不詳	確認済み(現存) / 7月第3日曜日
795	無形民俗	お焚き上げ	生田目・和合神	生田目公民館	不詳	確認済み(現存) / 成人の日付近の日曜日 / どんど焼きの簡易版
796	無形民俗	春日神社例大祭	塙	春日神社	不詳	確認済み(現存) / 11月13日 / 当番組と役員で実施
797	無形民俗	新嘗祭	塙	春日神社	不詳	確認済み(現存) / 11月23日 / 屋台・お囃子
798	無形民俗	盆踊り	塙	塙公民館	不詳	確認済み(現存) / 8月第1土曜日
799	無形民俗	地藏講	塙・下町道西		不詳	1月23日/No.186 地藏堂
800	無形民俗	白滝不動尊	塙・滝ノ脇		不詳	8月28日/No.187 白滝不動堂
801	無形民俗	薬師まち	塙・西側	明林寺	不詳	2月11日/No.189 明林寺薬師堂
802	無形民俗	馬頭講	塙・西側		不詳	1月18日/No.190 観音堂
803	無形民俗	塙・西側の行事	塙・西側		不詳	4月8日/No.188 聖観音堂
804	無形民俗	地藏講	塙・東側		不詳	1月23日/No.192 地藏堂
805	無形民俗	不動さま	塙・東側		不詳	8月28日/No.193 不動堂
806	無形民俗	地藏講	塙・東側		不詳	2月の日曜日/No.194 地藏堂
807	無形民俗	塙・星宮東側の行事	塙・星宮東側		不詳	盆踊りの日/No.196 不動堂
808	無形民俗	塙・星宮東側の行事	塙・星宮東側		不詳	昔は3月18日/No.197 観音堂
809	無形民俗	東田井お囃子	東田井	東田井お囃子保存会	江戸	夏祭り、秋祭り、風神祭
810	無形民俗	どんど焼き	東田井		不詳	確認済み(現存) / 1月の成人の日前後
811	無形民俗	地藏さま	東田井・大内		不詳	10月の日曜日/No.200 地藏堂
812	無形民俗	コウセバさま	東田井・大内		不詳	10月の日曜日/No.649 祠
813	無形民俗	鹿島神社節分	東田井・大内前	鹿島神社	不詳	確認済み(現存) / 2月3日夕方から/厄除け
814	無形民俗	風神祭	東田井・大内前	鹿島神社	不詳	確認済み(現存) / 8月最終日曜日/お囃子
815	無形民俗	夏祭り	東田井・大内前	鹿島神社内 八坂神社	不詳	確認済み(現存) / 7月20日付近の日曜日 / 子ども神輿・お囃子
816	無形民俗	秋祭り	東田井・大内前		不詳	確認済み(現存) / 11月8日/お囃子/収穫祭
817	無形民俗	愛宕さま	東田井・柿木沢		不詳	4月24日/No.201 愛宕神社
818	無形民俗	東田井・在家の行事	東田井・在家		不詳	3月3日に行事あり/No.202 薬師堂
819	無形民俗	アワシマさま	東田井・ジャク下		不詳	No.203 お堂
820	無形民俗	薬師さま	東田井・寺内		不詳	6月10日に実施/No.204 薬師堂
821	無形民俗	サワラ(佐原)さま	東田井・向原		不詳	確認済み(現存) / 9月第1日曜日/No.205 社殿
822	無形民俗	東田井・山ノ入の行事	東田井・山ノ入		不詳	お盆の時に行事あり/No.206 お堂
823	無形民俗	前沢・荒町の行事	前沢・荒町		不詳	昔は旧7月8日
824	無形民俗	地藏さま	前沢・荒町		不詳	
825	無形民俗	地藏さま	前沢・荒町		不詳	昔は実施
826	無形民俗	前沢・岡部の行事	前沢・岡部		不詳	昔は旧7月17日
827	無形民俗	稲荷さま	前沢・前沢屋敷		不詳	初午の日
828	無形民俗	お焚き上げ(どんど焼き)	益子	石並公民館・稲荷神社	不詳	確認済み(現存) / 1月第2日曜日/稲荷神社にお供え
829	無形民俗	高尾神社祭礼	益子	高尾神社	不詳	確認済み(現存) / 11月15日/鹿島神社宮司
830	無形民俗	サワラさま(甘酒まつり)	益子		不詳	確認済み(現存) / 11月第4日曜日
831	無形民俗	ミツミネさま	益子		不詳	確認済み(現存) / 11月第4日曜日
832	無形民俗	益子・合ノ田の行事	益子・合ノ田		不詳	11月15日/No.223 地藏堂
833	無形民俗	兼松芝居	益子・石並	不在	不詳	確認済み(現存せず) / 明治中~昭和初期
834	無形民俗	益子・北組の行事	益子・北組		不詳	海の日前後3日間

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
835	無形民俗	愛宕さま、三峰さま	益子・茶臼		不詳	11月末の日曜日
836	無形民俗	サワラさま	益子・茶臼		不詳	11月末の日曜日
837	無形民俗	益子・西久保の行事	益子・西久保		不詳	10月第3日曜日／ダンゴ祭り／No.232 三日月堂
838	無形民俗	稲荷さま	益子・西久保		不詳	No.233 社殿／2月第1日曜日
839	無形民俗	稲荷さま	益子・西の台		不詳	No.234 社殿／2月第1日曜日
840	無形民俗	稲荷さま	益子・向原		不詳	初午の日に実施／No.236 稲荷神社
841	無形民俗	夏祭り	本沼・老ヶ懐	産宮神社	不詳	確認済み(現存)／7月
842	無形民俗	秋祭り	本沼・老ヶ懐	本沼公民館	不詳	確認済み(現存)／11月23日
843	無形民俗	本沼・中坪の行事	本沼・中坪		不詳	1月3日
844	無形民俗	本沼・中坪の行事	本沼・中坪		不詳	6月11日
845	無形民俗	どんど焼き	山本	育成会	不詳	確認済み(現存)／1月15日付近の日曜日
846	無形民俗	どんど焼き	山本	育成会	不詳	確認済み(現存)／1月15日付近の日曜日
847	無形民俗	お手念仏(御天念仏)	山本		不詳	確認済み(現存)／3月15日付近の日曜日
848	無形民俗	加波山	山本		不詳	確認済み(現存)／4月第1日曜日
849	無形民俗	お手念仏(御天念仏)	山本・荒宿	本郷公民館	不詳	春の彼岸明けまたはその前の日曜日(3月15日付近)
850	無形民俗	アショーサンさま	山本・荒宿		不詳	わらじを奉納
851	無形民俗	不動さま	山本・池下		不詳	8月29日
852	無形民俗	地藏さま	山本・池下		不詳	昔は実施
853	無形民俗	薬師まち	山本・北		不詳	7月7日
854	無形民俗	山本・小聖の行事	山本・小聖		不詳	昔は旧6月10日
855	無形民俗	山の神	山本・山居台		不詳	確認済み(現存)／12月15日
856	無形民俗	地藏さま	山本・常願		不詳	昔は実施
857	無形民俗	山本祇園祭	山本・月山	八坂神社	不詳	確認済み(現存)／7月最終日曜日／屋台出御
858	無形民俗	地藏さま	山本・中城		不詳	旧1月24日
859	無形民俗	風祭	山本・中ノ内	松本公民館	不詳	確認済み(現存)
860	無形民俗	龍神さま	山本・根古屋		不詳	5月30日またはその前の日曜日
861	無形民俗	八幡祭礼	山本・八幡峠	八幡神社	不詳	確認済み(現存)／9月第2日曜日／五穀豊穣祈願
862	無形民俗	鹿島神社祭礼	山本・八幡峠	八幡神社内	不詳	確認済み(現存)／11月15日付近の日曜日／山本太々神楽披露
863	無形民俗	龍神祭	山本・八幡峠		不詳	確認済み(現存)／5月第4日曜日／あらしよけ
864	無形民俗	山本・前畑の行事	山本・前畑		不詳	11月15日前の日曜日
865	無形民俗	山本・前畑の行事	山本・前畑		不詳	昔は旧11月28日
866	無形民俗	オサンノンさま・山の神・タト神さま	山本・宮本		不詳	昔は旧9月19日
867	無形民俗	三ノ宮神社祭礼	山本・宮本		不詳	確認済み(現存)／11月15日
868	無形民俗	稲荷さま	山本・向原		不詳	初午の日
869	史跡等	倉田東遺跡	芦沼・倉田		縄文	散布地／縄文
870	史跡等	倉田遺跡	芦沼・倉田		歴史	散布地／土師・須恵
871	史跡等	坊ヶ峰遺跡	芦沼・倉田		縄文・歴史	散布地／須恵・石斧・石鏃・石器
872	史跡等	大郷戸南遺跡	大郷戸		縄文・古墳・歴史	集落跡／縄文・土師・須恵／1978年発掘
873	史跡等	大郷戸北遺跡	大郷戸・久保越		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
874	史跡等	大郷戸廃寺跡	大郷戸・寺前		中世	寺院跡／五輪塔・瓶子
875	史跡等	大郷戸・寺前遺跡	大郷戸・寺前		歴史	散布地／土師
876	史跡等	北運動場南遺跡	大沢・愛宕		縄文・歴史	散布地／縄文・土師
877	史跡等	大沢宿A遺跡	大沢・上町		歴史	散布地／土師
878	史跡等	風戸古宿遺跡	大沢・風戸		歴史	散布地／土師・須恵
879	史跡等	風戸遺跡	大沢・風戸		古墳・歴史	散布地／土師
880	史跡等	北運動場古墳群	大沢・北原		古墳	古墳・古墳跡／須恵／円墳4基、不明1～2基／現存なし

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
881	史跡等	北運動場東古墳群	大沢・北原		古墳	古墳群
882	史跡等	北運動場東遺跡	大沢・北原		縄文・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
883	史跡等	北原 A 遺跡	大沢・北原		弥生・古墳	散布地／弥生・土師
884	史跡等	北原 A 古墳群	大沢・北原		古墳	古墳群／円墳 5 基と所在目録に記載／石材は硬砂岩製
885	史跡等	七井中学校西遺跡	大沢・切付		歴史	散布地／土師・須恵
886	史跡等	北原 B 遺跡	大沢・御門平		弥生	散布地／弥生
887	史跡等	御霊前遺跡	大沢・御霊前		縄文・歴史	散布地／土製品・石製品・土師器・紡錘車・須恵器・鉄製品など
888	史跡等	御霊神社古墳群	大沢・御霊前		古墳	古墳群／2号墳の付近には12基の供養塚がある
889	史跡等	新福寺古墳群	大沢・新福寺		古墳	古墳群／1979～80年発掘／3号墳は畑地化
890	史跡等	新福寺遺跡	大沢・新福寺		弥生	散布地／弥生
891	史跡等	折実館	大沢・新福寺		中世	延命院廃寺跡／現在は畑地もしくは個人宅地
892	史跡等	北運動場南古墳	大沢・宗谷津		古墳	古墳跡／円墳 1 基
893	史跡等	宗ノ谷津遺跡	大沢・宗谷津		縄文・弥生・歴史	散布地／縄文・弥生・土師・須恵
894	史跡等	寺入遺跡	大沢・寺入		縄文	散布地／縄文
895	史跡等	入定塚北遺跡	大沢・寺前		縄文・弥生	散布地／縄文・弥生
896	史跡等	大沢・寺前遺跡	大沢・寺前		縄文・歴史	散布地／縄文・土師
897	史跡等	大沢宿 B 遺跡	大沢・仲田		歴史	散布地／土師
898	史跡等	仲之内古墳群	大沢・仲之内		古墳	古墳群／2号墳の墳頂部に民家の氏神
899	史跡等	名称不明の塚	大沢・仲之内		不詳	塚／塚 1 基
900	史跡等	名称不明の塚	大沢・仲之内		不詳	塚／塚 1 基
901	史跡等	大沢丸角遺跡	大沢・丸角		縄文・歴史	散布地／縄文・土師
902	史跡等	北原 B 古墳群	大沢・四本松		古墳	古墳群／土師／3～6号墳は畑の中
903	史跡等	四本松遺跡	大沢・四本松		弥生・古墳・歴史	散布地／弥生・土師
904	史跡等	荒屋敷遺跡	大平・荒屋敷		古墳・歴史	散布地／土師
905	史跡等	坂塩田遺跡	大平・坂塩田		歴史	散布地／土師・須恵
906	史跡等	桜町遺跡	大平・桜町		縄文・歴史	散布地・窯跡／縄文・土師・須恵
907	史跡等	トヤの場遺跡	大平・トヤの場		弥生・歴史	散布地／弥生・須恵・石鏃
908	史跡等	舟橋古墳	大平・舟橋		古墳	古墳
909	史跡等	名称不明の塚	大平・舟橋		不詳	古墳カ／古墳カ 1 基一部残存
910	史跡等	舟橋東遺跡	大平・舟橋		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
911	史跡等	屋敷前遺跡	大平・屋敷前		歴史	散布地／土師・須恵
912	史跡等	大羽免遺跡	小宅・大羽免		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
913	史跡等	小竹 A 遺跡	小宅・小竹		古墳	散布地／土師
914	史跡等	小竹 B 遺跡	小宅・小竹		古墳	散布地／土師
915	史跡等	西坪古墳群	小宅・西坪		古墳	古墳群／勾玉・管玉・耳環・銅釧・ガラス玉等／石室は芦沼石
916	史跡等	小宅小学校東遺跡	小宅・八月田		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
917	史跡等	日向古墳群	小宅・日向		古墳	古墳群／直刀等出土と伝わるが現存せず／石室は芦沼石
918	史跡等	小宅城跡	小宅・日向		中世	確認済み(現存)／城館跡・平山城／土塁・空堀が残る
919	史跡等	尾羽寺跡	上大羽		中世	瓦
920	史跡等	名称不明の窯跡	上大羽		歴史	窯跡／須恵
921	史跡等	京ヶ坂遺跡	上大羽・京ヶ坂・堂平		縄文・歴史	散布地／縄文・土師・須恵・磨石・凹石
922	史跡等	切払遺跡	上大羽・切払		歴史	散布地／須恵
923	史跡等	倉見遺跡	上大羽・倉見		歴史	散布地
924	史跡等	倉見沢窯跡	上大羽・倉見		歴史	窯跡／須恵／栗生窯跡群 1968・1979年発掘
925	史跡等	笹峰遺跡	上大羽・笹峰		縄文	散布地／縄文



No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
926	史跡等	滝の入窯跡	上大羽・滝の入		歴史	窯跡／栗生窯跡群 1954年発掘
927	史跡等	尾羽氏館	上大羽・寺前		不詳	大倉神社・尾羽寺とともに建築されたとする
928	史跡等	名称不明の塚	上大羽・堂平		不詳	塚／塚4基
929	史跡等	京ヶ坂北遺跡	上大羽・堂平		歴史	散布地／土師
930	史跡等	名称不明の塚	上大羽・西山		不詳	塚
931	史跡等	名称不明の塚	上大羽・西山		不詳	塚／塚1基
932	史跡等	畑ヶ入A遺跡	上大羽・畑ヶ入		縄文・歴史	散布地／縄文・須恵
933	史跡等	畑ヶ入B遺跡	上大羽・畑ヶ入		縄文	散布地／縄文
934	史跡等	東山遺跡	上大羽・東山		縄文	散布地／縄文
935	史跡等	名称不明の窯跡	上大羽・東山		歴史	窯跡カ
936	史跡等	脇谷窯跡	上大羽・脇谷		歴史	窯跡／須恵・杯／栗生窯跡群 1981年発掘
937	史跡等	柿木遺跡	北中・柿木		歴史	散布地／土師・須恵
938	史跡等	片蓋遺跡	北中・片蓋		縄文・歴史	散布地／縄文・土師
939	史跡等	下京塚遺跡	北中・下京塚・ 中之内・若林		歴史	散布地／土師・須恵
940	史跡等	館坂城跡	北中・館坂		中世	確認済み(現存)／城館跡・山城／館宮坂城・ 石岡城とも
941	史跡等	堂平古墳	北中・堂平		古墳	古墳／墳丘上に五輪塔の一部あり
942	史跡等	中村前遺跡	北中・中村前		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
943	史跡等	名称不明の塚	北中・中村前		古墳？	古墳カ
944	史跡等	北中八幡宮南遺跡	北中・八幡前		歴史	散布地／土師・須恵
945	史跡等	東原遺跡	北中・東原		歴史	散布地／土師・須恵
946	史跡等	小泉分校裏遺跡	小泉		歴史	散布地／土師・須恵
947	史跡等	小田毛遺跡	小泉・小田毛		縄文	散布地／縄文
948	史跡等	山根遺跡	小泉・五領		縄文	散布地／縄文・須恵
949	史跡等	小泉館	小泉・五領		中世	平山城／土塁現存
950	史跡等	遠峰遺跡	小泉・遠峰		縄文	散布地／縄文
951	史跡等	長峰遺跡	小泉・長峰		縄文・弥生・ 歴史	散布地／縄文・弥生・土師・須恵
952	史跡等	長峰南遺跡	小泉・長峰		縄文・歴史	散布地／縄文・土師
953	史跡等	八幡池南遺跡	小泉・本田		歴史	散布地／土師
954	史跡等	欠上り遺跡	下大羽・欠上		縄文	散布地／縄文
955	史跡等	金坂遺跡	下大羽・金坂		縄文	散布地／縄文・石鏃
956	史跡等	西ノ台遺跡	下大羽・西ノ台		縄文・弥生・ 歴史	散布地／縄文・弥生・土師・須恵・石鏃
957	史跡等	下大羽原遺跡	下大羽・原		歴史	散布地／土師・須恵
958	史跡等	富士山城跡	下大羽・富士山		中世	城館跡／狼煙台・物見台跡カ
959	史跡等	長堤遺跡	長堤		縄文・弥生・ 古墳・歴史	散布地／土器片・須恵器・石製紡錘車など ／1975年発掘
960	史跡等	長堤八幡古墳群	長堤		古墳	古墳群／馬具・刀子・管玉・埴輪／2～4・ 9号墳は削平
961	史跡等	長堤八幡遺跡	長堤		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
962	史跡等	久保前遺跡	長堤・久保前		歴史	散布地／土師
963	史跡等	田野城跡・田野陣屋	長堤・宿		中世・近世	確認済み(現存)／城館跡／田野陣屋は延 宝4年(1676) 田野城本丸・二の丸に立地
964	史跡等	長堤大日堂古墳	長堤・新田		古墳	古墳／刀装具3
965	史跡等	新田入遺跡	長堤・新田入		歴史	散布地／土師
966	史跡等	新田山北遺跡	長堤・新田山		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
967	史跡等	新田山古墳群	長堤・新田山		古墳	古墳群／直刀片・剣片・甲冑片・埴輪片等
968	史跡等	新田山遺跡	長堤・新田山		縄文・古 墳・歴史	散布地／縄文・弥生・土師・須恵
969	史跡等	田野中学校校庭内遺跡	長堤・天神入		歴史	散布地／土師・須恵
970	史跡等	新田入南遺跡	長堤・長峰・向原		歴史	散布地／土師
971	史跡等	西山古墳	長堤・西山		古墳	古墳／埴輪片12／墳丘は削平

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
972	史跡等	西山遺跡	長堤・西山		歴史	散布地／土師・須恵
973	史跡等	西山南古墳群	長堤・西山		古墳	古墳群／円墳2基
974	史跡等	西山窯跡	長堤・西山		歴史	窯跡／瓦／西山・本沼窯跡群
975	史跡等	長堤八幡宮旧鳥居礎石	長堤・八幡原	長堤八幡宮	不詳	確認済み(現存)／古墳の天井石を礎石として利用
976	史跡等	大和田遺跡	七井・大和田		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
977	史跡等	高尾神遺跡	七井・山王		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
978	史跡等	矢島城跡	七井・山王後		平安	長久元年(1040)七井頼治が築城
979	史跡等	田子谷遺跡	七井・田子谷		縄文・古墳	散布地／縄文・土師・須恵
980	史跡等	田中遺跡	七井・田中		古墳	散布地／土師・須恵
981	史跡等	田中古墳群	七井・田中		古墳	古墳群／現存は5基／3号墳に八雲神社
982	史跡等	七井城跡	七井・仲町		中世	確認済み(現存)／城館跡／土塁・空堀が残る
983	史跡等	東台遺跡	七井・東台		縄文・古墳・歴史	集落跡／縄文・土師・須恵／1985年発掘
984	史跡等	向北原古墳群	七井・向北原		古墳	古墳群／埴輪・土師等／1号墳は削平
985	史跡等	向北原遺跡	七井・向北原		古墳	住居跡、方形周溝墓、土師出土／1978年発掘
986	史跡等	向北原南遺跡	七井・向北原		古墳・歴史	集落跡／土師器・須恵器・紡錘車・鉄鏃など／1980年発掘
987	史跡等	生田目北遺跡	生田目・北大境		縄文・弥生・歴史	散布地／縄文・弥生・須恵
988	史跡等	車堂遺跡	生田目・車堂		縄文・弥生・古墳・歴史	集落跡／壺・高坏・手捏土器・紡錘車／1983年発掘
989	史跡等	生田目城跡	生田目・館山		中世	城館跡・平山城／三の丸跡に正覚寺／明治初期に寺子屋あり
990	史跡等	鶴内遺跡	生田目・鶴内		歴史	散布地／土師・須恵
991	史跡等	高竈神社東遺跡	生田目・和合神		縄文・弥生	散布地／縄文・弥生
992	史跡等	生田目古墳群	生田目・和合神		古墳	古墳群／1・2号墳は削平
993	史跡等	塙北A遺跡	塙		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
994	史跡等	塙北B遺跡	塙		弥生・古墳・歴史	散布地／弥生・土師・須恵
995	史跡等	塙遺跡	塙・愛宕前		旧石器・歴史	集落跡／土師・須恵・石器／1981年発掘
996	史跡等	大高山遺跡	塙・大高山		縄文・弥生・古墳・歴史	集落跡／縄文・弥生・土師・須恵／1979年発掘
997	史跡等	御料地遺跡	塙・上西谷		歴史	散布地／土師
998	史跡等	星の宮ケカチ遺跡	塙・ケカチ		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
999	史跡等	“星の宮ケカチ遺跡発掘地点”	塙・ケカチ		歴史	集落跡／須恵器・佐波理の匙・墨書土器など／1975年発掘
1000	史跡等	中城	塙・中城		鎌倉	伝宇都宮氏家臣塙能登守大善が築城
1001	史跡等	大高山南遺跡	塙・中城		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
1002	史跡等	バツカン塚古墳群	塙・西浦		古墳	古墳群
1003	史跡等	西谷遺跡	塙・西谷		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
1004	史跡等	御料地北遺跡	塙・西谷		歴史	散布地／土師・須恵
1005	史跡等	山の神古墳	塙・星の宮		古墳	古墳
1006	史跡等	星の宮遺跡	塙・星の宮		旧石器・古墳・歴史	散布地／土師・石器
1007	史跡等	星の宮A遺跡	塙・星の宮		旧石器・古墳・歴史	集落跡／削器・細石刃・礫器・石核剥片／1979年発掘
1008	史跡等	星の宮西側遺跡	塙・星宮西側		古墳・歴史	散布地／土師
1009	史跡等	大内前遺跡	東田井・大内前		弥生・歴史	散布地／弥生・土師・須恵
1010	史跡等	東田井・岡古墳群	東田井・金井・真岡市岡		古墳	古墳群／埴輪／東田井側3基現存

No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
1011	史跡等	切通遺跡	東田井・切通		歴史	散布地／土師・須恵
1012	史跡等	東光寺跡	東田井・在家		不詳	確認済み(現存)
1013	史跡等	東田井遺跡	東田井・寺内		弥生	散布地／弥生
1014	史跡等	細内遺跡	東田井・細内		歴史	散布地／土師
1015	史跡等	東田井向原A遺跡	東田井・向原		古墳・歴史	散布地／土師
1016	史跡等	東田井向原B遺跡	東田井・向原		縄文・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
1017	史跡等	坑道跡	東田井・山ノ入		昭和	確認済み(現存)／戦時中、石礫の代用品になる石を採掘していたという
1018	史跡等	荒町古墳群	前沢・荒町		古墳	古墳群／勾玉・耳環等／現存9基
1019	史跡等	狐塚古墳群	前沢・荒町		古墳	古墳群／埴輪片／1・6号墳は現存／1号墳は狐塚古墳と称す
1020	史跡等	荒町遺跡	前沢・荒町		縄文	散布地／縄文
1021	史跡等	名称不明の塚	前沢・岡部		不詳	塚／須恵／塚1基
1022	史跡等	天王原遺跡	前沢・天王原		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
1023	史跡等	合群遺跡	益子・合群		古墳	散布地／土師
1024	史跡等	赤法花遺跡	益子・赤法花・前山		縄文・古墳	散布地／縄文・土師・須恵
1025	史跡等	荒久台古墳群	益子・荒久台		古墳	古墳群／金環・ガラス小玉・大刀・箭約等／1号墳は天王塚古墳と称す
1026	史跡等	荒久台遺跡	益子・荒久台		縄文	散布地／縄文・石斧
1027	史跡等	石並遺跡	益子・石並		縄文・弥生・古墳・歴史	散布地／縄文・弥生・土師・須恵
1028	史跡等	石並古墳群	益子・石並		古墳	古墳群／鏡・管玉出土とあるが所在不明／円墳3～4基分布
1029	史跡等	石並城跡	益子・石並		中世	城館跡・出城
1030	史跡等	一ノ沢鳴神遺跡	益子・一ノ沢		縄文	散布地／縄文
1031	史跡等	益子陣屋	益子・内町	個人	江戸	現存せず
1032	史跡等	大野A遺跡	益子・大野		縄文	散布地／縄文
1033	史跡等	大野B遺跡	益子・大野		縄文	散布地／縄文
1034	史跡等	北組遺跡	益子・北組		歴史	散布地／土師・須恵
1035	史跡等	道祖土西遺跡	益子・北郷谷		縄文	散布地／縄文
1036	史跡等	北郷谷遺跡	益子・北郷谷		古墳	散布地／土師
1037	史跡等	北郷谷古墳	益子・北郷谷		古墳	古墳／円墳1基
1038	史跡等	栗崎北遺跡	益子・栗崎		歴史	散布地／土師・須恵
1039	史跡等	栗崎遺跡	益子・栗崎		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
1040	史跡等	古聖古墳群	益子・古聖		古墳	古墳群／埴輪破片・管玉・切子玉・耳環／8号墳は駒塚古墳と称す
1041	史跡等	道祖土遺跡	益子・道祖土		縄文・弥生	散布地／縄文・弥生
1042	史跡等	名称不明の塚	益子・道祖土		不詳	塚／塚1基
1043	史跡等	北組西遺跡	益子・十二社		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
1044	史跡等	益子古館城跡(根古屋城跡)	益子・館八幡		中世	城館跡
1045	史跡等	一ノ沢土平遺跡	益子・土平		古墳	散布地／土師
1046	史跡等	寺前遺跡	益子・寺前		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
1047	史跡等	古聖北遺跡	益子・天王		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
1048	史跡等	名称不明の塚	益子・泥部		不詳	塚カ／土師／塚カ1基
1049	史跡等	根古屋遺跡	益子・根古屋		古墳	散布地／土師
1050	史跡等	聖ヶ丘遺跡	益子・聖ヶ丘		縄文・弥生・古墳	散布地／縄文・弥生・土師
1051	史跡等	丸岳古墳群	益子・丸岳		古墳	古墳群／勾玉・切子玉・ガラス小玉等
1052	史跡等	谷津久保遺跡	益子・谷津久保		古墳	散布地／土師・須恵
1053	史跡等	カスガ入窯跡群	本沼		歴史	窯跡／須恵・瓦／西山・本沼窯跡群
1054	史跡等	古ヶ原窯跡群	本沼		歴史	窯跡／須恵／西山・本沼窯跡群
1055	史跡等	本沼東遺跡	本沼・牛ヶ窪		縄文・歴史	散布地／縄文・土師



No.	種別	名称等	所在地等	所有者 (管理者)	時代	備考
1056	史跡等	本沼大塚遺跡	本沼・大塚		縄文	塚カ・散布地／縄文・石皿
1057	史跡等	北山窯跡	本沼・北山		歴史	窯跡／須恵／西山・本沼窯跡群
1058	史跡等	北山遺跡	本沼・北山		縄文・歴史	散布地／縄文・土師・須恵・瓦
1059	史跡等	毘沙門入窯跡群	本沼・毘沙門		歴史	窯跡／須恵／西山・本沼窯跡群
1060	史跡等	本沼遺跡	本沼・広畑		縄文・古墳・歴史	集落跡／縄文・土師・須恵／1978年発掘
1061	史跡等	本沼古墳	本沼・富士山		古墳	古墳／埴輪片出土と伝わるが現存せず
1062	史跡等	宮脇遺跡	本沼・宮脇		縄文・歴史	散布地／縄文・土師・須恵・石鏃
1063	史跡等	谷津入窯跡群	本沼・谷津		歴史	窯跡／須恵・瓦／西山・本沼窯跡群
1064	史跡等	上の台窯跡	山本・上の台		歴史	窯跡／須恵／原・境窯跡群
1065	史跡等	瓜平遺跡	山本・瓜平		縄文・歴史	散布地／縄文・瓦・凹石・石皿
1066	史跡等	瓜平南遺跡	山本・瓜平		縄文	散布地／縄文
1067	史跡等	柿平遺跡	山本・柿平		縄文・歴史	散布地／縄文・土師
1068	史跡等	久保田台遺跡	山本・久保田台		歴史	散布地／土師・須恵
1069	史跡等	栗山遺跡	山本・栗山		歴史	散布地／土師・須恵
1070	史跡等	原東窯跡群	山本・神戸		歴史	窯跡／須恵器／原・境窯跡群 1983～84年発掘
1071	史跡等	柿平南遺跡	山本・坂下		縄文	散布地／縄文
1072	史跡等	山居台遺跡	山本・山居台		縄文・弥生・古墳・歴史	散布地／縄文・弥生・土師・須恵・凹石・石斧
1073	史跡等	“山居台遺跡発掘地点”	山本・山居台		縄文・弥生	集落跡／縄文・弥生・石皿・石斧／1984年発掘
1074	史跡等	篠倉遺跡	山本・篠倉		縄文・歴史	散布地／縄文・土師
1075	史跡等	篠倉窯跡	山本・篠倉		歴史	窯跡／須恵・瓦／原・境窯跡群
1076	史跡等	新宿台遺跡	山本・新宿台		縄文・古墳・歴史	集落跡／縄文・土師・須恵・凹石・石斧／1976年発掘
1077	史跡等	本郷・寺前遺跡	山本・寺前		古墳	散布地／土師・須恵
1078	史跡等	道精ヶ入遺跡	山本・道瀬ヶ入		歴史	散布地／土師・須恵
1079	史跡等	山本八幡宮前遺跡	山本・西ノ入		古墳・歴史	散布地／土師・須恵
1080	史跡等	原A遺跡	山本・原		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵・瓦
1081	史跡等	原B遺跡	山本・原		縄文	散布地／縄文
1082	史跡等	山居台下遺跡	山本・原西		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
1083	史跡等	原西A遺跡	山本・原西		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
1084	史跡等	原西B遺跡	山本・原西		縄文・古墳・歴史	散布地／縄文・土師・須恵
1085	史跡等	フジナ入遺跡	山本・フジナ入・丸峰		歴史	散布地／須恵
1086	史跡等	藤ノ輪遺跡	山本・藤ノ輪		歴史	散布地／土師・須恵
1087	史跡等	山本城跡	山本・堀ノ内		中世	確認済み（現存）／城館跡
1088	史跡等	八坂神社北遺跡	山本・松本		縄文・古墳	散布地／縄文・土師
1089	史跡等	三の宮神社遺跡	山本・松本		縄文・古墳	散布地／縄文・土師・埴輪
1090	史跡等	山居台館	山本・松本		不詳	見晴台または狼煙台カ／土溝現存
1091	史跡等	フジナ入窯跡	山本・丸峰		歴史	窯跡／原・境窯跡群
1092	史跡等	丸峰窯跡	山本・丸峰		歴史	窯跡／須恵／原・境窯跡群
1093	史跡等	丸峰遺跡	山本・丸峰		縄文・歴史	散布地／縄文・須恵
1094	史跡等	丸山下遺跡	山本・丸山下		歴史	散布地／須恵
1095	史跡等	山本稻荷神社古墳	山本・向原		古墳	古墳／別称稻荷塚古墳
1096	史跡等	若林遺跡	山本・若林		縄文・歴史	散布地／縄文・土師
1097	天然記念物	ゴヨウマツ	七井	個人	不詳	樹齢不明
1098	天然記念物	サザンカ	生田目	個人	不詳	確認済み（現存）／樹齢不明
1099	天然記念物	マツ	生田目	個人	不詳	確認済み（現存）／種類不明
1100	天然記念物	イチョウ	東田井・大内前		不詳	確認済み（現存）／東田井分校跡地
1101	天然記念物	エノキ	益子	個人	不詳	樹齢不明

## 益子町歴史文化基本構想

---

発行日 平成 29 年（2017）1 月

発 行 益子町教育委員会

編 集 益子町教育委員会生涯学習課

〒 321-4217 栃木県芳賀郡益子町大字益子 3667 番地 3

TEL. 0285-72-3101 FAX. 0285-72-3110

印 刷 株式会社クイックス

〒 102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-13 ニュー原鉄ビル 5 F

---

